建 築 工 事 仕 様 書

Ⅰ. 工 事 概 要

1. 工 事 場 所　　鳥取県米子市皆生温泉三丁目18-3（皆生プレイパーク内）
2. 敷 地 面 積　　1,684.37 m2
3. 地 域 地 区　　都市計画地域（⊙内 ・外）　市街化調整区域（⊙内 ・外）
　　　　　　　　　用途地域（ 商業地域 ）　防火地域（ 22条地域 ）
4. 建 物 概 要

	番号	名 称	工事種別	構 造	階数	建築面積(㎡)	延べ面積(㎡)
増築部分		畜舎	増築	W造	1	42.55	42.55
既存部分		畜舎	改修	W造	1	32.69	32.69
							計 75.24
既存別棟		犬猫センター	——	W造	1	243.22	235.56
		車イス駐車場	——	S造	1	7.93	22.18
		上屋	——	S造	1	3.34	

Ⅱ. 建築工事仕様

1. 共通仕様
（1） 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和７年版」（以下、「標準仕様書」という。）による。
ただし、アスベスト成形板の処理等は、国土交通省官房官庁営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和７年版」（以下「改修標準仕様書」という。）による。
（2） 請負者は、建築基準法に基づく完了検査（中間検査含む）の検査には、特定行政庁（建築主事等）が求める検査に必要な資料等（報告書等）を用意する。
（3） 電気及び機械設備工事を本工事に含む場合、電気及び機械設備工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。

2. 特記仕様
（1） 項目は番号に○印のついたものを適用する。
（2） 特記事項は⊙印のついたものを適用する。
⊙印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。
⊙印と㊟印のついた場合は共に適用する。
（3） 項目に記載の（　　）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。［　　］内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を表す。
（4） Ｇ印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（以下「グリーン購入法」という。）の特定調達品目を示す。判断基準は「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和２年２月７日変更閣議決定）」（環境省のホームページからダウンロード可能）による。
（5） 関係法令（条例を含む）の改正等により、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応等について、監督職員と協議を行うものとする。
（6） 材料及び製造所等の記載は順不同である。

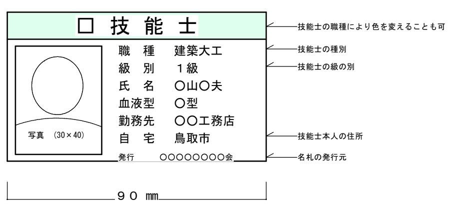
章		項 目	特 記 事 項
① 一般共通事項	①	適用基準等	⊙※ 建築工事標準詳細図（令和７年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（以下「標準詳細図」という。） ⊙※ 建築工事監理指針（令和７年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ⊙ 建築物解体工事共通仕様書（令和４年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ⊙ 建築改修工事監理指針（令和７年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
	②	官公庁その他への手続（1.1.3）	工事の施工に伴い必要な官公署、その他への手続き、検査並びにその費用は、本工事請負者の負担とする。
	3	電気保安技術者（1.3.3）	工事現場におく電気保安技術者は、鳥取県総務部営繕工事自家用電気工作物保安規定第５条に定める工事担当技術者の職務を補佐し、当該工事の工事期間中自家用電気工作物の保安の業務を行うものとする。
	④	工事安全計画書（1.3.7）	建築工事安全施工技術指針及び建設公衆災害防止対策要綱を参考に、工事安全計画書を監督職員に提出する。
	⑤	発生材の処理等（1.3.11）	・ 引き渡しを要するもの（　　） ・ 現場において再利用を図るもの（　　） ⊙ 再生資源化を図るもの ⊙ コンクリート塊　⊙ アスファルトコンクリート塊　⊙ 建設発生木材
	⑥	環境への配慮（1.4.1）	化学物質を放散させる建築材料等 1）本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上げ塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料にトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は可塑剤（フタル酸ジーｎーブチル及びフタル酸ジー２ーエチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。 2）ホルムアルデヒド放散量の区分において、規制対象外とは次の①又は②に該当する材料を指す。 ① 建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ② 建築基準法施行令第２０条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 3）ホルムアルデヒド放散量の区分において、第三種とは次の①又は②に該当する材料を指す。 ① 建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ② 建築基準法施行令第２０条の７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成１２年法律第１００号）に基づく環境物品等の調達の推進に関する基本方針における公共工事の配慮事項（資材（材料及び機材を含む）の梱包及び容器は、可能な限り簡易であって、再利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること）に留意 する。
	⑦	材料の品質等（1.4.2）	材料・機材等の品質及び性能 1）本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 2）備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督員の承諾を受ける。 3）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。 4）本工事に使用する材料のうち、5）に指定する材料の製造業者等は、次の①～⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し）を監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。 ① 品質及び性能に関する試験データを整備している。 ② 生産施設及び品質の管理を適切に行っている。 ③ 安定的な供給が可能である。 ④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得している。 ⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性がある。 ⑥ 販売、保守等の営業体制が整えられている。 5）製造業者等に関する資料の提出を定める材料

床型枠用鋼製デッキプレート	オーバーヘッドドア
鉄骨柱下無収縮モルタル	防水剤
無収縮グラウト材	現場発泡断熱材
乾式保護材	フリーアクセスフロア
既成調合モルタル	可動間仕切
ルーフドレン	移動間仕切
吸水調整材	トイレブース
アルミニウム製建具	煙突用成形ライニング材
鋼製建具	天井点検口
鋼製軽量建具	床点検口
ステンレス製建具	グレーチング
錠前類	屋上緑化システム
クローザ類	トップライト
自動扉機構	エポキシ樹脂
自閉式上吊り引戸機構	ポリマーセメントモルタル
重量シャッター	既成調合目地材
軽量シャッター	鋳鉄製ふた

⑧ 技能士（1.5.2）
下表により適用する技能士は、適用する工事作業中、１名以上の者が自ら作業をするとともに、他の技能者に対して、施工品質の向上を図るための作業指導を行う。
（技能士：職業能力開発促進法による一級技能士又は単一等級の資格を有する者）
また、その技能士はその者が技能士であることがわかる名札（下図参考）を常時着用する。

工事種目	技能検定職種	技能検定作業
仮設工事	とび	⊙ とび作業
鉄筋工事	鉄筋施工	⊙ 鉄筋組立作業
コンクリート工事	型枠施工	・ 型枠工事作業
	コンクリート圧送施工	⊙ コンクリート圧送工事作業
鉄骨工事	鉄工	・ 構造物鉄工作業
	とび	・ とび作業
	塗装	・ 建築塗装作業
コンクリートブロック・ＡＬＣ	ブロック建築	・ コンクリートブロック工事作業
パネル工事	エーエルシーパネル施工	・ エーエルシーパネル工事作業
防水工事	防水施工	・ アスファルト防水工事作業 ・ ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・ アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ・ 塩化ビニル系シート防水工事作業 ・ セメント系防水工事作業 ・ シーリング防水工事作業 ・ 改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ・ ＦＲＰ防水工事作業
石工事	石材施工	・ 石張り作業
タイル工事	タイル張り	・ タイル張り作業
木工事	建築大工	⊙ 大工工事作業
屋根及びとい工事	建築板金	⊙ 内外装板金作業
	スレート施工	・ スレート工事作業
金属工事	内装仕上施工	・ 鋼製下地工事作業
	建築板金	・ 内外装板金作業
左官工事	左官	⊙ 左官作業
建具工事	サッシ施工	⊙ ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	⊙ ガラス工事作業
	自動ドア施工	・ 自動ドア施工作業
	建具製作	・ 木製建具加工作業
	ガラス用フィルム施工	・ 建築フィルム作業
カーテンウォール工事	カーテンウォール施工	・ 金属製カーテンウォール工事作業
	サッシ施工	・ ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	・ ガラス工事作業
塗装工事	塗装	・ 建築塗装作業
内装工事	内装仕上施工	・ プラスチック系床仕上げ工事作業 ・ カーペット系床仕上げ作業 （２級及びﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系仕上げ工事作業を含む） ⊙ ボード仕上げ工事作業
	表装	⊙ 壁装作業
排水工事	配管	・ 建築配管作業
舗装工事	路面表示施工	・ 溶解ペイントマーカー工事作業 ・ 加熱ペイントマシンマーカー工事作業
植栽工事	造園	・ 造園工事作業
畳工事	畳製作	・ 畳製作作業
外壁改修工事	樹脂接着剤注入施工	・ 樹脂接着剤注入工事作業
	左官	・ 左官作業
	タイル張り	・ タイル張り作業

《技能士名札参考図》



9 化学物質の濃度測定（1.5.9）
1）測定対象室のホルムアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼンの室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督職員に報告する。
・パラジクロロベンゼンを追加して分析を行う
測定対象室（　　）
2）パッシブ型採取機器を用いて測定を行う場合には、次の要領で測定及び分析を行う。
①３０分間換気
測定対象室のすべての窓及び扉（造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む）を開放し、３０分間換気する。
②５時間閉鎖
①の後、測定対象室すべての窓及び扉を５時間閉鎖する。ただし、造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放したままとする。
③測定
イ ②の状態のままで測定する。
ロ 測定時間は、原則として２４時間とする。ただし、工程等の都合により、２４時間測定が行えない場合は、８時間測定とする。なお、８時間測定の場合は、午後２時～３時が測定時間帯の中央となるよう、１０時３０分～１８時３０分までの時間帯で測定する。
ハ 測定回数は１回とし、複数回の測定は不要とする。
④分析
測定対象化学物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する。
⑤その他
監督職員から測定方法に関する注意事項等の指示を受ける。

⑩ 完成写真
下記のものを監督職員に提出する。

区 分	分類・規格	撮影箇所	部数	備考
⊙※ 工事記録写真	カラーサービス判	各工種の工程毎	１部	
⊙※ 完成写真	カラーサービス判	⊙ 内部 指示箇所	２部	
		⊙ 外部 指示箇所	２部	
・	カラーキャビネ判	・ 内部 箇所	部	
		・ 外部 箇所	部	
・ パネル	カラー	・ 四ツ切 箇所	２部	
		・ 半切 箇所		
		・ 全紙 箇所		
・				

⊙ 電子データ又はネガの提出[工事記録写真]　（・ 要 ⊙ 不要）
⊙ 電子データ又はネガの提出[完成写真]　（⊙ 要 ・ 不要）

⑪ 完成時の提出図書（1.7.1~3）
下記のものを監督職員に提出する。
※ 原図Ａ１版又はＡ２版（設計図の第２原図訂正不可）　１ 部
※ ＣＡＤデータ　１ 式
※ 原図の大型コピー（白焼）の２つ折製本　２ 部
※ 縮小版２つ折製本（Ａ４版）　２ 部
・ 複写 縮小版Ａ３バラ焼　部
完成図の種類及び内容
⊙ 案内図・配置図・面積表 ： 配置図には外構整備、屋外給排水系統図含む（ＢＭの表示）。
⊙ 平面図 ： 室名、耐震壁（防火壁）、避難施設等を表示する。
⊙ 立面図 ： 外壁仕上等を表示する。
⊙ 断面図 ： 階高、天井高等を表示する。
⊙ 仕上表 ： 屋外、屋内（各階）の仕上表を表示する。
・ 構造図 ： 杭、構造躯体等を表示する。
⊙ その他（ 設計図書に準ずる ）
⊙ 原図ケース・製本図面の背表紙に「施設コード・部局名称」ラベルを貼付ける。

⑫ 施工図及び施工計画書（1.7.2）
提出した施工図及び施工計画書の著作に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。

⑬ 設備工事との取り合い
設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。

設備工事との取り合い		建 築	電 気	機 械
⊙ コンクリート壁、床、梁貫通部	補強	※	・	・
	スリーブ・箱入れ	・	※	※
・ 鉄骨造の開口及び補強		※	・	・
・ 照明器具・幹線等の吊りボルト用インサート（釘処理共）		・	※	・
・ 軽量鉄骨壁のボックス取付用下地		・	※	・
⊙ 埋込分電盤・端子盤・プルボックスの仮枠及び埋込部分の補強	仮枠	・	※	・
	補強	※	・	・
・ ＯＡフロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強		※	・	・
⊙ 埋込型機器取付用の天井壁の切込加工、下地の補強	切込	・	※	※
	補強	※	・	・
・ 自動開閉装置を取付ける防火戸の切込み、補強及びドアクローザ、フロアヒンジ			・	・
・ 電気室、自家発電室などの基礎及びピット（蓋を含む）		※	・	・
・ テレビアンテナ	基礎	※	・	・
	アンカーボルト	・	※	・
⊙ 天井点検口		※	・	・
・ 機器類のコンクリート基礎	屋内・屋外設置	※	※	※
	屋上設備	※	・	・

⑭ 設計ＧＬ
※ 図示による　・（　　）

⑮ 耐荷重及び耐外力
建築基準法に基づき定められた区分等
基準風速　Ｖｏ＝ 30 ｍ／ｓ
地表面粗度区分　・ Ⅰ　・ Ⅱ　⊙ Ⅲ　・ Ⅳ
積雪区分　平成１２年５月３１日 建設省告示第１４５５号　別表（　　）

⑯ 保全に関する資料（1.7.3）
下記のものをＡ４版ファイルに製本して監督職員に提出する。
⊙ 主な主要資材、機器等のメーカー及び施工者一覧表
⊙ 機器性能試験成績書及び取扱説明書
⊙ 保証書
⊙ 官公署届出書類（保守に必要とするもの）
⊙ 建築物の保守に関する説明書、指導案内書
・
・

⑰ 火災保険等
工事目的物及び工事材料等工事施工途中の事故に伴う損害を補てんするため火災保険等に加入する。
（保険の加入期間は、工事完成引き渡しまで（概ね工期＋２１日）とする。）

18 環境配慮
鳥取県公共事業環境配慮指針　※ 対象工事　・ 非対象工事

⑲ 建設リサイクル法
※ 対象工事　・ 非対象工事

20 鳥取県福祉のまちづくり条例
※ 対象工事　・ 非対象工事

21 景観形成条例
※ 対象工事　・ 非対象工事

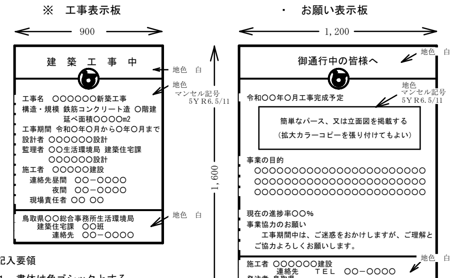
22 省エネ法
※ 対象工事　・ 非対象工事

② 仮設工事

① 足場その他（2.2.4）
「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における２の（２）手すり据置き方式又は（３）手すり先行専用方式により行う。

② 監督職員事務所等（2.3.1）
※ 設ける　㎡程度　⊙ 設けない
現場に設置する備品等は、現場説明書の施工条件明示事項による。

③ 表示板
※ 工事表示板　　・ お願い表示板



記入要領
1. 書体は角ゴシックとする。
2. お願い表示板は平易な表現及び内容とし、監督職員が指示するものとする。

④ 工事用水
構内既存の施設　※ 利用できない　⊙ 利用できる（⊙※ 有償　・ 無償 ）

⑤ 工事用電力
構内既存の施設　※ 利用できない　⊙ 利用できる（⊙※ 有償　・ 無償 ）

⑥ 工事用仮設物
構内既存の施設　⊙ 利用できない　・ 利用できる

7 工事現場のイメージアップ

③ 土工事

① 埋戻し及び盛土（3.2.3）（表3.2.1）
材料及び工法
※ 標準仕様書 表3.2.1による種別
・Ａ種　適用場所（　　）
⊙Ｂ種　適用場所（　　）
・Ｃ種　適用場所（　　）　土質（　　）　受渡場所（　　）
・Ｄ種　適用場所（　　）
（品質：粗粒分（75μm以下）の含有率（重量百分率）の上限を50%未満とする。））
・（材料：　　工法：　　）

② 建設発生土の処理（3.2.5）
※ 構外指示の場所に処分
・ 構内指示場所に敷き均し
・ 構内指示場所に堆積

3 山留めの撤去（3.3.3）
鋼矢板等の抜き後の処理　※直ちに砂で充填する
山留の存置　・ 行う（存置範囲　※ 現場説明書の施工条件明示事項による）

④ 地業工事

① 共通仕様（4.3.4、5）（4.4.4）（4.5.5、6）
・ 杭基礎
支持地盤の位置及び種類（基礎ぐいの先端位置含む）
※ 構造図による
試験杭　（　　）本　位置は構造図による
⊙ 直接基礎
支持地盤の位置及び種類（ラップルコンクリートの底面位置含む）
※ 構造図による
支持地盤の設計支持力度（　　）ｋN／㎡以上

地盤の平板載荷試験　※ 行わない
・ 行う　（　　）箇所
位置、深さ、対象地盤及び最大載荷荷重は構造図による。
試験の方法、報告書の記載事項等は構造図による。

2 既製コンクリート杭地業（4.2.2）（4.3.1、3~6、8）
種類
・セメントミルク工法
・ プレストレス鉄筋コンクリート杭（ＰＲＣ杭）
・ 外殻鋼管付きコンクリート杭（ＳＣ杭）
ＳＣ杭の鋼管材料　・ＳＫＫ４００　・ＳＫＫ４９０
寸法、継手、性能等

	符号	杭径（mm）	杭長（m）及び種別	厚さ（mm）	継手数	ｾｯﾄ数	コンクリート強度（N／m㎡）	長期設計支持力（ｋN／本）	備考
試験杭			上杭						
			中杭						
			下杭						
本杭			上杭						
			中杭						
			下杭						

特定埋込杭工法における杭材料はＪＩＳ又は認定条件に適合するものとする。
先端部材形状　・ 開放形　・ 半解放形　・ 閉そく形　・ 構造図による
ネガティブフリクション対策
※ 不要　・ 要（構造図による）

MEMO

一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第 607号 有限会社 羽 子 田 設 計 事 務 所 Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE	一級建築士登録　第 119996号 羽子田　靖彦	TITLE 鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE	FILE NO.
		NAME 建築工事特記仕様仕様書（1）	SCALE	DATE R08／08	SEET NO. A － 01／26

④ 地業工事

杭の継手　・アーク溶接継手　・標準仕様書4.3.6による
溶接材料　※標準仕様書7.2.5(1)(2)による　・構造図による
・無溶接継手　（ ※ 評定等を受けた工法）
無溶接継手は評定等により定められた項目の検査を行う。
施工は評定等に記された施工管理基準による。
杭頭の処理　・切断しない　・切断する
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
※構造図による
杭頭の中詰材料　※ コンクリート（基礎コンクリートと同仕様）　・構造図による

施工方法
・ セメントミルク工法
アースオーガーの支持地盤への掘削深さ　・ １．５m程度
杭の支持地盤への根入れ深さ　・ １．０m以上

根固め液及び杭周固定液の管理試験
※ 標準仕様書4.3.4(6)(ｼ)による
・ 構造図による

・ 特定埋込み杭工法
・ Ｈ１３国交告１１１３号第６による支持力算定式でα＝２５０程度を採用できる工法
・ Ｈ１３国交告１１１３号第６による支持力算定式でα＝　、β＝　、γ＝
を採用できる工法
工法　・プレボーリング拡大根固め工法　・中堀り拡大根固め工法
杭周固定液の使用　・する　・しない
杭の精度
水平方向の位置ずれ　・ 杭径の１／４かつ１００mm以下　・
杭の傾斜　・ １／１００以内　・ 評定条件または認定条件による　・

3 鋼杭地業
(4. 2. 2)
(4. 3. 8)
(4. 4. 3~6)

種類の記号　・ ＳＫＫ４００　・ ＳＫＫ４９０　・
寸法、継手、性能等

	符号	杭径（mm）	杭長（m）及び種別の記号	板厚（mm）	継手数	ｾｯﾄ数	長期設計支持力（ｋＮ／本）	備考
試験杭			上杭 中杭 下杭					
本杭			上杭 中杭 下杭					

先端部材形状　・ 開放形　・ 半開放形　・ 閉そく形　・
先端部の補強　・ 標準仕様書図4.4.1、表4.4.2による
先端部の補強（補強バンド等）及びその他付属品の材質
・ ＳＳ４００と同等又はそれ以上　・
施工方法
・ 特定埋込み杭工法
・ Ｈ１３国交告１１１３号第６による支持力算定式でα＝２５０程度を採用できる工法
・ Ｈ１３国交告１１１３号第６による支持力算定式でα＝　、β＝　、γ＝
を採用できる工法
工法　・ 中堀り拡大根固め工法　・
杭の精度
水平方向の位置ずれ　・ 杭径の１／４かつ１００mm以下　・
杭の傾斜　・ １／１００以内　・ 評定条件または認定条件による　・
杭の現場継手　・ 溶接継手
形状　・ JIS A 5525による
溶接材料　・ 標準仕様書7.2.5(a)(b)による　・ 構造図による
・ 無溶接継手（※評定等を受けた工法）
無溶接継手は評定等により定められた項目の検査を行う。
・ 無溶接継手（※評定等を受けた工法 ）
杭頭の処理　・ 切断しない　・ 切断する
処理方法（切断にともなう補強方法含む）　※ 構造図による
杭頭の中詰材料　※ コンクリート（基礎コンクリートと同仕様）　・

4 場所打ちコンクリート杭地業
(4. 2. 2)
(4. 5. 1、4、6)

施工管理技術者　※ 適用する
寸法、性能等

	符号	軸径（mm）	拡底径（mm）	杭長（m）	セット数	長期設計支持力（ｋＮ／本）	備考
試験杭							
本杭							

材料　表4. 5. 1
コンクリートの種類
・ Ａ種　※ Ｂ種
・ 評定等の内容による（場所打ち鋼管コンクリート杭工法及び拡底杭工法）
コンクリートの設計基準強度
（　　）Ｎ／mm²以上　スランプ　※ 18cm　・
構造体強度補正値
・ 3Ｎ／mm²　・ 構造図による　・ 評定等の内容による
セメントの種類　※ 高炉セメントＢ種 G
鉄筋の種類　※ ５章鉄筋工事の鉄筋の種類による
鋼管巻きの材料　・ＳＫＫ４００　・ＳＫＫ４９０　・
鋼管径・板厚・長さ　※ 構造図による
掘削工法　・ アースドリル工法（ ※ 安定液使用　・ 無水掘削 ）
・ リバース工法
・ オールケーシング工法（孔内の水張　・ 行う　・ 行わない ）
併用する工法　・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法
鋼管巻き材料　・SKK400　・SKK490　・
・ 拡底杭工法　（ ※ 安定液使用　・　　）
孔壁測定　※ 行う
測定方法　※ 超音波測定器
測定場所　※ 試験杭（　　）箇所及び本杭（　　）箇所
・ 行わない
帯筋　※ 構造関係共通事項６．２（ａ）⑥（ロ）による
・ 構造図による

⑤ 鉄筋工事

① 鉄筋
(5. 2. 1)

鉄筋の最小かぶり厚さ　・１００mm　・
鉄筋かごの補強
※ 構造図による
・ 杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50(mm)、1.5mを超える場合は鋼板9×50～75(mm)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ1節につき３箇所以上入れ、リングと主筋との接触部を溶接する。
組み立てた鉄筋の節ごとの継手　※ 重ね継手
重ね継手の長さ　※ 構造図による　・
杭の精度
水平方向の位置ずれ　・ 杭径の１／４かつ１００mm以下　・
杭の傾斜　・ １／１００以内　・ 評定条件または認定条件による　・

② 溶接金網
(5. 2. 2)

種類の記号	使用箇所	呼び径・寸法・形状（mm）
・溶接金網	土間	φ6 200×200
・鉄筋格子		

3 圧接完了後の試験
(5. 4. 10)

※ 超音波探傷試験　試験方法は標準仕様書 5.4.10(ｲ)(a)による。
・ 引張試験　試験方法は標準仕様書 5.4.10(ｲ)(b)による。

④ 鉄筋の継手
(5. 3. 4)

継手の工法

部位	継手工法と適用径の範囲
・ 柱主筋	※ ガス圧接（Ｄ１９以上）　・
・ 梁主筋	※ ガス圧接（Ｄ１９以上）　・
・ 基礎スラブ、耐圧スラブ	・ 重ね継手（Ｄ１６以下）　・ガス圧接（Ｄ１９以上）
・ 土圧壁など	・ 重ね継手（Ｄ１６以下）　・ガス圧接（Ｄ１９以上）
・ 耐震壁	※ 重ね継手　・
・ 杭主筋	※ 重ね継手　・

鉄筋の継手位置　・ 構造関係共通事項による　・ 構造図による
鉄筋の継手長さ
柱及び梁の主筋　※４０ｄと標準仕様書　表5.3.2の重ね継手長さのうち、大きい値とする。
・標準仕様書　表5.3.2の重ね継手長さ　・
耐力壁の鉄筋　※４０ｄと標準仕様書　表5.3.2の重ね継手長さのうち、大きい値とする。
・標準仕様書　表5.3.2の重ね継手長さ　・
上記以外の鉄筋　※標準仕様書　表5.3.2の重ね継手長さ

5 基礎梁主筋の継手
・ 構造関係共通事項　図５．２による（ ※ 全て　・ 構造図による　・　　）
・ 構造関係共通事項　図５．３による（ ※ 全て　・ 構造図による　・　　）
・ 構造関係共通事項　図５．４による（ ※ 全て　・ 構造図による　・　　）

⑥ 鉄筋の定着長さ
(5. 3. 4)

柱に取り付ける梁の引張り鉄筋
※ ４０ｄと標準仕様書　表5.3.4の定着長さのうち、大きい値とする。
・ 標準仕様書　表5.3.4の定着長さ　・
上記以外の鉄筋
※ 構造関係共通事項による　・

⑦ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）
(5. 3. 5)

最小かぶり厚さ（目地底よりかぶりを確保する）
・ 構造関係共通事項　表４．１による
・
柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無
・ なし
・ 有り　適用箇所（　　）　主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する。

耐久性上不利な部分（塩害等を受けるおそれのある部分等）
※ 無し　・ 有り
最小かぶり厚さは下表による。

施工箇所	構造関係共通事項の値に加える寸法（mm）
・柱、梁、壁及び庇などの外気に接する面	※１０
・塩害の恐れがある部分	・２０　・３０　・図示

鉄筋相互のあき（機械式継手及び溶接継手を除く）
・ 構造関係共通事項による　・

⑧ 各部配筋
(5. 3. 7)

※ 構造関係共通事項による　・

⑥ コンクリート工事

① コンクリートの種類
(6. 2. 1)

コンクリートの類別
※ Ⅰ類（ＪＩＳ　Ａ５３０８「レディーミクストコンクリート」への適合を認証されたコンクリート）
・ Ⅱ類（ＪＩＳ　Ａ５３０８に適合したコンクリート）

② コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等
(6. 2. 1~4)
(6. 3. 2)
(6. 10. 1、2)

※ 普通コンクリート

設計基準強度(N/mm2)	スランプ(cm)	気乾単位容積質量(t/m3)	適用箇所
・ 21	・ 標準仕様書 表6.2.2による	2.3程度	構造図による
・			

構造体強度補正値　※標準仕様書表6.3.2による　・ 構造図による

※ 軽量コンクリート

設計基準強度(N/mm2)	スランプ(cm)	気乾単位容積質量(t/m3)	種類	適用箇所
・	※ 21		・1類　・2類	構造図による
・	・	・		

構造体強度補正値　※標準仕様書表6.3.2による　・ 構造図による

③ セメント
(6. 3. 1)

種類
※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントＡ種、シリカセメントＡ種又はフライアッシュセメントＡ種
普通ポルトランドセメントの品質は、ＪＩＳ　Ｒ５２１０に示された規定の他、水和熱が７日目で３５２Ｊ／ｇ以下、かつ２８日目で４０２Ｊ／ｇ以下のものとする
・ 高炉セメントＢ種　G　適用箇所（　　）
・ フライアッシュセメントＢ種　G　適用箇所（　　）

④ 骨材
(6. 3. 1)

アルカリシリカ反応による区分
※ Ａ
・ Ｂ　（ ※コンクリート中のアルカリ総量　Ｒｔ＝３．０ｋｇ／ｍ³以下）

⑤ 混和材料
(6. 3. 1)

・ 混和剤（ＪＩＳ　Ａ６２０４に適合するＡＥ剤、ＡＥ減水剤又は高性能ＡＥ減水剤とし、化学混和剤の塩化物イオン量による区分はⅠ種とする。また、防錆剤を併用する場合は、ＪＩＳ　Ａ6205による防錆剤とする。）
・ 混和材（ＪＩＳ　Ａ６２０１に適合するフライアッシュのⅠ種、Ⅱ種若しくはⅣ種、ＪＩＳ　Ａ６２０６による高炉スラグ微粉末、ＪＩＳ　Ａ６２０７によるシリカフューム又はＪＩＳ　Ａ６２０２による膨張材とする。）

6 無筋コンクリート
(6. 3. 1)
(6. 14. 1)

コンクリートの種類　※ 普通コンクリート　・
適用箇所　・ 標準仕様書６．１４．１(4)(ｱ)（ｳ)による　・ 構造図による
設計基準強度Ｆｃ（Ｎ／mm²）　※１８　・
スランプ　※ １５又は１８　・
セメントの種類
※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントＡ種、シリカセメントＡ種又はフライアッシュｾﾒﾝﾄＡ種
・ 高炉セメントＢ種 G
・ フライアッシュセメントＢ種 G

7 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地
(6. 6. 4)
(6. 8. 1)

打継ぎの位置　※ 標準仕様書 ６．６．４(1)による　・ 構造図による
目地寸法　※ 標準仕様書 ９．７．３(1)による　・ 図示による
ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法　※ 図示による

⑧ コンクリートの仕上り
(6. 2. 5)

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ　表6. 2. 4

種類	適用箇所
・ Ａ種	
・ Ｂ種	図示
・ Ｃ種	

9 帯筋

※ Ｈ形　構造関係共通事項　図６．２（ａ）①Ｈ形による
（ ※ 全て　・ 構造図による　・　　）
・ Ｗ－Ｉ形　構造関係共通事項　図６．２（ａ）②Ｗ－Ｉ形による
（ ※ 全て　・ 構造図による　・　　）
・ ＳＰ形　構造関係共通事項　図６．２（ａ）⑤ＳＰ形による
（ ※ 全て　・ 構造図による　・　　）

10 壁開口部の補強

一般壁　・ Ａ形　構造関係共通事項　表８．３による
（ ※ 全て　・ 構造図による　・　　）
※ Ｂ形　構造関係共通事項　表８．４による
（ ※ 全て　・ 構造図による　・　　）
・ 構造図による
耐震壁　※ 構造図による

11 梁貫通孔の補強形式

※ Ｈ形　構造関係共通事項　表１１．１による
（ ※ 全て　・ 構造図による　・　　）
・ Ｍ形　図示による
（ ※ 全て　・ 構造図による　・　　）
・ ＭＨ形　図示による
（ ※ 全て　・ 構造図による　・　　）
・ 構造図による

12 構造（耐震）スリット

耐震スリットの設置箇所　※ 構造図による　・
方式　※ 完全　・ 部分
形状　※ 構造図による
耐火、遮音、防水処理への配慮
適用箇所　※ 意匠図による　・
仕様　※ 意匠図による　・
耐震スリット部詳細　※ 図示による　・

13 特殊な鉄筋継手
(5. 5. 2)
(5. 6. 3)

・ 機械式継手
使用箇所　※ 構造図による
性能（Ｈ１２建告第１４６３号に適合するもの）　・ Ａ級　・
機械式継手の種類及び工法　・（　　）
カプラー等の接合部分の相互のあき、最小かぶり厚さ　※ 構造図による
品質の確認方法、不良となった継手の修正方法等　※ 構造図による
・ 溶接継手
使用箇所　※ 構造図による
性能（Ｈ１２建告第１４６３号に適合するもの）　・ Ａ級　・
溶接継手の工法　・（　　）
鉄筋相互のあき　※ 構造図による
品質の確認方法、不良となった継手の修正方法等　※ 構造図による

7 鉄骨工事

9 打増し厚さ
(6. 8. 1)

打増し厚さ
・ 打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る）
※２０mm　・
・ 打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る）
・１０mm　・２０mm　・
・ 外装タイル後張り面の打増し処理
※２０mm　・
・ 床型枠用鋼製デッキプレートの梁側面部の打増し処理
プレートが支持される梁の側面について下記の打増しを行う
※１０mm　・２０mm　・

⑩ 型枠
(6. 8. 2)

せき板の材料及び厚さ
※ 合板（※ 12mm　・　　）G（但し、グリーン購入法基本方針における「合板型枠」の備考３の表示にある合板型枠を用いる場合に限る）
コンクリート及びグラウト打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用する場合は強度、変形等について、事前に監督職員と協議する。
※ メッシュ型枠（使用部位　※構造図による）
・ 床型枠用鋼製デッキプレート（施工範囲　※ 構造図による）
スリーブの材種・規格等
※ 構造図による
断熱材兼用型枠
・ 使用する　※ 25mm 以下かつ熱抵抗値1m²℃／kCal 以上　・
・ 使用しない

11 コンクリートの試験
(6. 9. 1~5)

コンクリートの単位水量測定
・ 行わない
・ 行う
実施要領　※ 構造関係共通事項による　・

1 鉄骨の製作工場
(7. 1. 3)

製作工場の加工能力
※ 建築基準法第７７条の５６第１項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた（株）日本鉄骨評価センター及び、（株）全国鉄骨評価機構（旧（社）全国鐵構工業協会）の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「（・Ｊ ・Ｒ ※Ｍ ・Ｈ ・Ｓ）グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場
・ 監督職員の承諾する製作工場（標準仕様書７．１．１以外の適用範囲に限る）

2 施工管理技術者
(7. 1. 4)

※ 適用する　・ 適用しない

3 鋼材
(7. 2. 1)

鋼材の材質　表7. 2. 1

種類の記号	使用箇所	規格等
		※ ＪＩＳ規格による
		※ ＪＩＳ規格による
		※ ＪＩＳ規格による
		※ ＪＩＳ規格による

4 高力ボルト
(7. 2. 2)
(7. 3. 2)
(7. 4. 2)

区分
※ トルシア形高力ボルト　２種（Ｓ１０Ｔ）建築基準法に基づき認定を受けたもの
・ ＪＩＳ形高力ボルト　２種（Ｆ１０Ｔ）
高力ボルトの径　※ 構造図による
すべり係数試験
※ 行わない　・ 行う（試験方法等　・ すべり係数試験　・ すべり耐力試験）
試験方法等　※ 構造図による
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等　・ 構造関係共通事項による　・

5 溶融亜鉛めっき高力ボルト
(7. 3. 2)
(7. 12. 4)

セットの種類
※ １種（Ｆ８Ｔ相当）建築基準法に基づき認定を受けたもの
溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径
・大臣認定を受けた内容による
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・構造関係共通事項による　・
摩擦面の処理
※ ブラスト処理（表面粗度５０μmＲｚ以上）
・ ブラスト以外の特別な処理　・ 構造図による
すべり耐力等の確認方法　※ 構造図による

6 普通ボルト
(7. 2. 3)
(7. 3. 2)
(7. 3. 8)

ボルト及びナットの材料等
・ 標準仕様書　表7.2.3（JIS付属書品）による
・ 標準仕様書　表7.2.3（JIS付属書品）又はJIS本体規格品（ISO規格）による
（JIS本体規格品による場合は、ボルトの種類を呼び径六角ボルト又は全ねじボルト、強度区分を4.6又は4.8の鋼製とし、ナットの種類を六角ナット-Cの鋼製とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルト径の値以下とする。）
座金　※ 標準仕様書 表7. 2. 3（d）による　・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・ 構造関係共通事項（鉄骨標準図）１－１縁端距離及ボルト間隔　・ 構造図による
母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径
※ ねじの呼び径＋１．０mm　・ 構造図による

7 アンカーボルト
(7. 2. 4)
(7. 3. 2)
(7. 10. 3)

・ 構造用アンカーボルト
セットの種類（JIS B1220）　・ ABR400　・ ABR490
形状、寸法　※構造図による
・ 建方用アンカーボルト
材質　・SS400　・
アンカーボルト及びナットのねじの種類の規格、ねじの等級の規格及び仕上げの程度
・ 標準仕様書　表７．２．３による　・
形状、寸法　※構造図による
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・ 構造関係共通事項による　・

8 ターンバックル
(7. 2. 6)

種類
建築用ターンバックル胴　※ 割枠式　・
建築用ターンバックルボルト　※ 羽子板ボルト　・
ねじの呼び　※構造図による

9 デッキプレート
(7. 2. 7)
(7. 7. 8)

工法の種別
・ 合成スラブ（適用箇所　※ 構造図による　・　　）
・ 床型枠用　（適用箇所　※ 構造図による　・　　）
・
材質、形状及び寸法　※ 構造図による
床型枠を使用する場合において、受注者は施工に先立ち安全性を確認するものとする。
鉄骨部材への溶接方法　※ 構造図による
耐火認定　・ 有り（耐火時間　※ 図示による　・　　）　・ 無し

MEMO

一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第 607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録　第 119996号
羽子田　靖彦

TITLE	鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE		FILE NO.
NAME	建築工事特記仕様書（2）	SCALE	DATE R08／08	SEET NO. A － 02／26

7 鉄骨工事

10 スタッドボルト (7.2.8)

※ 頭付スタッド（ＪＩＳ Ｂ１１９８）

径（呼び名）	長さ （呼び長さ） mm	適 用 箇 所
１６φ	・８０ ・１００ ・１２０	
１９φ	・８０ ・１００ ・１３０ ・１５０	
２２φ	・８０ ・１００ ・１３０ ・１５０	

11 柱底均しモルタル (7.2.9) (7.10.3)

モルタルの種別 ※無収縮モルタル
無収縮モルタルの材料及び調合
※ 標準仕様書７．２．９（b） （１）から（４）による ・

12 製作精度 (7.3.3)

※ 標準仕様書７．３．３及びH12建告第1464号第二号イによる
通しダイヤフラムの許容誤差
・ ダイヤフラムをH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定するただし書きの計算確認有り
補強方法
・ 「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
・
・ 全てのダイヤフラムはH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定する仕様を満足すること

13 仮組 (7.3.10)

仮組を行う範囲 ・ 構造図による ・

14 高力ボルト接合

スプライスプレートの材質 ※ 鋼材の種別及び引張強さによる区分は母材と同等とする
フィラープレートの材質 ※ ＳＳ４００とする

15 溶接接合 (7.6.4、7)

開先の形状 ※ 構造関係共通事項（５）３．溶接継手の種類別開先標準による
・ 構造図による
スカラップの形状 ※ 構造関係共通事項（６）５．鉄骨溶接施工（３）による
・ 構造図による
エンドタブの切除する箇所 ※ 構造図による ・
エンドタブの切除する範囲 ※ 構造図による
・ エンドタブ、裏当て金等は梁フランジの端から５mmを残して直線上に切断する
なお、切断面が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。
切断面の仕上げ
※ 標準仕様書7.6.7(1)(ｶ)(b)②による
・ 構造図による

16 入熱、パス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件
※ 構造関係共通事項による ・ 図示による
適用箇所
※ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部 ・ 図示による

17 溶接部の試験 (7.6.12)

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 表7.6.2~4
※ 行う ・ 行わない
工場溶接の場合
ＡＯＱＬ ※ ４．０％ ・ ２．５％

節	※ 全て	・	・	・	・
検査水準	※ 第６水準	・	・	・	・

工事現場溶接の場合
ＡＯＱＬ ※ ４．０％ ・ ２．５％
割れの疑いのある表面欠陥においては、浸透探傷試験及び磁粉探傷試験を行う
突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査
独立行政法人建築研究所監修「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
・ 抜き取り検査１ ※ 抜き取り検査２

18 耐火被覆 (7.9.2~8)

種別及び性能

種別	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）
・ 耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール		
	・半乾式吹付けロックウール		
	・湿式ロックウール		
	・		
	・		
・ 耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板		
	・		
・ 耐火材巻付け	・高耐熱ロックウール		
	・		
・ ラス張りモルタル塗り	－		

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする

19 建方精度 (7.10.2)

※ （社）日本建築学会「ＪＡＳＳ ６鉄骨工事」付則６［鉄骨精度検査基準］
付表５［工事現場］による

20 アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7.2.4) (7.10.3)

構造用アンカーフレームの形状及び寸法
※図示による
建方用アンカーフレームの保持及び埋込み工法
種別 ・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種
柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別
※標準仕様書 表７．１０．２（※Ａ種[モルタル厚さ５０] ・Ｂ種[モルタル厚さ３０]）による

21 錆止め塗装 (7.8.2~4) (18.3.2)

塗料の種別
亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料
※ 標準仕様書 表１８．３．２のＡ種
・ 標準仕様書 表１８．３．２のＢ種
・ ＥＰ－Ｇの適用箇所は標準仕様書 表１８．３．２のＣ種
耐火被覆材の接着する面への塗装
・ 行う
適用箇所 ※ 図示による ・
塗装の種別 ・標準仕様書18.3.2表18.3.1（ ）種
・標準仕様書18.3.2表18.3.2（ ）種
※ 行わない

22 溶融亜鉛めっき工法 (7.12.1~6)

種別等 表14.2.2

亜鉛めっきの種別	材 料	適用箇所
・Ａ種(HDZ55)	最小板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板	※図示による
・Ｂ種(HDZ45)	最小板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	
・Ｃ種(HDZ35)	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類	
	最小板厚1.6mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	

23 梁貫通孔の補強

補強方法 ・補強プレート法 ・補強トラス法
適用箇所 ・構造図による

8 コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事

3 ＡＬＣパネル (8.4.2~5)

表8.4.2~4

パネルの区分	単位荷重（N/㎡）	厚さ(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	耐火性能	表面加工	構法の種別
・ 外壁パネル		・100 ・			有（１）時間	・平 ・意匠	・Ａ種 ・Ｂ種
・ 間仕切壁パネル	／	・100 ・			・有（１）時間 ・無	・平 ・意匠	・Ｃ種 ・Ｄ種 ・Ｅ種
・ 屋根パネル		・100 ・			有（0.5）時間	平	・Ｆ種
・ 床パネル		・100 ・			・有（１）時間 ・無		

パネルの相互の接合部に充填する耐火目地材
※ パネル製造所の仕様 ・
外壁、屋根パネルの工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合 ・
外壁、間仕切パネルの出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取り合い部の目地
幅 ※１０～２０mm ・
外壁、間仕切パネルの伸縮調整目地への耐火目地材の充填 ・ 適用する ・ 適用しない

4 押出成形セメント板（ＥＣＰ） (8.5.2~5)

パネルの種類	表面形状	厚さ（mm）	幅（mm）	工法の種別	備考
・外壁パネル	・Ｆ(ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ)	・50 ・60		・ Ａ種 ・ Ｂ種	
	・Ｄ(ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ)	・50 ・60	600		
	・Ｔ(ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ)60				
・間仕切壁パネル	・Ｆ(ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ)	・50 ・60		・ Ｂ種 ・ Ｃ種	
	・Ｄ(ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ)	・50 ・60	600		
	・Ｔ(ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ)	60			

外壁パネルの工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合 ・ 図示による ・
パネルの相互の目地幅(mm) ※長辺8、短辺15
出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅(mm) ※15 ・
耐火構造以外の目地及び隙間の処理 ※パネル製造所の仕様 ・
やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とする。ただし、欠損部分を考慮した強度の確認のうえ、施工計画書を提出する。

パネル開口の限度

		開口の大きさ	切断後のパネルの残り部分の幅
・開口	短辺	・	・
	長辺	・	・
・切り欠き	短辺	・	・
	長辺	・	・

9 防水工事

2 改質アスファルトシート防水 (9.3.2、3) (表9.3.1~3)

防水層の種別 表9.3.1~3

種別	施工箇所	断熱材 G	防湿層シート	仕上げ塗料 種類	仕上げ塗料 使用量	高日射反射率防水の適用 G
・ＡＳ－Ｔ１		／		・	・ 製造所の仕様による	・
・ＡＳ－Ｔ２						・
・ＡＳ－Ｊ１						・
・ＡＳ－Ｔ３						・
・ＡＳ－Ｔ４						・
・ＡＳ－Ｊ２				・		・
・ＡＳＩ－Ｔ１		JIS A 9521（建築用断熱材）に基づく発泡ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ断熱材 種類 ※ 硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材2種 1号又は2号 ・ 厚さ ※ 25mm ・ 50mm ・	※ 設ける（改質ｱｽﾌｧﾙﾄ製造所の仕様による） ・ 設けない			・
・ＡＳＩ－Ｊ１						・

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
押え金物の材質、形状及び寸法
※ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度 ・
脱気装置の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 ・
脱気装置の設置数量 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様 ・

11 タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 (11.1.3) (表11.1.1)

位置 ※標準仕様書表11.1.1による ・図示

2 セメントモルタルによるタイル張り (11.2.2、7)

タイルの形状、寸法等

施工箇所	主な用途による区分	形状寸法(mm)	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 あり	なし	色 標準	特注	再生材の適用 G	耐凍害性 あり	なし	耐滑り性	備考
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

耐滑り性：JIS A 1509-12（セラミックタイル試験方法－第12部：耐滑り性試験方法）で規定するC.S.R値は0.4～1.0とする。
標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ・行わない
見本焼き ・行う ・行わない
下地モルタル塗りのコンクリート素地面の処理 ・MCR工法 ・目荒し工法（高圧水洗処理）
壁タイル張りの工法
外装タイル ・密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り
既成調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する貼付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

品質性能等
保水率：７０%以上
単位容積重量：1.8kg/L以上
接着強さ：標準時 0.6N/mm2以上、温冷繰り返し後 0.4N/mm2以上
長さ変化率：0.2%以下
曲げ強さ：4.0N/mm2以上

試験方法
イ）試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算し、所定量の試料とする。
練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の9.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
ロ）保水率
JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定するみがき板ｶﾞﾗｽ(縦150mm、横150mm、厚さ5mm)の上にJIS P 3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5種Aろ紙(直径11cm)をのせ、その中心部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（１）で調製した試料を平滑に詰込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。
試験は３回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率＝50／平均値×100 （注） 50:リング型わくの内径 mm
ハ）単位容積質量
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。
二）接着強さ（標準時）
１ 適用タイルが「モザイクタイル」の場合
（試験体の作成）JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書Ｂ（規定）及び推奨仕様Ｂ－１に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに イ）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形のⅠ類（施ゆう）「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.9付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく５箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm2以上）
２ 適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合
（試験体の作成）JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書Ｂ（規定）及び推奨仕様Ｂ－１に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに イ）で調製した試料を厚さ7mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形のⅠ類（施ゆう）「小口タイル（108mm×60mm×12mm）」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。

ホ）接着強さ（温冷繰返し後）
（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛けタイル」とも、各々 ニ）標準時の接着強さの試験方法の「試験体」と同様とする。
（温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛けタイル」とも、各々JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.10温冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに-20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±2℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を１サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。
（温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛けタイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm2以上）
へ）長さ変化率
JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。
ト）曲げ強さ
JIS A 6916「建築用下地調整塗材」7.11曲げ強さ試験に準ずる。

既製調合目地材
品質性能等
保水率：３０%以上
長さ変化率：0.2%以下（収縮）
吸水量：50g以下
単位容積質量：1.8kg/L以上

試験方法
イ）試験の条件
試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。
ロ）試料の調製
正味質量と標準練り上がり量より、1.0～1.2Lの試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」10.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し3分間練り混ぜて試料とする。
ハ）保水性（ろ紙法）
JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦200mm、横200mm、厚さ5mm）の上にJIS P 3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5種Aろ紙（直径18.5cm）をのせ、その中央部に真鍮製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、ロ）で練り混ぜた試料を金べらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当て上下を逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。10分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて1mmまで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率（%）＝50／平均値×100 注）50:リング型わくの内径(mm)
二）単位容積質量
ロ）で練り混ぜた試料を、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.3に規定する方法で求める。
ホ）長さ変化率
ロ）で調製した試料を用いてJIS A 1171の7.6長さ変化率試験に従って行う。
へ）吸水量
ロ）で調製した試料を用いてJIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」10.に規定する方法で24時間の吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。

⑫ 木工事

① 表面仕上げ (12.1.4) (表12.1.1)

表12.1.1

表面仕上げの種別		施工箇所
機械加工	・Ａ種	
	・Ｂ種	
	・Ｃ種	
手加工	・Ｈ－Ａ種	
	・Ｈ－Ｂ種	
	・Ｈ－Ｃ種	

② 製材 G (12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1)

図示

・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	間伐材等の利用
			※２種		※Ａ種 ・Ｂ種		・

・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	間伐材等の利用
見え掛り面			※上小節 ・		※Ａ種 ・Ｂ種		・
見え掛り面以外			※小節以上 ・		※Ａ種 ・Ｂ種		・

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	間伐材等の利用
			※１等 ・		※10%以下 ・Ａ種 ・Ｂ種		・

・「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率	間伐材等の利用
			（ ） 造作材の場合 (※A種 ・B種)	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・	・

3 造作用集成材 G (12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面数	見付け材面の品質	間伐材等の適用
				※1等 ・2等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面数	見付け材面の品質	間伐材等の適用
	化粧薄板 ： 芯材 ：				※1等 ・2等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
	化粧薄板 ： 芯材 ：				・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
				※１５%以下 ・	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板 ： 芯材 ：				※１５%以下 ・	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板 ： 芯材 ：				※１５%以下 ・	・

4 造作用単板積層材 G (12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・

・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材等の適用
		・有り（加工 ・天然木加工 ・塗装加工） ・無し（等級： ）	・適用する ・適用しない	・

・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の品質	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
		・有り （加工 ・天然木加工 ・塗装加工） ・無し（ ）	・適用する ・適用しない	※ 14%以下 ・	・

5 直交集成板 (12.2.1)

・直交集成材（ＣＬＴ）

施工箇所	品名	曲げ強度（強度等級）	種別	強度性能（使用環境）	樹種	寸法(mm)	間伐材等の利用

6 床張り用合板等 (12.2.1)

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・
・普通合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	難燃処理	防炎処理	間伐材等の適用
	※5.5 ・		※１類 ・２類	広葉樹 ※2等以上 ・1等 針葉樹 ※C-D以上 ・	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・

MEMO

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第 607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録 第 119996号
羽子田 靖彦

TITLE 鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備事業
NAME 建築工事特記仕様書（3）
SIGNATURE
SCALE
DATE R08／08
FILE NO.
SEET NO. A－ 03／26

・構造用合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	有効断面係数比	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
	※12・	※2級以上・1級		※1類・特類	※C-D以上・		・適用する・適用しない	・適用する（　）・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用
			※1類　※特類	・適用する・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板 G

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ(mm)	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用
			※1類　・2類	・適用する・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	表面性能	化粧加工の方法	防虫処理	間伐材等の適用
		※1類　・2類			・適用する・適用しない	・

・パーティクルボード G

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分
	※15		※13タイプ・	※P又はM・	

・構造用パネル

施工箇所	厚さ(mm)	等級
		・1級　・2級　・3級　・4級

・ミディアムデンシティーファイバーボード（MDF） G

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	間伐材等の適用

⑦ 接着剤
（12. 2. 2、3）

接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添付されていないものとする。
ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・

⑧ 防腐・防蟻処理
（12. 3. 1、2）

・防腐、防蟻処理を省略できる樹種による製材
　適用部位：（　　）

○薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部材	保存処理性能区分
土台	・K2　○K3　・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部材	処理の方法
	※標準仕様書12.3.1(f)(b)①～④による

・薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理
　適用部位：（　　）

⑬ 屋根及びとい工事

1　長尺金属板葺
（13. 2. 2、3）

施工箇所	板及びｺｲﾙの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
	ガルバリウム鋼板			・心木なし瓦棒葺・立平葺　・縞掛葺・横葺　・	

下葺材料　・アスファルトルーフィング940
　　・改質アスファルトルーフィング下葺材
　　（・一般タイプ　・複層基材タイプ　・粘着層付タイプ）
工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
　※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.25・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
　・適用しない
雪止め　・設置する（図示）

②　折板葺
（13.2.2）
（13.3.2、3）
（表13.2.1）

施工箇所	形式	山高、山ﾋﾟｯﾁによる区分 山高	山ﾋﾟｯﾁ	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
屋根	○瓦ね形・はぜ締め形・かん合形	88		（　）種	※鋼板製・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金板製	0.6	○有り・無し	・30分・無し
	・							

材料
　板及びコイルの種類（ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板
　塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号（　　）
　タイトフレームにJIS G 3302以外の鋼材を直接外気の影響を受けない屋内で使用する場合の表面処理
　※　標準仕様書表14.2.2のF種
断熱材　○有り（種別：ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ　厚さ(mm)：4　防火性能：時間）
　・無し
工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
　折板のけらば納め　※　けらば包みによる方法　○

④ といい
（13. 5. 2、3）
（表13. 5. 5）

図示

といの材種　・配管用鋼管　○硬質ポリ塩化ビニル管
といい受け金物及び足金物の材種、形状及び取付け間隔
　※　標準仕様書表13.5.2により、溶融亜鉛めっき行ったもの
　・
多雪地域　・運用する　・運用しない
防露材のホルムアルデヒド放散量
　※　規制対象外　・
鋼管製といの防露巻き　・適用する（工法：※　標準仕様書表13.5.4による　・　　）
　・適用しない
ルーフドレン

種別	施工箇所
・ろく屋根用（・縦型　・横型）	
・バルコニー用	
・バルコニー中継用	

⑭ 金属工事

① ステンレス表面仕上げ
（14. 2. 1）

種類	施工箇所（手すり、タラップ、建具以外）
○HL程度	**巾木・腰壁**
・鏡面仕上げ	
・No. 2B程度	

2　アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理
（14. 2. 2）
（表14. 2. 1）

表14. 2. 1

種別	色合等	施工箇所（成形板、笠木、建具以外）
	・標準色（　）・特注色（　）	
	・標準色（　）・特注色（　）	

陽極酸化皮膜の着色方法　※二次電解着色　・三次電解着色

3　鉄鋼の亜鉛めっき
（14. 2. 3）
（表14. 2. 2）

表14. 2. 2

表面処理方法	種別	施工箇所（手摺、タラップ以外）
溶融亜鉛めっき	・A種	
	・B種	
	・C種	
電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

4　軽量鉄骨天井下地
（14. 4. 2～4）
（表14. 4. 1）

野縁等の種類
　屋外（※　25形　・19形）　屋内（※　19形　・25形）
・　屋外の軒天井、ピロティ天井等
工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
　野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔　・図示　・
　周辺部の端からの間隔　・図示　・
　野縁の間隔　・図示　・

・　吊りボルトの間隔が900mmを超える場合
　補強方法　※　図示　・
・　天井のふところが1.5m以上3.0m以下の場合
　補強方法　※　標準仕様書14.4.4(8)による　・図示
・　天井　のふところが3.0mを超える場合
　補強方法　※　図示　・
・　天井下地材における耐震性を考慮した補強
　補強箇所　※　高さが6mを超える天井、それ以外は図示　・
　補強方法　※　「特定天井及び特定天井の構造耐力上安全な構造方法を定める件」（平成25年 国土交通省告示第771号）第3第2項第二号に適合させる。
・　天井下地材における耐震性を考慮した補強
　補強箇所　※　高さが6mを超える天井、それ以外は図示　・
　補強方法　※　「特定天井及び特定天井の構造耐力上安全な構造方法を定める件」（平成25年 国土交通省告示第771号）第3第2項第二号に適合させる。
・　図示

5　軽量鉄骨壁下地
（14. 5. 3）
（表14. 5. 1）

スタッド、ランナーの種類
　※標準仕様書表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類　・　図示
スタッドの高さが5．0mを超える場合　※　図示
出入口及びこれに準ずる開口部の補強　※　標準仕様書14.5.4(5)による　・

6　金属成形板張り
（14. 6. 2、3）
（表14. 2. 1）

表14. 2. 1

種別	製法	形状	寸法(mm)	板厚(mm)	表面処理（標準仕様書14.2.1による）種別	色合等
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ	・押出し・ロール	ﾊﾟﾝﾄﾞﾙ形				・標準色（　）・特注色（　）・
	・プレス・	パネル形				
	・					
・						

取付け用下地　※　標準仕様書14.4による　・　図示
伸縮調整継手　・　設ける（施工箇所　・　図示　・　　）　・設けない

7　アルミニウム製笠木
（14. 7. 2、3）
（表14. 2. 1）
（表14. 7. 1）

表14. 7. 1

種類　・250形　・300形　・350形　・
表面処理　種別（　　）種
　色合等　・　無着色　・標準色（　　）　・　特注色（　　）
笠木の固定金具の工法等
　建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法

8　手すりおよびタラップ
（14. 8. 2、3）

手すり　・　ステンレス製　SUS304（表面処理　※　HL程度　・　No. 2B程度　・　　）
　・　鋼製　（表面処理　※　溶融亜鉛めっきC種　・　　）

タラップ　・　ステンレス製SUS304（表面処理　研磨なし　・　　）
　・　鋼製　（表面処理　※　溶融亜鉛めっきC種　・　　）

⑮ 左官工事

① モルタル塗り
（15. 3. 2、5）

モルタル　※現場調合材料　・既調合材料（材料　　）
既製目地材　・設ける　施工箇所（　　）　形状（※図示　・　　）
　・設けない
床の目地　・設ける（目地割り　※2㎡程度（最大目地間隔3m程度　・　　）
　　（種類　※押し目地　・　　）
　・設けない
外壁タイル張り下地モルタル塗り及び下地調整材塗りの接着力試験　・　適用する　・　適用しない
建具廻りの等の充填モルタルに使用する防水剤
（品質・性能）
（試験方法）JIS A 1404「建築用セメント防水剤試験方法」による。

項目	品質・性能
防水剤の種別	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤
混合割合	セメント重量の5%以下
凝結及び安定性	（凝結時間）始発：1時間以上　終結：10時間以内 （安定性）収縮性、膨張性のひび割れ及びそりの有無について確認する。
曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上
吸水比	防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下
透水比	防水剤を混入したもの、しないものの透水比 80%以下 ただし、透水試験における水圧は、3.0×10^{5}Paとし1時間行う。

2　ラス系下地
（15. 2. 4）

ラス系下地の種類及び材料
・　通期工法二層下地（材料　※　2種防水紙付きリブラス800　・　　）
　　換気口部の措置　※　木造標準仕様書11.4.3(2)(ｳ)による
・　通気工法二層下地（材料　※　2種波形ラス700　・　　）
・　直張りエ法ラスモルタル下地（材料　・　　）
・　直張りラスシートモルタル下地（材料　・　　）
建築基準法に基づく耐力壁、防火構造、準耐火構造等の指定（　　）

③ 床コンクリートの直均し仕上
（6. 2. 5）
（15. 4. 2）

仕上げの平たんさは、図示及び標準仕様書15.4.2(7)(ｲ)による以外は下記による。

標準仕様書表6.2.5による平たんさの種別	施工箇所
○a種	合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、床コンクリート直均し 合仕上げ、フリーアクセスフロア（置敷式）（　　）
b種	カーペット張り、防水下地、セルフレベリング材塗り （　　）
c種	タイル張り、モルタル塗り、フリーアクセスフロア（支柱調整式） （　　）

4　セルフレベリング材料塗り
（15. 5. 2）
（表15. 5. 1）

種類及び品質　・　せっこう系　・　セメント系
標準塗厚（mm）　※　図示　・

5　仕上げ塗材仕上げ
（15. 6. 2）

建築内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量　※　規制対象外　・
・薄付け仕上げ塗材　表15. 5. 1～2

呼び名	仕上げの形状	工法	吸放湿性	防火材料
			・適用する	・
			・適用する	・

・薄付け仕上げ塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	吸放湿性	上塗り材	防火材料
			・適用する	・適用する	・
			・適用する	・適用する	・

・複層仕上げ塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	上塗り材の種類	耐候性	防火材料
			水系溶媒　※・樹脂　※　アクリル系・外観　※　つやあり	※　耐候形3種・	・

・軽量骨材仕上げ塗材

呼び名	防火材料
	・
	・
	・

6　ALCパネルの場合の下地処理
（15. 6. 4）

内部目地部の形状　※V形目地付き　・

7　マスチック塗料塗り
（15. 7. 2）

種別　・　A種　・　B種

8　せっこうプラスター塗材塗り
（15. 8. 3）

下塗りおよび中塗り
　※既調合プラスター（下塗り用）又は現場調合プラスター（下塗り用）
　・
上塗り
　・既調合プラスター（上塗り用）
　・しっくい塗り

9　ロックウール吹付け
（15. 12. 2、3）

ロックウールのホルムアルデヒド放散量　※　規制対象外　・
接着剤のホルムアルデヒド放散量　※　規制対象外　・
仕上げ吹付け厚さ(mm)　・　図示　・　25

⑯ 建具工事

1　防火戸
（16. 1. 3）

・　適用する　適用箇所（　※　建具表による　・　　）

2　建具見本の製作
（16. 1. 4）

※　製作しない　・　製作する（　・　納まり等が分かる程度のもの　・　　）

3　防犯建物部品
（16. 1. 6）

・　適用する　適用箇所（　※　建具表による　・　　）

④ アルミニウム製建具
（16. 2. 2、4、5）
（表14. 2. 1）
（表16. 2. 1）

住宅用サッシ

性能等級
　・　耐風圧の等級（ S-3 ）、気密性の等級（ A-4 ）、水密性の等級（ W-4 ）
　※　標準仕様書表16.2.1による種別
　　外部に面する建具の種別（コンクリート下地及び鉄骨下地）
　　・A種（建具符号：　・全て　・建具表による　・　　）
　　・B種（建具符号：　・全て　・建具表による　・　　）
　　・C種（建具符号：　・全て　・建具表による　・　　）
　　外部に面する建具の種別（木下地）
　　・D種（建具符号：　・全て　・建具表による　・　　）
　　・E種（建具符号：　・全て　・建具表による　・　　）
　防音ドア、防音サッシ　遮音性の等級（　・　　）
　　（建具符号：　・建具表による　・　　）
　断熱ドア、断熱サッシ　G　断熱性の等級（　・ H-4 ）
　　（建具符号：　・建具表による　・　　）
　耐震ドア　面内変形追随性の等級（　・　　）
　　（建具符号：　・建具表による　・　　）
ステンレス鋼板の材料　※　SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1　・
枠の見込み寸法　※　建具表による　・
表面処理
　外部に面する建具　種別　・　BB-1種　・　BB-2種　・
　　着色　※　標準色（　　）　・　特注色（　　）
　○屋内の建具　種別　・　BC-1種　・　BC-2種　・
　　着色　※　標準色（　　）　・　特注色（　　）
　結露水の処理方法　※　図示　・
　水切り板、ぜん板　※　図示　・
※製造所　建築材料・設備機材等品質性能評価事業　建築材料等評価名簿に記載されている製造所

⑤ 網戸等
（16. 2. 3）

種類	材質	線径	網目
○防虫網	※　合成樹脂製 ・　ガラス繊維入り合成樹脂製 ・　ステンレス（SUS316）製	※0.25mm以上・	※16～18メッシュ・
・防鳥網	ステンレス製（SUS304）線材	1.5mm	網目寸法15mm

7　鋼製建具
（16. 2. 2）
（16. 4. 2～4）
（表16. 4. 2）

性能等級（建具符号：　・　建具表による　・　　）
　簡易気密型ドアセット　・　適用する
　外部に面する建具の耐風圧性の等級　・S－4　・S－5　・S－6
　防音ドア、防音サッシ　遮音性の等級（　・　　）
　断熱ドア、断熱サッシ　G　断熱性の等級（　・　　）
　耐震ドア　面内変形追随性の等級（　・　　）
ステンレス鋼板の材料　※　SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1　・
鋼板類の厚さ　※　標準仕様書表16.4.2による　・

8　鋼製軽量建具
（16. 2. 2）
（16. 5. 2～4）

性能等級（建具符号：　・　建具表による　・　　）
　簡易気密型ドアセット　・　適用する
　防音ドア、防音サッシ　遮音性の等級（　・　　）
　断熱ドア、断熱サッシ　G　断熱性の等級（　・　　）
　耐震ドア　面内変形追随性の等級（　・　　）
鋼板の材料　※　亜鉛めっき鋼板　・　ビニル被覆鋼板　・　カラー鋼板　・　ステンレス鋼板
ステンレス鋼板の材料　※　SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1　・
鋼板類の厚さ　※　標準仕様書表16.5.1による　・
召合せ、縦小口包み板の材質　※　鋼板　・

⑩ 木製建具
（16. 7. 2～4）

図示

建具材の加工、組立時の含水率　※B種　・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※　規制対象外　・
○フラッシュ戸
　表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・普通合板 G	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※ラワン程度　・　　） 不透明塗料塗り （※しな程度　・　　） 板面の品質（　　） 接着の程度（・1類　・2類）	
・天然木　化粧合板	樹種名（　　） 接着の程度（・1類　・2類）	
・特殊加工　化粧合板	化粧加工の方法 （・オーバーレイ　・プリント　・塗装） 表面性能（　　）タイプ 接着の程度（・1類　・2類）	

表面板の厚さ　※標準仕様書表16.7.6による
・かまち戸
　かまち樹種（　　）　鏡板樹種（　　）
　見込み寸法　※36mm　・建具表による　・
・ふすま
　張りの種別（・I型　・II型）
　上張り（押入等の裏側以外）　・鳥の子　・新鳥の子又はビニル紙程度
　縁仕上げ　・塗り縁　・生地縁（無地）　・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
　見込み寸法　※19.5mm　・建具表による　・
・戸ぶすま
　見込み寸法　※　30mm　・建具表による　・
・紙張り障子
　見込み寸法　※　30mm　・建具表による　・
枠、くつずりの材料　・建具表による　・
※取付け調整は、1名以上の技能者に対して、他の技能者に対して、施工品質の向上を図るための作業指導を行うこと。

MEMO

一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号　　一級建築士登録　第　119996号
有限会社 羽子田設計事務所
Y. HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
羽子田　靖彦

TITLE	鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備事業	SIGNATURE		FILE NO.
NAME	建築特記工事特記仕様書（4）	SCALE	DATE R08／08	SEET NO. A－04／26

16 建具工事

11 建具用金物
（16. 8. 2、3）
（表16. 8. 1）

金物の種類・見え掛り部の材質等
　※　標準仕様書表16.8.1及び適用は建具表による　・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※　標準仕様書表16.8.2による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※　標準仕様書表16.8.3による　・
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※　標準仕様書表16.8.4による　・
木製建具に使用する戸車及びレール丁番　※　標準仕様書表16.8.5による　・
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置　・　建具表による　・

錠前類
シリンダ箱錠及びシリンダ本締り錠
（品質）
　デッドボルトの出寸法は17mm以上とする。鍵付きのものはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。
（性能）
　使用頻度による性能
　1)（シリンダ箱錠のみ）ラッチボルトの開閉繰り返し試験(40万回)を行った後、ハンドルでの開閉操作力及びラッチング力が試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。
　2)キーによるデッドボルトの施解錠繰り返し試験(10万回)を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。（シリンダ本締り錠のみ）シリンダ単体の施解錠繰り返しの評価は、シリンダだけの回転トルクが10N·cm以下とする。
　3)キーによる施錠機構の施解錠繰り返し試験(10万回)を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。
　4)キーの抜き差し繰り返し試験(10万回)を行った後、キーの抜き差しに要する荷重は10N以下である。また、未使用の合鍵でシリンダが回転でき、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるキーでは、シリンダが回転しないこと。（キーに加えるトルクは、150N·cmとする）
　外力に対する性能
　1)デッドボルトの押込み強度試験(10KN)を行った後、荷重を除いたときのデッドボルトの出寸法は8mm以上であること。
　2)デッドボルトの側圧強度試験(10KN)を行った際、加圧板がデッドボルトを通過しない。
　3)デッドボルトの押込み強度(衝撃荷重)試験(58.8J)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態（デッドボルトの突出量が8mm未満）にならないこと。
　4)デッドボルトの側圧強度(衝撃荷重)試験(58.5J)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態(加圧板がデッドボルトを通過した状態)にならないこと。
　5)(シリンダ本締り錠はグレード3以上の彫込錠の場合）ストライクプレートの厚さ1.5mm以上のステンレス鋼製とする。
　使用扉の質量に対する性能（シリンダ箱錠のみ）
　1)ラッチボルトの側圧強度試験(4KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。
　2)レバーハンドルのねじり強度試験(3.5KN·cm)を行った後、トルクを除いたとき､ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
　3)握り玉のねじり強度試験(3KN·cm)をおこなった後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され､かつ､施解錠操作に支障がない。
　4)ハンドルの引張強度試験(2KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
　5)ハンドルの垂直荷重強度試験(2KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
　鍵
　1)かぎ（鍵）数は、1.5万以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ（鍵）違い数とみなさないものとする。
　2)同一タンブラーの使用数は、60%以下とする。また、6本タンブラーにおいては、キーの同一刻みは、最大2連続までとしていること。
　試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物-錠-第1部：試験方法）による。
レバーハンドル
（性能）
　ねじり強度
　レバーハンドルのねじり強度試験(3.5KN·cm)を行った後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。

　引張り強度
　ハンドルの引張強度試験(2KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。

　垂直荷重強度
　ハンドルの垂直荷重強度試験(2KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。
　試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物-錠-第1部：試験方法）による。

11 建具用金物
（16. 8. 2、3）
（表16. 8. 1）

・クローザー類
（品質・性能）

性能試験項目			番手	①ドアクローザ 閉じﾓｰﾒﾝﾄ(N·m)	①効率(%)	②ヒンジクローザ 閉じﾓｰﾒﾝﾄ(N·m)	②効率(%)	③フロアヒンジ 閉じﾓｰﾒﾝﾄ(N·m)	③効率(%)
初期値	閉じ力及び効率による区分(注1)	Grade2	1	5以上	30以上	5以上	30以上	5以上	30以上
			2	10以上	30以上	10以上	30以上	10以上	30以上
			3	15以上	35以上	15以上	35以上	15以上	35以上
			4	25以上	40以上	25以上	40以上	25以上	40以上
			5	35以上	45以上	35以上	45以上	35以上	45以上
			6	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上
	閉じ速度(秒)			常温(5～35℃)無風状態において、開扉(70°)から全閉(0°)までの時間を5～8秒に調整できること。					
	温度依存性(℃)			緩衝油の流動点は、JIS K 2269(原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法)により測定し、-15℃以下であること。					
	ストップ力(注2)	ストップ入力		60N·m以下 但しｺﾝｼｰﾙﾄﾞ型は200N·m以下		100N·m以下		100N·m以下	
		ストップ解除力		8N·m以上		3N·m以上		10N·m以上	
	バックチェック性能(秒)（バックチェック機能を有する機種のみ適用）			ドア開扉方向に荷重60N/㎡を開扉50°から負荷する。ﾊﾞｯｸﾁｪｯｸ開始角度(70～85°)から更に20°まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。		－		－	
	ﾃﾞｨﾚｰﾄﾞｱｸｼｮﾝ性能(秒) ﾃﾞｨﾚｰﾄﾞｱｸｼｮﾝ解除角度(60～75°)（ﾃﾞｨﾚｰﾄﾞｱｸｼｮﾝ機能を有する機種のみ適用）			開扉90°の位置からﾃﾞｨﾚｰﾄﾞｱｸｼｮﾝ解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。		－		－	
	戸の開閉位置（中心吊り込み両自由のみに適用）			－		－		－	

性能試験項目			①ドアクローザ	②ヒンジクローザ	③フロアヒンジ
耐久性	繰返し開閉後の閉じﾓｰﾒﾝﾄ(N·m)	Grade2	耐久試験後も上記初期値を満足していること。	耐久試験後も上記初期値を満足していること。	耐久試験後も上記初期値を満足していること。
	繰返し開閉後の効率(%)	Grade2	耐久試験後も上記初期値を満足していること。	耐久試験後も上記初期値を満足していること。	耐久試験後も上記初期値を満足していること。
	繰返し開閉後の閉じ速度(秒)		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		
	繰返し開閉後のﾊﾞｯｸﾁｪｯｸ性能（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	－	－
	繰返し開閉後のﾃﾞｨﾚｰﾄﾞｱｸｼｮﾝ性能（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	－	－
	繰返し開閉後の戸閉鎖位置(mm)		－	－	耐久試験後±16mm以内
耐久性の試験回数（繰返し開閉回数）		Grade2	20万回	10万回	30万回

注1　ﾊﾟﾗﾚﾙ取付けは、右記の閉じﾓｰﾒﾝﾄの70%程度までとする。
注2　ｺﾝｼｰﾙﾄﾞ型は右記の閉じﾓｰﾒﾝﾄの50%程度までとする。
Grade1を選定する場合は、図示による。
（試験方法）
1)性能試験は、JIS A 1510-3（建築用ドア金物の試験方法-第3部：フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ）に規定する試験方法による。
2)試験ﾄﾞｱの質量は､1番手は25kg､2番手は40kg､3番手は60kg､4番手は80kg､5番手は100kg､6番手は120kgとする。

12 鍵
（16. 8. 4）

マスターキー　・製作する（　　組）　・製作しない　・既存に組込む
鍵の製作本数　※各室３本１組（室名札付き）
鍵箱　・設ける　（　　個用　　組）　・設けない

13 自動ドア開閉装置
（16. 9. 2、3）
（表16. 9. 1）
（表16. 9. 2）

引き戸用駆動装置
　性能値
　　・
　　※標準仕様書表16.9.1による
　　　種類　・SSLD-1　・SSLD-2　・DSLD-1　・DSLD-2
多機能トイレ出入口 引き戸用駆動装置
　性能値
　　・
　　※標準仕様書表16.9.2による
　　引き戸用検出装置の種類は、多機能トイレスイッチとする
引き戸用検出装置
　性能値
　　・
　　※標準仕様書表16.9.3による
　種類　・光線（反射）センサー　・熱線センサー　・音波センサー　・光電センサー
　　　・電波センサー　・タッチスイッチ　・押しボタンスイッチ
戸の開閉方式　※建具表による　・
防錆　・適用する　・適用しない
凍結防止措置　・適用する　・適用しない

14 自閉式上吊り引戸装置
（16. 10. 3）

性能値等　※標準仕様書表16.10.1による
（試験方法）
（１）耐久性（開閉繰り返し）試験
　開閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸の開端位置から閉端位置までの作動を確認できる試験を行う。
　同試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。
　適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはメーカーの耐久性能試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認することで、試験に代えることができるものとする。
（２）耐衝撃性試験
　落下高さ17cmにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。
　耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。
　適用戸総質量の区分毎に試験を行う。
（３）気密性能試験
　JIS A 1516「建具の気密性試験方法」による。

15 重量シャッター
（16. 11. 2、3）

シャッターの種類　・管理用シャッター　耐風圧強度（　）N/㎡
　　　　　　　　　・外壁用防火シャッター　耐風圧強度（　）N/㎡
　　　　　　　　　・屋内用防火シャッター
　　　　　　　　　・防煙シャッター
開閉方式の種類　※　上部電動式（手動併用）　・上部手動式
二重チェーン、急降下制御装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置箇所
　※図示　・
障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置個所
　※図示　・
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構の設置個所
　※図示　・

管理用シャッターのシャッターケース　・設ける　・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
　鋼板の種類　・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
　　　　　　　・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
　めっきの付着量　※Z12又はF12を満足するもの　・

16 軽量シャッター
（16. 12. 2~4）

開閉形式の種類　※手動式　・上部電動式（手動併用）
耐風圧強度　（　　）Ｎ／㎡
スラットの材質の種類
　・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼板）
　　めっきの付着量　※Z06又はF06を満足するもの　・
　・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼板）
　　めっきの付着量　※AZ90を満足するもの　・
スラットの形状　※インターロッキング形　・オーバーラッピング形
シャッターケース　※設ける　・設けない
ガイドレール（中柱共）の材質　※ステンレス鋼板（SUS304）厚さ1.0mm　・
座板の材質（屋外の場合）　※ステンレス製既製品　・

18 ガラス
（16. 9. 7）
（16. 14. 2~4）
（表16. 14. 1）

下記のガラス以外の品種、厚さの呼びによる種類等
　※　建具表による　・
合わせガラスの材料板ガラスの種類、厚さの組合せ、合わせガラスの合計厚さ及び特性による種類
　※　下記以外は建具表による　・

材料板ガラスの種類、組合せ	落球衝撃はく離特性及びショットバック衝撃特性による種類
・フロート板、フロート板合わせガラス	・Ⅰ類　・Ⅱ－１類
・	・Ⅱ－２類　・Ⅲ類

強化ガラスの形状による種類、材料板ガラスの種類による名称及び特性による種類
　※　下記以外は建具表による　・

材料板ガラスの種類による名称	材料板ガラス	破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類
・フロート強化ガラス	・フロート板ガラス ・	・Ⅰ類　・Ⅲ類
・	・	

熱線吸収板ガラスの材料板ガラスによる種類、厚さによる種類及び性能による種類
　※　下記以外は建具表による　・

材料板ガラスによる種類	性能による種類	色調
・熱線吸収フロート板ガラス	・１種　・２種	・グリーン　・
・熱線吸収網入り磨き板ガラス		

○複層ガラスの材料板ガラスの種類、厚さの組合せ及び複層ガラスの厚さ
　※　下記以外は建具表による　・

断熱性による区分	乾燥気体の種類
・Ｔ１　・Ｔ２　・Ｔ３　・Ｔ４　・Ｔ５　・Ｔ６	○空気　・アルゴン　・

日射取得性、日射遮蔽性による区分	乾燥気体の種類
・Ｇ　・Ｓ	・空気　・アルゴン　・

熱線反射ガラスの材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
　※　下記以外は建具表による　・

材料板ガラスによる種類	日射熱遮蔽性による区分	耐久性による区分
色調（・ブルー　・グレー　・　　）	・１種	Ａ類
	・２種	・Ａ類　・Ｂ類
	・３種	Ｂ類

反射被膜面　・　内面　・　外面
映像調整　・　行わない　・　行う

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラスの留め材	ガラス溝の大きさ（mm）
アルミニウム製	※シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形 ・	※建具の製造所の仕様による ・
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材 ・	※建具の製造所の仕様による ・
ステンレス製	※シーリング材	※建具の製造所の仕様による ・
樹脂製	※シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形 ・	※建具の製造所の仕様による ・

防火戸のガラス留め材は、建築基準法に基づく防火性能の認定を受けた条件による。

18 塗装工事

1 材料
（18. 1. 3）

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外　・
　・防火材料　※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
　　　　　　・次の箇所を除き防火材料とする。（箇所：　　　　　）

2 素地ごしらえ
（18. 2. 2~7）

下地面等		種別
○木部	不透明塗料塗りの場合	※A種　・B種
	○透明塗りの場合	※B種　・A種
鉄鋼面		※C種　・A種　・B種
亜鉛めっき鋼面		・A種　・B種
モルタル面及びプラスター面		※B種　・A種
ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ＡＬＣﾊﾟﾈﾙ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面（DP塗装除く）		※B種　・A種
せっこうボード面及びその他	目地：継目処理工法	※A種　・B種
○ボード面	目地：継目処理工法以外	※B種　・A種

3 錆止め塗料塗り
（18. 3. 2、3）

下地面等		工程の種別	塗料の種別
鉄鋼面	見え掛り部分	※A種　・B種	・A種
	見え隠れ部分	※B種　・A種	EP-Gの場合　※B種　・A種
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具	※A種　・B種	・A種　※B種 EP-Gの場合はC種
	鋼製建具以外	※B種　・A種	B種 EP-Gの場合はC種

4 塗料
（18. 4. 1~18. 14. 2）

塗装		種別	塗料の種類	高日射反射率塗料の適用 G
・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外	※A種　・B種	※1種　・2種	－
	木部屋内	※B種　・A種	※1種　・2種	－
	鉄鋼面	※B種　・A種	※1種　・2種	・
	亜鉛めっき鋼面	－	※1種　・2種	・
・クリヤラッカー塗り(CL)		※B種　・A種	－	－
・アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り(NAD)		※B種　・A種	－	－
・耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	－	上塗り等級（　）級	・
	亜鉛めっき鋼面	－	上塗り等級（　）級	・
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・A種	上塗り等級１級	－
		・B種	上塗り等級２級	
		・C種	上塗り等級３級	－
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)	コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面その他ボード面等	※B種　・A種	－	－
	屋内の鉄鋼面	※B種　・A種		－
○合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		※B種　・A種	－	－
・合成樹脂エマルション模様塗料塗り(EP-T)		※B種　・A種	－	－
・ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		※B種　・A種	－	－
・オイルステイン塗り(OS)（塗料　・水性　・油性）		－	－	－
○木材保護塗料塗り(WP)		※B種　・A種	－	－

高日射反射率塗装 G を適用する場合の適用箇所は、屋上・屋根面の金属面とする。

19 内装工事

1 接着剤
（19. 2. 2）

接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-２-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添付されていないものとする。
ホルムアルデヒド放散量
　※　規制対象外　・
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
　・　図示　・

2 ビニル床シート G
（19. 2. 2、3）

種類の記号	色柄	特殊機能	厚さ(mm)	備考
※ＦＳ	・無地 ・マーブル柄 ・柄物	・帯電防止 ・耐動荷重性 ・防滑性	※2.0 ・	

目地処理する場合の工法　※　熱溶接工法　・
特殊機能
　帯電防止　・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満
　　　　　　又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10^{7}～1×10^{10}Ω程度
　　　　　・

4 ビニル幅木
（19. 2. 2）

材質の種類　※軟質　・硬質
高さ(mm)　※60　・75　・100
厚さ(mm)　※1.5以上　・

7 合成樹脂塗床
（19. 4. 2、3）
（表19. 4. 4、5）

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 ○ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床	犬猫飼養室 犬猫隔離室	・薄膜流しのべ 工法 ・厚膜流しのべ工法 ・樹脂モルタル工法	○平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			※平滑仕上げ

塗料のホルムルデヒド放散量　※規制対象外　・

8 防じん用塗床

材料　水性アクリル系樹脂塗材とし、製造所の指定する製品とする。
工法　製造所の指定する工法とする。
　　なお、上塗りは２回塗りとし、総塗布量は0.25kg/㎡とする。
仕上げの種類　※　平滑仕上げ　・　防滑仕上げ　※標準色　・
JIS K 5970に基づく塗料のホルムアルデヒド放散量　※規定対象外　・

MEMO

一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号
有限会社　羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録　第　119996号
羽子田　靖彦

TITLE　鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備事業
NAME　建築工事特記仕様書（５）
SIGNATURE
SCALE
DATE　R08／08
FILE NO.

11 せっこうボードその他のボード及び合板張り
（19. 7. 2、3）
（表19. 7. 1）

種　　類	JIS記号	厚さ(mm)、規格等
・硬質木毛セメント板 G	HW	・15　・20　・25　・
・中質木毛セメント板 G	MW	・15　・20　・25　・
・普通木毛セメント板 G	NW	・15　・20　・25　・
・硬質木片セメント板 G	HF	・12　・15　・18　・21　・
・普通木片セメント板 G	NF	・30　・
・けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ 2（無石綿）　・6　・8
・ロックウール化粧吸音板	DR	・フラットタイプ（・9　・12　・　）・不燃 ・凹凸タイプ（・12　・15　・19　・　）・不燃
・ロックウール吸音ボード1号	RW-B	・25　・
・グラスウール吸音ボード32K	GW-B	・25(ガラスクロス包)　・
・せっこうボード	GB-R	※12.5（不燃）　・15（不燃）
・不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5（不燃）　化粧無（下地張り用） 化粧有（トラバーチン模様）
・シージングせっこうボード	GB-S	12.5（・不燃　・準不燃）
・強化せっこうボード	GB-F	・12.5（不燃）　・15（不燃）
・せっこうラスボード	GB-L	9.5
・化粧せっこうボード（木目）	GB-D	12.5（不燃）幅 440mm 程度 模様（・柾目　・板目）専用下地材有り
・化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（トラバーチン模様）	GB-D	9.5（準不燃）
・普通合板 G		表板の樹種 生地、透明塗料塗り （※ラワン程度　・　） 不透明塗料塗り （※しな程度　・　） 板面の品質（　） 厚さ(mm)（　） 接着の程度　・1類　・2類 ・防虫処理
・天然木化粧合板 G		樹種名（　） 接着の程度　・1類　・2類 厚さ(mm)（　） ・防虫処理　・難燃処理　・防炎処理
・特殊加工化粧合板 G		化粧加工の方法（・オーバーレイ　・プリント　・塗装） 表面性能（　）タイプ 接着の程度　・1類　・2類 厚さ(mm)（　） ・防虫処理
・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903 による　（※ 1.2　・　）
・ポリエステル樹脂化粧板		
・ミディアムデンシティファイバーボード G	MDF	・3　・7　・9　・12　・
・単板張りパーティクルボード G		・無研磨板ＶＮ　・研磨板ＶＳ ・10　・12　・15　・18　・
・化粧パーティクルボード G		・単板オーバーレイ ＤＶ ・ プラスチックオーバーレイ ＤＯ ・ 塗装 ＤＣ ・ 10（難燃）・ 12（難燃）・
・ハードボード（素地） G	HB	・未研磨板（・スタンダード　・テンパード ＲＮ） ・研磨板　（・スタンダード　・テンパード ＲＳ）
・ハードボード（化粧） G		・内装用 ＤＩ　・外装用 ＤＥ ・2.5　・3.5　・5　・7　・
・インシュレーションボード G	IB	A級（・天井仕上　・内装仕上　・　） ・9　・12　・15　・18　・

せっこうボード等の下地　※図示　・
軽量鉄骨下地ボード遮音壁に用いる遮音シール材
　※シーリング材　・ジョイントコンパウンド
合板類の張付け　※B種　・A種
せっこうボードの目地工法　※仕上表による　・

12 壁紙張り
（19. 8. 2、3）

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・

施工箇所	壁紙の種類					防火性能	備考
	紙	繊維	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	無機質	その他		
図示	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃	

モルタル・プラスター面の素地ごしらえ　※B種　・A種
コンクリート面の素地ごしらえ　※B種　・A種
せっこうボード面の素地ごしらえ　※B種　・A種

13 断熱材 G
（19. 9. 2、3）

フェノールフォームを使用した断熱材、保温材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外　・

・断熱材打込み工法

種類		厚さ(mm)	施工箇所
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材		・25　・	・
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキン層なし）	・2種bA ・	・25　・	・外壁 ・
	・2種bA ・	・25　・30	・スラブ ・
・硬質ウレタンフォーム断熱材		・25　・	・
・フェノールフォーム断熱材		・25　・	・

施工箇所詳細は、仕上表及び図示による
・断熱材現場発泡工法
　断熱材の種類　※A種1　・A種1H
　厚さ (mm)　・25　・30　・　20
　施工箇所　・図示　・

19 内装工事

13 断熱材 G
（19. 9. 2、3）

・現場発泡断熱材
（品質性能等）

項目	品質・性能
難燃性	下記のいずれかによっていること 1）JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 2）法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験（コーンカロリー試験）に適合していること。
発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の 1）～3）に適合していること。 1）総発熱量が8M J／㎡以下であること。 2）防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 3）最高発熱速度が、10秒以上継続して200ＫＷ／㎡を超えないこと。

（試験方法）
イ．原液試験（原液粘度試験）
JIS K 7117-1「プラスチック－液状、乳濁状又は分散状の樹脂－ブルックフィールド形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法」による。
ロ．発砲品試験
1）試料の作成は、JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6. 2. 1による。
2）試料の状態調節は、JIS A 9526の6. 2. 2による。また、試験片の作成はJIS A 9526の6. 2. 3による。
3）試験片の状態調節及び試験場所は、JIS A 9526の6. 2. 4による。
4）圧縮強さ試験は、JIS A 9526の6. 2. 5による。
5）熱伝導率試験は、JIS A 9526の6. 2. 6による。
6）接着強さ試験は、JIS A 9526の6. 2. 7による。
7）透湿率試験は、JIS A 9526の6. 2. 8による。
ハ．難燃性の試験は、下記のJIS A 1321に規定する表面試験及び発熱性試験による。
1）難燃性の試験については、JIS A 1312に規定する試験方法に準じる。
2）発熱性試験は、建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。

20 ユニット及びその他の工事

5 階段滑止め
（20. 2. 6）

種類	幅（mm）	取付け寸法	端部フラットエンド	
※ステンレス製（SUS304） ビニルタイヤ入り ・	※約35 ・	※接着工法 ・埋込み工法	※あり ・なし	※ビニル製 ・ステンレス製 －

7 鏡
（20. 2. 9）

取付箇所　・図示による　・
寸法（mm）　・図示による　・
厚さ（mm）　※5　・

8 表示
（20. 2. 10）

案内用図記号はJIS Z 8210による。
誘導標識、非常用進入口等の表示　※消防法に適合する市販品　・
室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等
　※図示　・

14 点検口

・天井点検口

材種	寸法（mm）	形式		外枠	内枠
アルミニウム製	460×460 ・600×600 ・	一般形 ・気密形	・屋内外用 ・屋内用	額縁タイプ ・目地タイプ	額縁タイプ ・目地タイプ

（品質・性能）
内外枠の材質　アルミニウム製
JIS H 4100 A6063S又は同等の性能を有するもの
表面処理　陽極酸化皮膜JIS H 8601(AA6)又は同等の性能を有するもの
（外部に用いる場合は、JIS H 8602のB種又は同等以上の性能を有するもの）
内枠及び外枠のコーナーピース
　鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
外枠の取付け金物
　鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
内枠の仕上げ材留付金物
　アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材、亜鉛めっき鋼板又は同等の性能を有するもの
耐久性能（繰り返し開閉試験）
（１）50回、100回、300回の内蓋の垂れ下がりが、0. 5mm以内。
（２）開閉試験後、使用上支障をきたす異常がないこと。
枠の寸法許容差　±0. 5mm以内
外枠と内枠のクリアランス　片側2. 0mm以内
（試験方法）
内蓋（内枠）の繰り返し開閉試験
（１）試験体は、枠見込み40mm程度のものとする。
　吊り金物は、外枠を天井下地取付け用チャンネルに直接留付ける方式（天井ボードなどの仕上材を挟んで固定しない方式）とする。標準仕様書14章4節により製作した試験体固定用天井下地開口補強に試験体の天井点検口450mm×450mmを吊り金具4箇所にて各メーカー仕様に従い取付ける。なお、野縁の種類は、19形とし仕上げ材は、せっこうボード厚さ9. 5mm（JIS A 6901「せっこうボード製品」のGB－Rの難燃2級又は発熱性2級以上）二重張りとする。
（２）試験は、内蓋を閉じた状態から自由開放状態にする動作を繰り返し行う。
（３）測定は、上記繰り返し試験において、各50回、100回、300回毎に内蓋の垂れ下がり状態を測定する。

・床点検口

材種	寸法（mm）	形式		備考
・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	・460×460 ・600×600 ・	・一般形 ・密閉形	・屋内外用 ・屋内用	・鍵付き

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。

（品質・性能）
以下のもの又は同等のものとする

部材名	材質	屋内外用	屋内用
受枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材	JIS H 4100のA6063S －T （表面処理）JIS H 8602のB種又はJIS H 8601のAA15	
	ステンレス鋼製	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 （表面処理）HL又は2B仕上げ程度	JIS G 4305のSUS430 （表面処理）HL又は2B仕上げ程度
	鋼製	－	鋼製又はJIS G 3313の類にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、鉛酸カルシウムさび止めペイント（JIS K 5629）の防錆処理を行ったもの
二重蓋の中蓋	鋳鉄	JIS G 5501のFC150、FC200	
目地材	黄銅	JIS H 3100　C2600、C2720、C2801 JIS H 3250　C2602、C2604	
	ステンレス	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 JIS G 4308のSUS304	
底板材 コーナーピース 底板補強材	ステンレス鋼板	JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308のSUS304	JIS G 4305　SUS430
	アルミニウム板	JIS H 4000(A1100P H24) 表面処理：陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601(AA15) JIS H 8602(B)	－
	鋼材	－	鋼製又はJIS G 3313の類にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、鉛酸カルシウムさび止めペイント（JIS K 5629）の防錆処理を行ったもの
パッキン材		塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等 枠の材質、形状に適した弾力性、密着性、気密性を有するもの	
アンカー材		鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの	
取手		黄銅鋳鉄製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋳鉄製、ステンレス鋳鋼品、ステンレス製等 ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材などで被覆した、合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないものとする	
鍵		黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする 施錠・開錠は、鍵又は開閉用ハンドル式とする	
蓋の耐荷重性能		蓋中央部が荷重値Pn=1. 000Nにおいて残留たわみが点検口の有効径の0. 08%以内であること。 受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと。 破壊荷重は、荷重値のPnの2倍以上であること	

受け枠寸法の許容差　±0. 5mm以下
蓋寸法の許容差　±0. 5mm以下
受け枠と蓋枠のクリアランス　片側2. 0mm以内
（試験方法）
耐荷重試験
　試験体は、強物用とし、600mm角程度、枠見込みは、40mm以下とする。
　試験は、蓋枠の四周を支持さ せ、蓋の中央部に φ50mmの加圧板を設置し、加圧する。
　本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う 。
　本試験は、1. 000Nで加圧、荷重除去を3回繰り 返し 行った後、その後試験体が破壊する（ 終局荷重）まで加圧する。
　測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す 毎にたわみと 受け枠の変形その他の異常について1. 000Nまで3回繰り返す。

16 止水板

形式　・埋込式　・据置式　・壁張式
材質　・塩化ビニル製（種類　　）　・非加硫ブチルゴム製　・
寸法（mm）・
施工箇所　・図示　・

17 エキスパンションジョイント金物

材質	クリアランス（mm）	耐火性能	備考
・アルミニウム製 ・ステンレス製	・50 ・100 ・150	・有（　） ・無	

外部は防水型とする。

30 手すり

材質	表面仕上げ	直径（mm）	取付箇所
・集成材	・クリアラッカー　・	・35　・45	
・ビニル製ハンドレール			

33 視覚障がい者誘導用ブロック（視覚障がい者用ブロック）
（11. 2. 2）
（19. 2. 2）

施工箇所	種類	寸法（mm）	厚さ（mm）
屋内	・塩化ビニル製	・300×300　・	・7. 0　・
	・セラミックタイル製 G	・300×300　・	・
	・レジンコンクリート製	・300×300　・	・
	・コンクリート製		
屋外	・セラミックタイル製 G	・300×300　・	・
	・レジンコンクリート製	・300×300　・	・
	・コンクリート製		

突起の形状、配列及び寸法はJIS T 9251よる。

21 排水工事

1 屋外雨水排水
（21. 2. 1、2）
（表21. 2. 1、2）

排水管用材料

材種	種類・記号	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管（１種）	・B形管	※図示	
・硬質ポリ塩化ビニル管	・ VP		※図示	
	・ VU		※図示	
	・ RS-VU G		※図示	

基床の厚さ及び種類　・図示　・
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料　※接着剤　・
側塊の形状及び寸法　・図示　・
排水桝の種類　・図示　・
砂地業に用いる材料　※シルト、有機物等の混入しない締固めに適した山砂、川砂又は砕砂
　・
砂利地業に用いる材料　※再生クラッシャラン G
　・切込砂利又は切込砕石
現場打ちの場合のコンクリート材料
　設計基準強度　※18N/mm2
　スランプ　※15cm又は18cm　・
現場打ちの場合の鉄筋
　種類の記号　※SD295A　・
現場打ちの場合の足掛け金物
　材料　※ステンレス製　・鋼製　・合成樹脂被覆加工を行った足掛け金物
凍上抑制層に用いる材料　・
砂の粒度試験　・行う　・行わない

2 鋳鉄製ふた
（21. 2. 1）

鋳鉄製ふた

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易密閉形 （パッキン式） ・密閉形 （テーパ・パッキン式） ・中ふた付き密閉形 （テーパ・パッキン形）	・T-2用 ・T-6用 ・T-20用 ・	・有り ・無し	左記以外の品質等は（公社）空気調和衛生工学会SHASE-S209による
塩ビ製	・RS-VU G			

グレーチング

材質	形式	用途	適用荷重	メインバーピッチ	亜鉛めっき（付着量）	上面形状
・鋼製	—	・溝ふた（横断用）	・歩行用	・細目 ・	・（　）	・凹凸形 ・
	・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた（側溝用） ・桝ふた用 ・Ｕ字溝用	・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-25用	・普通目 ・細目	・（　）	・平形 ・
・ステンレス製	—	・溝ふた（横断用）	・歩行用	・細目 ・	・（　）	・凹凸形 ・
	・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた（側溝用） ・桝ふた用 ・Ｕ字溝用	・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・普通目 ・細目	・（　）	・平形 ・

＜鋼製グレーチング＞以下のもの又は同等のものとする

項目	品質・性能
メインバー、サイドバー及びエンドプレート	JIS G 3101　SS400
クロスバー	JIS G 3101 SS400及びJIS G 3505 「軟鋼線材」SWRM
受け枠用アングル材	JIS G 3101 SS400及びJIS G 3132 「鋼管用熱間圧延炭素鋼鋼帯」SPHT
溶融亜鉛めっきの付着量	JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」による試験において溶融亜鉛めっきの付着量がHDZ40以上又は、HDZ 50以上
表面仕上げ	塗装仕上げとする場合は、樹脂系塗料
アンカー	間隔　側溝の場合500mm内外
ふた	幅及び長さの許容差　±3. 0mm
荷重性能	設計荷重の1. 5倍までの加力に対して、溶接部のはずれ等その他の異常がないものとする

＜ステンレス製グレーチング＞

項目	品質・性能
メインバー、クロスバー	JIS G 4303, JIS G 4304, JIS G 4305, JIS G 4308, JIS G 4318のSUS304又はJIS G 4304, JIS G 4305のSUS430J1L
エンドバー、サイドバー	JIS G 4303, JIS G 4304, JIS G 4305, JIS G 4308, JIS G 4317, JIS G 4318, のSUS304　JIS G 4320のSUS304又はJIS G 4304, JIS G 4305のSUS430J1L
受け枠用アングル材	JIS G 4304, JIS G 4305, JIS G 4317, JIS G 4320のSUS304又はJIS G 4304, JIS G 4305のSUS430J1L
アンカー	JIS G 3101 SS400 、塩害の多い地区は塩害に対する防錆処理を行う 間隔　側溝の場合500mm内外
表面仕上げ	2B程度
ふた	幅及び長さの許容差　±3. 0mm
荷重性能	設計荷重の1. 5倍までの加力に対して、溶接部のはずれ等その他の異常がないものとする

（荷重試験方法）
設計荷重は以下の通りとする

歩車道区分	荷重種別	側溝用(KN)	横断溝用(KN)	加圧面積(cm)
車道	T-20	78. 5	109. 8	20×50
	T-14	54. 9	76. 9	20×50
	T-6	23. 5	33. 0	20×24
	T-2	7. 8	11. 0	20×16
歩道	4. 903N/㎡の等分布荷重			

試験体は、下記の種別ごとに強度計算における応力度が最大となる製品について試験を行う。
イ）溝ふた　横断用　T-20～T-2のうち1体
　　歩道用　　のうち1体
　　側溝用　T-20～T-2のうち1体
ロ）U字溝用　側溝用　T-20～T-2のうち1体
　　歩道用　　のうち1体
設計荷重を基準として一方向繰り返し加力を行う。加力速度は、4. 903N/sとする。繰り返し加力は3回行った後、残留ひずみ等がないか確認する。その後設計荷重の1. 5倍まで加力し、溶接部のはずれ等異常の有無について確認する。

MEMO

一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y. HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録　第　119996号
羽子田　靖彦

TITLE	鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備事業	SIGNATURE		FILE NO.
NAME	建築工事特記仕様書（６）	SCALE	DATE R08／08	SEET NO. A－ 06／26

3 街きょ、縁石、側溝
(21. 3. 1、2)
(表21. 3. 1)

街きょ、縁石、側溝

種類	形状、寸法
・縁石	・ 図示 ・
・U形側溝	・ 図示 ・
・U形側溝ふた	・ 図示 ・
・	・ 図示 ・

砂地業に用いる材料 ※シルト、有機物等の混入しない締固めに適した山砂、川砂又は砕砂
・

砂利地業に用いる材料 ※再生クラッシャラン G
・切込砂利又は切込砕石

砂利地業の厚さ ※100 (mm) ・図示

現場打ちの場合のコンクリート材料
設計基準強度 ※18N/mm2 ・
スランプ ※15cm又は18cm ・

現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号 ※SD295A ・

凍上抑制層に用いる材料 ・

砂の粒度試験 ・行う
・行わない

4 埋戻し土
(21. 2. 2)

※ B種 ・

22 舗装工事

1 路床
(22. 2. 2、3、5)
(表22. 2. 1)

路床の材料 (22.2.2、3、5)(表22.2.1)

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 G	・図示 ・
・凍上抑制層	・再生クラッシャラン G ・クラッシャラン ・切込み砂利 ・砂	・図示 ・
・フィルター層	・砂 ・	・図示 ・

路床安定処理
・添加材料による安定処理
種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種
・生石灰 (・特号 ・1号) ・消石灰 (・特号 1号)
添加量 kg (目標CBR ・3以上 ・)
目標CBRを満足する添加量の確認方法
・安定処理土のCBR試験 ・
・ジオテキスタイル
単位面積質量 ・60g/㎡以上 ・
厚さ(mm) ・0.5～1.0 ・
引張強さ ・98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 ・
透水係数 ・1.5×10cm/sec以上 ・

試験
路床土の支持力比 (CBR) 試験 ・行う ・行わない
路床締固め度の試験 ・行う ・行わない
現場CBR試験 ・行う ・行わない

2 路盤
(22. 3. 2、3、5)
(表22. 3. 1)

路盤の厚さ ・図示 ・

路盤材料

種類	
砕石	・クラッシャラン
	・粒度調整砕石
再生材	・クラッシャラン G
	・粒度調整砕石 G
・クラッシャラン鉄鋼スラグ G	
・粒度調整鉄鋼スラグ G	
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ G	

路盤締固め度の試験 ※行う ・行わない

3 アスファルト舗装
(22. 4. 2～6)
(表22. 4. 4)

アスファルト舗装の構成及び厚さ ※図示 ・

材料
アスファルト ・ 再生アスファルト G (種類 ※60～80 ・80～100)
・ ストレートアスファルト
骨材 ・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 G

加熱アスファルト混合物等の種類

区分	地域	種類
表層	・一般地域 ・寒冷地域	・密粒度アスファルト混合物(13) ・細粒度アスファルト混合物(13) ・密粒度アスファルト混合物(13F)

シールコートの施工 ※行わない ・行う

試験
アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない

舗装の平たん性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

8 砂利敷き
(22. 9. 2)

種別
・ A種 (施工範囲 : ・図示 ・通路 ・)
・ B種 (施工範囲 : ・図示 ・建物周囲 ・)

9 路面標示用塗料

JIS K 5665 (路面標示用塗料) による

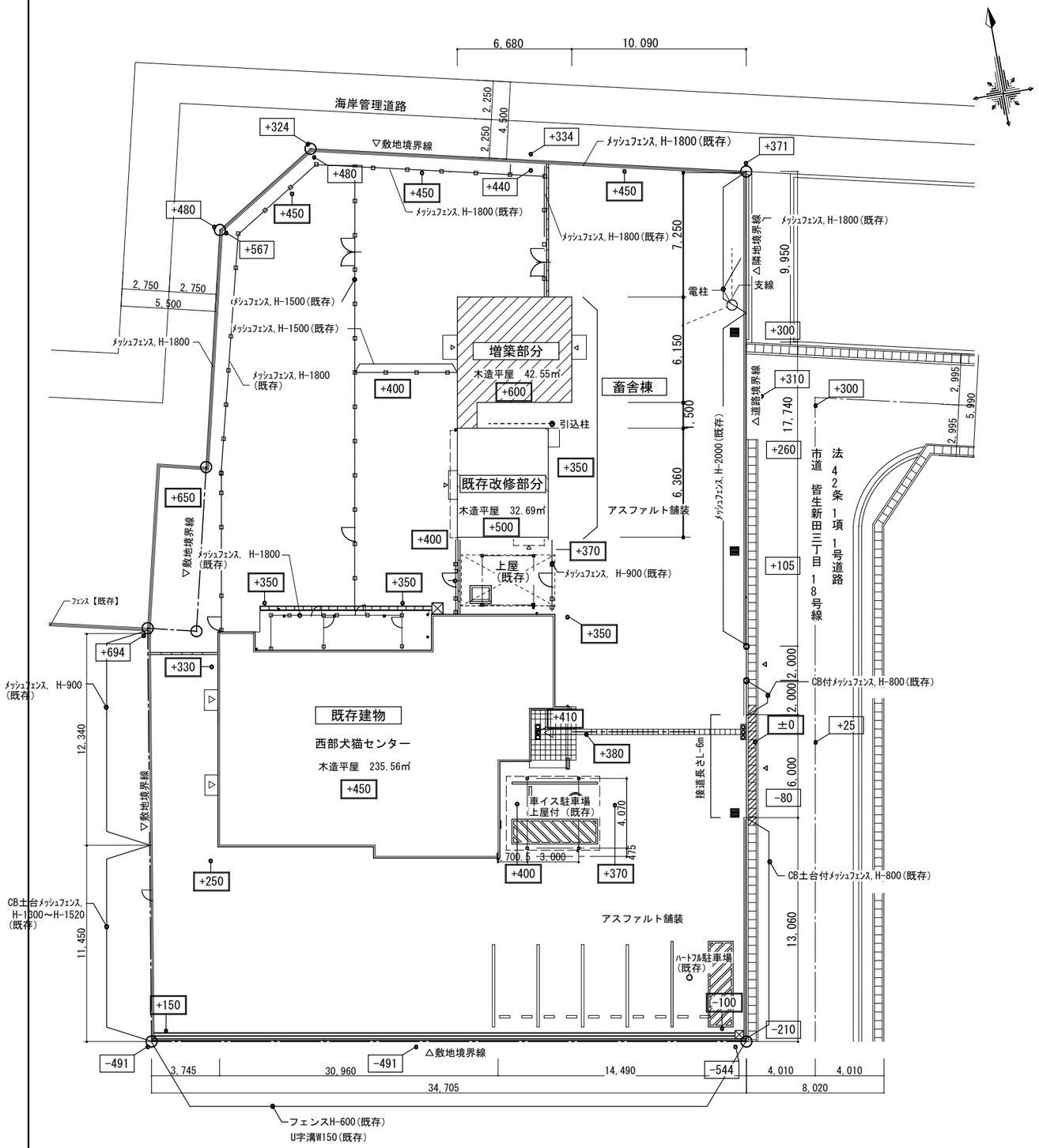
種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)	適用部位
※ 3種1号	溶融	粉体状	・ 白	・ 150	・ 1.0	・白線 ・視覚障害者用表示
・ 1種 G	常温	液状	・	・ 100	・	・車椅子駐車場ライン
・ 2種 G	加熱					・

G 低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

MEMO

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第 607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録 第 119996号
羽子田 靖彦

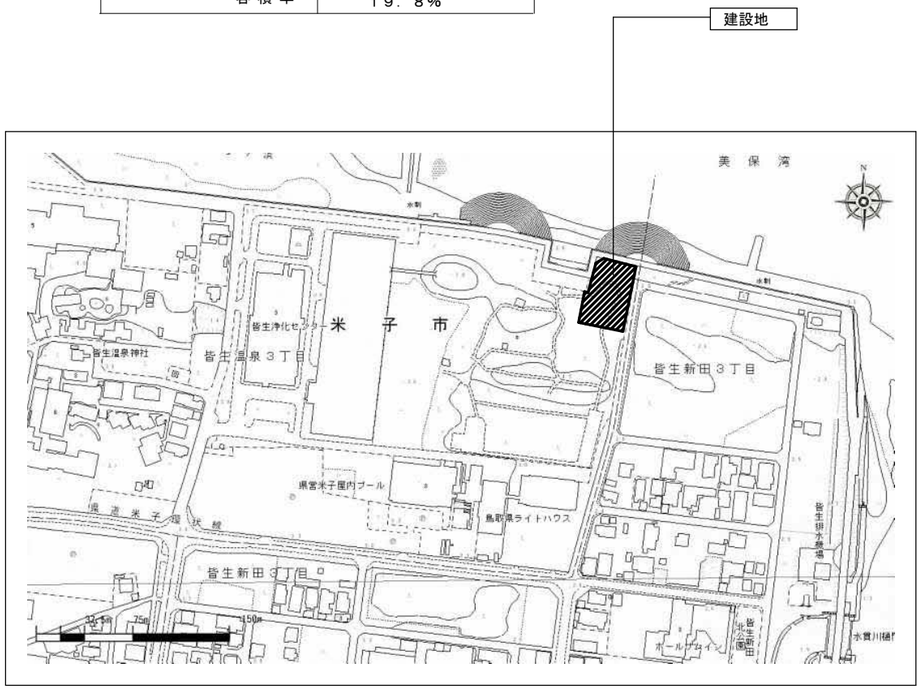
TITLE	鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備事業	SIGNATURE		FILE NO.
NAME	建築工事特記仕様書 (7)	SCALE	DATE R08／08	SEET NO. A － 07／26



配置図 S=1:200

単位（㎡）

面積表	敷地面積	1,684.37	
		建築面積	延べ面積
今回工事建物	増築部分	42.55	42.55
	既存部分	32.69	32.69
	計	75.24	75.24
既存建物	犬猫センター	243.22	235.56
	車イス駐車場	7.93	22.18
	上　屋	3.34	-
	計	254.49	257.74
	合　計	329.73	332.98
建ぺい率		１９．６％	
容積率		１９．８％	



附近見取り図

MEMO

一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録　第　119996号
羽子田　靖彦

TITLE	鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE		FILE NO.
NAME	配置図	SCALE 1/200 (A2) 1/100 (A2)	DATE R08／08	SEET NO. A－ 08／26

外部仕上げ

屋根	折版屋根88型　カラーガルバリウム鋼板ｔ-0.6（ペフ付） 雪持ち金物：L-30×30×4　亜鉛メッキ　１段
外壁	窯業系サイディング　ヨコ張り厚１６　（通気金具工法）　透湿防水シート下地 防火構造：PC030BE-9201
樋	軒樋：折板用カラーＶＰ　W120　受け金物ＳＵＳ@450　縦樋：カラー塩ビ７５φ　ツカミ金物　ＳＵＳ製@1200
根廻り	モルタル刷毛引き　厚15
出入口廻り	床：モルタル金コテ押え仕上げ　　アルミ庇；出幅600　W-1000

特記

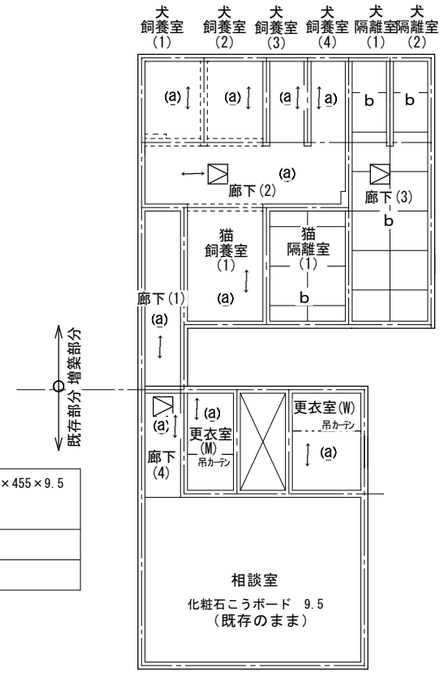
1	断熱仕様について 天井裏：グラスウールマット（２４Ｋ）厚１００ 外　壁：グラスウールマット（２４Ｋ）厚１００ 土間下：発泡ポリスチレン厚２５
2	内外部共　木部の見え掛かり部は全て木材保護塗料２回塗りとする。
3	内装材・下地材・接着剤等は全て　Ｆ☆☆☆☆適合品又は規制対象外品を使用のこと
4	FL+１０００まで　防蟻処理を行うこと
5	特記なき限り手摺・造作家具・衛生器具等取付部分は適切な下地補強を行う。
6	クロスの継ぎ目にはクロス用ジョイントテープを用いる。

参考仕様

長尺塩ビシート(A)　厚2.0	東リ：NSプレーンNW同等品
長尺塩ビシート（B）厚2.0	東リ：ﾌﾛｱﾘｭｰﾑﾏｰﾌﾞﾙNW同等品
窯業系サイディング　ﾖｺ張り厚１６	ニチハ：モエンエクセラード16 キアンカV同等品

建材認定番号

PB　9.5mm	ＱＭ－９８２８
PB　12.5mm	ＮＭ－８６１９
ＥＰ	ＮＭ－８５８５
ケイカル板6ｍｍ	ＮＭ－８５７８
ビニルクロス（準不燃）	ＱＭ－０４３３



凡例

(a)	木組天井下地化粧石こうボード910×455×9.5 は貼方向を示す
b	木組天井下地ケイカル板6.0　EP塗
⊠	アルミ天井点検口　450×450

天井伏図　1:100

内部仕上げ

1階	室名	FL (設計GL=±0)	床	巾木	壁	廻り縁	天井	CH	備考
増築部	犬飼養室 （1）（2）	+300(水上) ～+270	エポキシ樹脂塗床仕上げ厚1.0　モルタル金コテ押え下地	塗床塗上げ　H-150～180（R面取り）	腰壁（H＝900）：SUS厚0.8張りケイカル板6+ＰＢ12.5下地 壁　：EP塗ケイカル板6+ＰＢ12.5下地	塩ビ	化粧石こうボード9.5　木組み天井下地	2,400	
増築部	犬飼養室 （3）（4）	+300(水上) ～+270	エポキシ樹脂塗床仕上げ厚1.0　モルタル金コテ押え下地	塗床塗上げ　H-150～180（R面取り）	腰壁（H＝900）：SUS厚0.8張りケイカル板6+ＰＢ12.5下地 壁　：EP塗ケイカル板6+ＰＢ12.5下地	塩ビ	化粧石こうボード9.5　木組み天井下地	2,400	SUS製スライド扉
増築部	犬隔離室 （1）（2）	+300(水上) ～+270	エポキシ樹脂塗床仕上げ厚1.0　モルタル金コテ押え下地	塗床塗上げ　H-150～180（R面取り）	腰壁（H＝900）：SUS厚0.8張りケイカル板6+ＰＢ12.5下地 壁　：EP塗ケイカル板6+ＰＢ12.5下地	塩ビ	ケイカル板6.0　EP塗　木組み天井下地	2,400	SUS製スライド扉
増築部	廊下（1）	+290 ～+200	長尺塩ビシート(A),(B)厚2．0　モルタル金コテ押え下地	ビニール巾木　Ｈ－60	ビニールクロス張りＰＢ12.5下地	同上	化粧石こうボード9.5　木組み天井下地	2,400 ～2,490	
増築部	廊下（2）	+290 ～+270	エポキシ樹脂塗床仕上げ厚1.0　モルタル金コテ押え下地	塗床塗上げ　H-150～170（R面取り）	腰壁（H＝900）：SUS厚0.8張りケイカル板6+ＰＢ12.5下地 壁　：EP塗ケイカル板6+ＰＢ12.5下地	同上	化粧石こうボード9.5　木組み天井下地	2,400	排水溝W200、アルミ製縞鋼板穴明き排水溝蓋W250
増築部	廊下（3）	+290 ～+270	エポキシ樹脂塗床仕上げ厚1.0　モルタル金コテ押え下地	塗床塗上げ　H-150～170（R面取り）	腰壁（H＝900）：SUS厚0.8張りケイカル板6+ＰＢ12.5下地 壁　：EP塗ケイカル板6+ＰＢ12.5下地	同上	ケイカル板6.0　EP塗　木組み天井下地	2,400	排水溝W200、アルミ製縞鋼板穴明き排水溝蓋W250
増築部	猫飼養室（1）	+300 ～+290	エポキシ樹脂塗床仕上げ厚1.0　モルタル金コテ押え下地	塗床塗上げ　H-150～160（R面取り）	腰壁（H＝910）：腰壁シート張厚1.1ケイカル板6+ＰＢ12.5下地 壁　：EP塗ケイカル板6+ＰＢ12.5下地	同上	化粧石こうボード9.5　木組み天井下地	2,400	
増築部	猫隔離室（1）	+300 ～+290	エポキシ樹脂塗床仕上げ厚1.0　モルタル金コテ押え下地	塗床塗上げ　H-150～160（R面取り）	腰壁（H＝910）：腰壁シート張厚1.1ケイカル板6+ＰＢ12.5下地 壁　：EP塗ケイカル板6+ＰＢ12.5下地	同上	ケイカル板6.0　EP塗　木組み天井下地	2,400	床排水桝：200角　SUS製細目ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋　250角
増築部	洗い場	+300(水上) ～+270	エポキシ樹脂塗床仕上げ厚1.0　モルタル金コテ押え下地	塗床塗上げ　H-150～180（R面取り）	腰壁（H＝900）：SUS厚0.8張りケイカル板6+ＰＢ12.5下地 壁　：EP塗ケイカル板6+ＰＢ12.5下地	同上	ケイカル板6.0　EP塗　木組み天井下地	2,400	排水溝W200、アルミ製縞鋼板穴明き排水溝蓋W250 ライニング壁、SUS製一層流し台：L900×D600×H800
既存	ホール	+200	長尺塩ビシート厚2.0　コンクリート金コテ押え下地	ビニール巾木　Ｈ－６０	PB12.5下地ビニルクロス貼	塩ビ：A面撤去	化粧石こうボード9.5　木組み天井下地	2,350	
↓									
改修後	相談室	+200	既存のまま	A面：ビニル巾木H60貼替 B,C、D面は　既存のまま	A面：既存建具、壁下地仕上げ撤去の上　ＰＢ12.5下地ビニルクロス貼替 B,C、D面は　原則既存のまま	塩ビ：A面新設 B,C、D面既存のまま	既存のまま　一部新設壁取合　補修	2,350	洗面台（設備）取付
既存	事務スペース（1）	+200	長尺塩ビシート厚2.0（撤去）　コンクリート金コテ押え下地	ビニール巾木　Ｈ－６０（撤去）	ビニールクロス貼（撤去）ＰＢ12.5下地　A面：一部壁撤去下地共、B,C面：壁撤去	塩ビ：撤去	化粧石こうボード9.5（撤去）　木組み天井下地	2,350	
↓									
改修後	廊下（４）	+200	長尺塩ビシート(B)厚2.0(新設)	ビニール巾木　Ｈ－６０(新設)	B面：壁新設　ビニルクロス貼PB12.5下地　D面：既存のまま	塩ビ：新設	化粧石こうボード9.5(新設)　木組み天井下地	2,350	
	更衣室（Ｍ）		長尺塩ビシート(B)厚2.0貼(新設)　コンクリート金コテ押え下地	ビニール巾木　Ｈ－６０(新設)	A面：ビニルクロス貼(新設)、B,C,D面：ビニルクロス貼PB12.5下地（新設）	塩ビ：新設	化粧石こうボード9.5(新設)　木組み天井下地	2,350	
	ＵＢ（２）	+400	——	——	——	——	——		シャワーユニット：TOTO JSV0808ULWK同等品
既存	事務スペース（2）	+200	長尺塩ビシート厚2.0（撤去）　コンクリート金コテ押え下地	ビニール巾木　Ｈ－６０（撤去）	ビニールクロス貼（撤去）ＰＢ12.5下地　C,D面：壁撤去	塩ビ：撤去	化粧石こうボード9.5（撤去）　木組み天井下地	2,350	
↓									
改修後	更衣室（Ｗ）	+200	長尺塩ビシート(B)厚2.0貼（新設）　コンクリート金コテ押え下地	ビニール巾木　Ｈ－６０(新設)	A、B面：ビニルクロス貼(新設)、C,D面：ビニルクロス貼PB12.5下地（新設）	塩ビ：新設	化粧石こうボード9.5(新設)　木組み天井下地	2,350	
	ＵＢ（１）	+400	——	——	——	——	——		シャワーユニット：TOTO JSV0808ULWK同等品

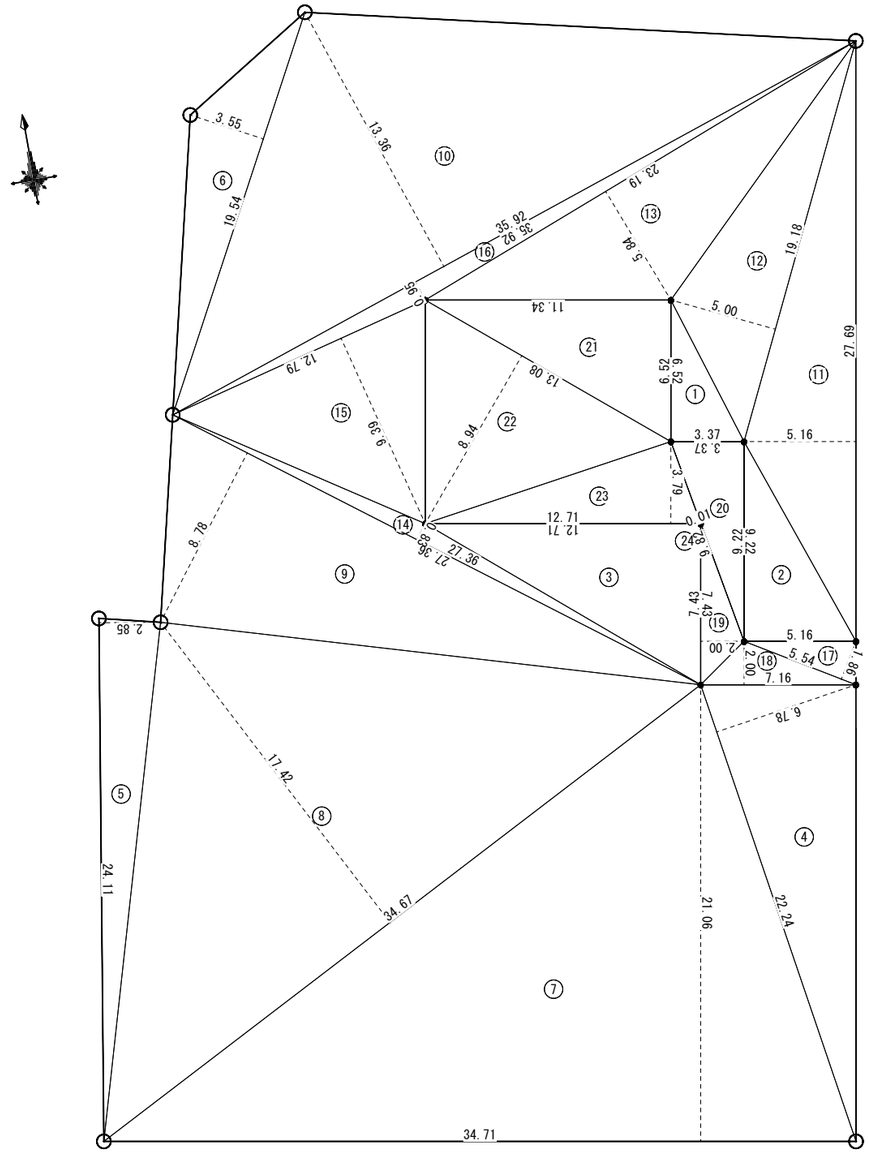
MEMO

一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録　第　119996号
羽子田　靖彦

TITLE	鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE	FILE NO.
NAME	仕上表	SCALE / DATE R08／08	SEET NO. A－ 09／／26

犬猫センター敷地面積

記号	計算式(m)	倍面積(㎡)
1	6.52 × 3.37	21.97
2	9.22 × 5.16	47.58
3	7.43 × 12.71	94.44
4	22.24× 6.78	150.78
5	24.11 × 2.85	68.71
6	19.54 × 3.55	69.37
7	34.71 × 21.06	730.99
8	34.67 × 17.42	603.95
9	27.36 × 8.78	240.22
10	35.92 × 13.36	479.89
11	27.69 × 5.16	142.88
12	19.18 × 5.00	95.90
13	23.19 × 5.84	135.43
14	27.36 × 0.83	22.71
15	12.79 × 9.39	120.10
16	35.92 × 0.95	34.12
17	5.54 × 1.86	10.30
18	7.16 × 2.00	14.32
19	7.43 × 2.00	14.86
20	9.22 × 3.37	31.07
21	6.52 × 11.34	73.94
22	13.08 × 8.94	116.94
23	12.71 × 3.79	48.17
24	9.82 × 0.01	0.10
倍面積合計		3,368.74
合計面積		1,684.37

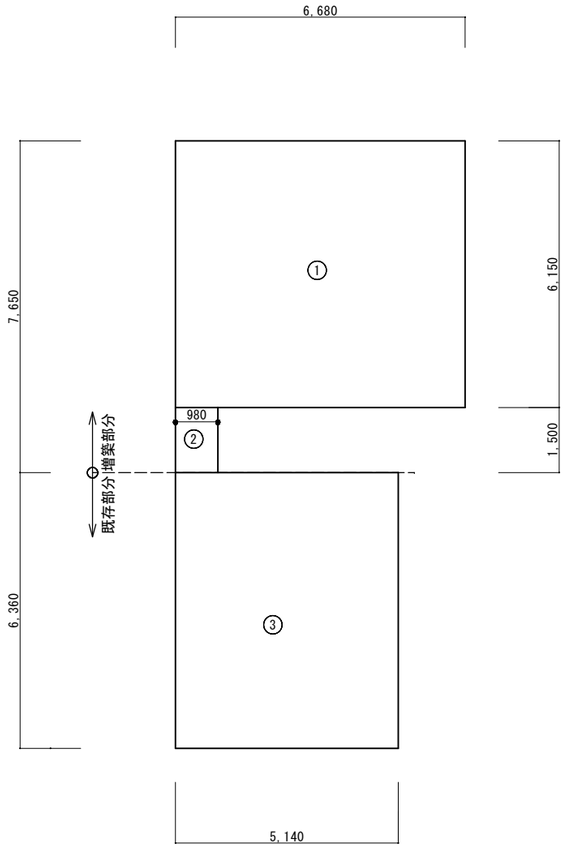


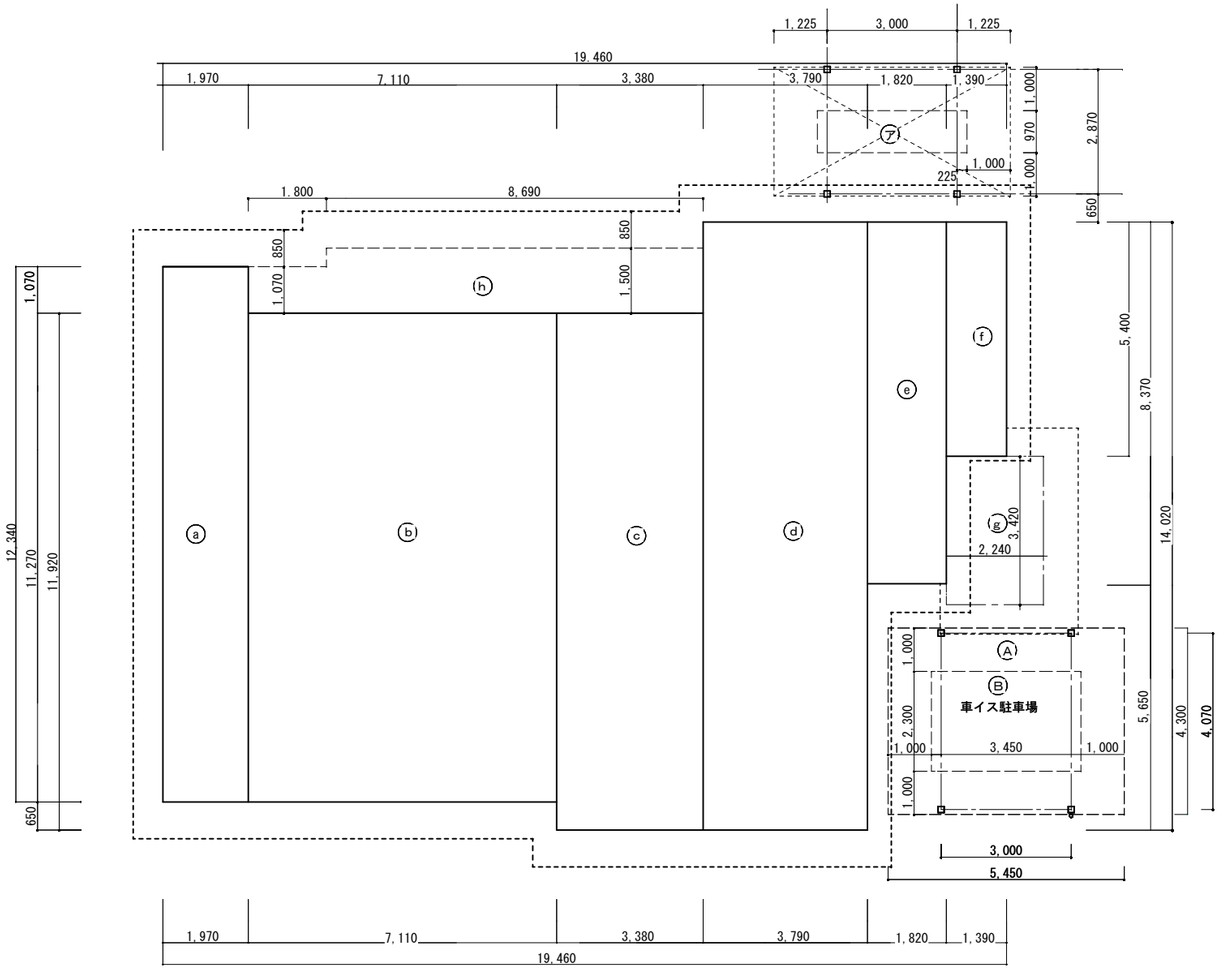
1 : 200

MEMO

一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録　第　119996号
羽子田　靖彦

TITLE 鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE		FILE NO.
NAME 敷地求積図	SCALE 1/100 (A2)	DATE R08／08	SEET NO. A － 10／26





畜舎棟

増築部分			
記号	計算式(m)	床面積(㎡)	建築面積(㎡)
①	6.68 ×6.15	41.082	41.082
②	0.98 ×1.5	1.470	1.470
計		42.550	42.550
既存改修部分			
③	5.14× 6.36	32.690	32.690
計		32.690	32.690
合計		75.240	75.240

既存棟

犬猫センター			
記号	計算式(m)	床面積(㎡)	建築面積(㎡)
ⓐ	1.97 ×12.34	24.309	24.309
ⓑ	7.11 ×11.27	80.129	80.129
ⓒ	3.38 ×11.92	40.289	40.289
ⓓ	3.79 ×14.02	53.135	53.135
ⓔ	1.82× 8.37	15.233	15.233
ⓕ	1.39 ×5.40	7.506	7.506
ⓖ	2.24× 3.42		7.660
ⓗ	8.69× 1.50	13.035	13.035
ⓗ	1.80×1.07	1.926	1.926
合計		235.56	243.22

既存棟

上屋			
記号	計算式(m)	床面積(㎡)	建築面積(㎡)
㋐	3.45× 0.97		3.346
合計			3.34

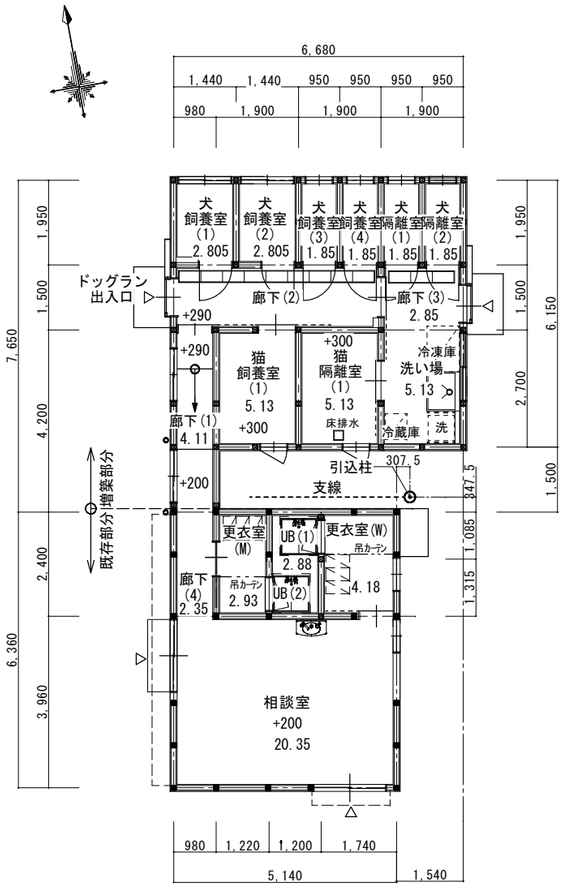
既存棟

車イス駐車場			
記号	計算式(m)	床面積(㎡)	建築面積(㎡)
Ⓐ	5.45× 4.07	22.18	
Ⓑ	3.45× 2.30		7.935
合計		22.18	7.93

MEMO

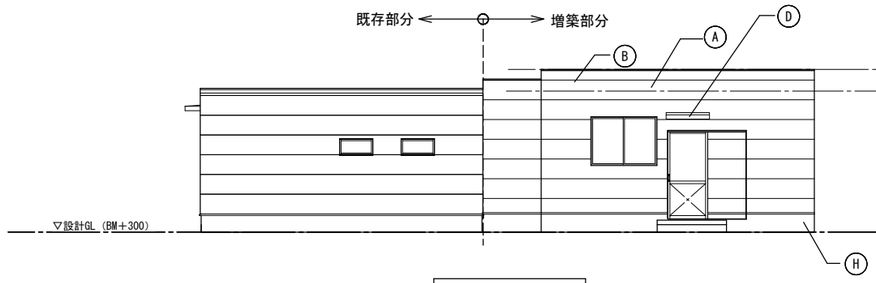
一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録　第　119996号
羽子田　靖彦

TITLE 鳥取県西部犬猫センター等増築工事に係る整備業務	SIGNATURE		FILE NO.
NAME 建物求積図	SCALE 1/100 (A2)	DATE R08／08	SEET NO. A － 11／26

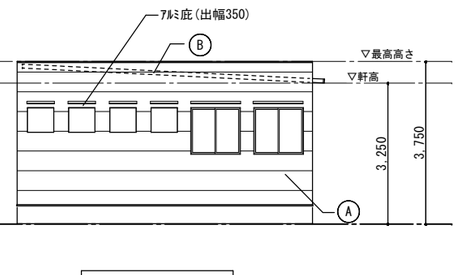


凡例：
(1) 各室記入の数字は床面積を示す
(2) ■ …既存柱を示す
(3) +200（設計GL＝±0）

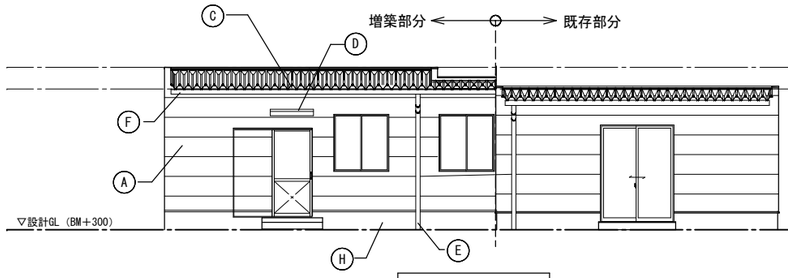
増築後平面図 1：100



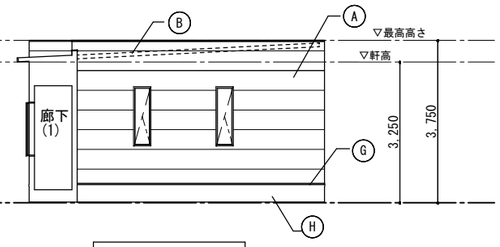
東側立面図 1：100



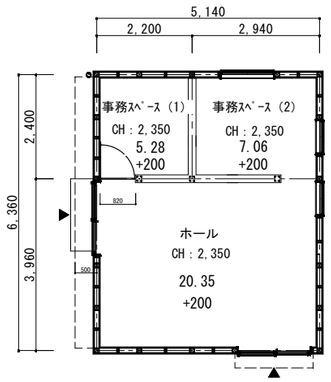
北側立面図 1：100



西側立面図 1：100



南側立面図 1：100



既存平面図 1：100

面 積 表

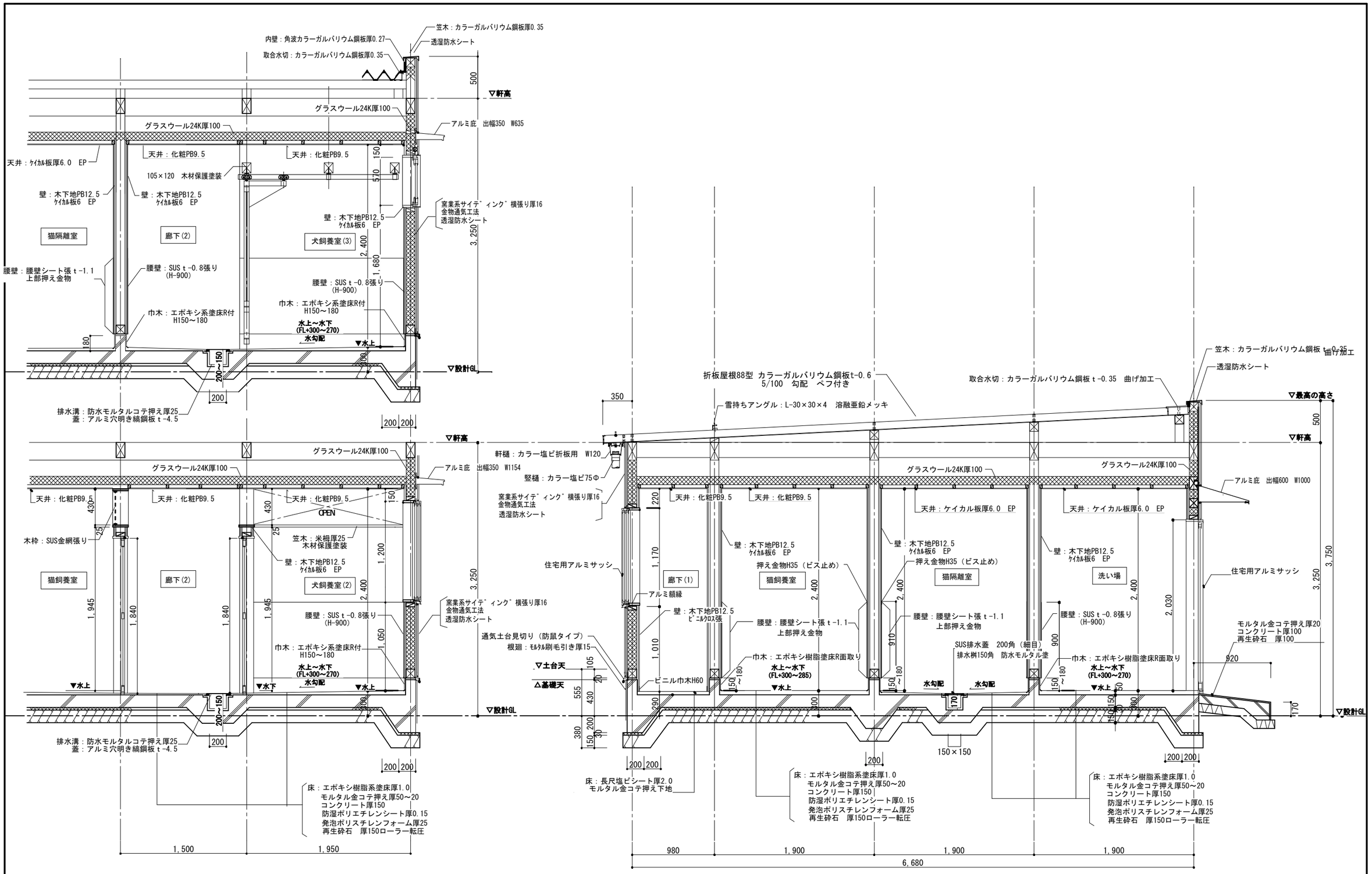
増築部分		既存部分	合 計
室名	面積(㎡)		
犬飼養室(1)	2.805		
犬飼養室(2)	2.805		
犬飼養室(3)	1.853		
犬飼養室(4)	1.853		
犬隔離室(1)	1.853		
犬隔離室(2)	1.853		
猫飼養室(1)	5.13		
猫隔離室(1)	5.13		
洗い場	5.13		
廊下(1)	4.12		
廊下(2)	7.17		
廊下(3)	2.85		
計	42.55	32.69	75.24

A	外壁:窯業系ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ16t	E	竪樋 ｶﾗｰVP W75
B	笠木:ｶﾗｰGL鋼板0.35t 曲げ加工	F	軒樋 ｶﾗｰVP 折板用W120
C	屋根:折板 H＝88 ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t -0.6	G	水切:ｶﾗｰGL鋼板
D	ｱﾙﾐ庇W1000(出幅600)	H	ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き15t

MEMO

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第 607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録 第 119996号
羽子田 靖彦

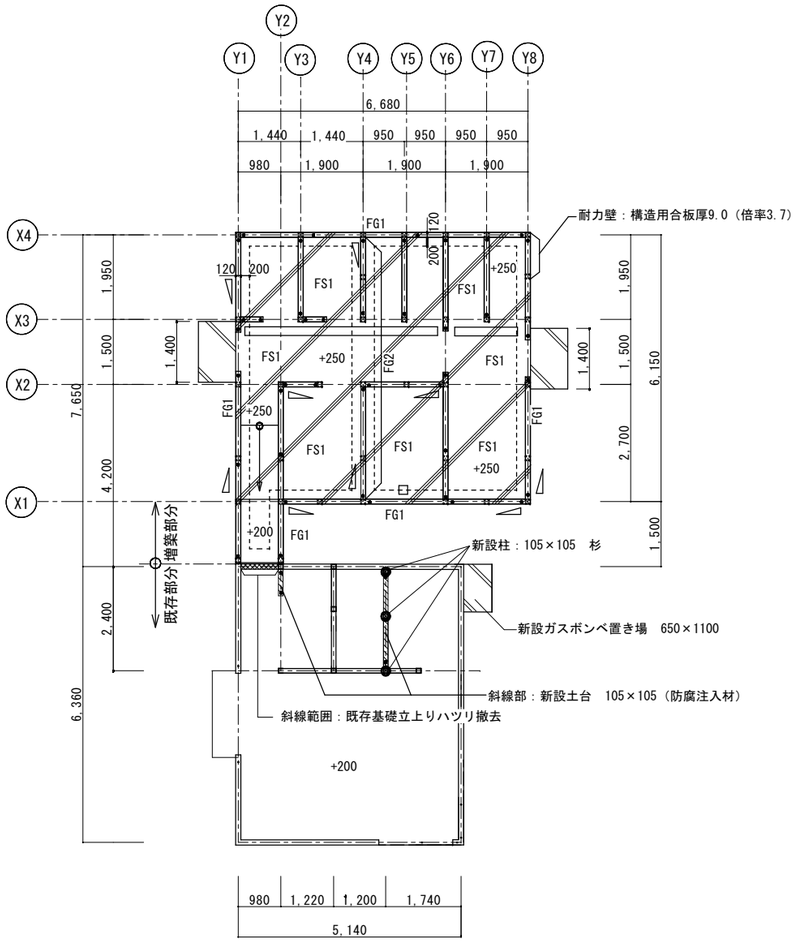
TITLE	鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE	FILE NO.
NAME	平面図・立面図	SCALE 1/100 (A2) / DATE R08／08	SEET NO. A － 12／26



MEMO

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第 607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録 第 119996号
羽子田 靖彦

TITLE 鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE		FILE NO.
NAME 矩計図	SCALE 1/30	DATE R08／08	SEET NO. A － 13／26



基礎伏図　S=1:100

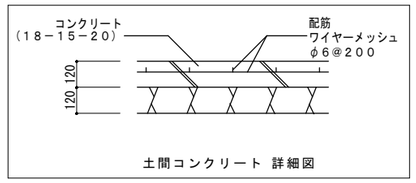
※+250は設計GL（BM+300）基準のレベルを示す

凡　例	
	基礎巾　１２０
	土間コンクリート
	アンカーボルトＭ１２Ｌ＝４００mm≦@２５００ ２５０mm以上埋込み
	筋違：90×45

床リスト				
符号	厚さ	位置	短辺方向　端部・中央	長辺方向　端部・中央
ＦＳ１	１５０	シングル	Ｄ１３@２００	Ｄ１３@２００

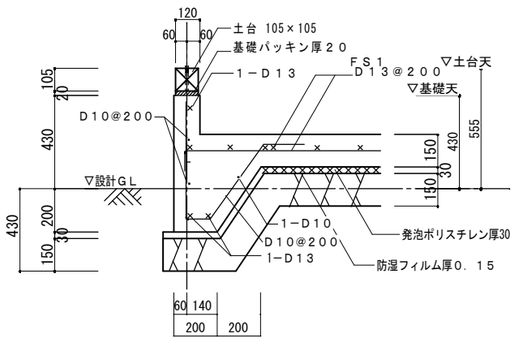
※コンクリート設計基準強度：Ｆｃ２１Ｎ／mm²　（構造体強度補正値＋Ｓ）
　鉄筋：ＳＤ２９５Ａ（Ｄ１０～Ｄ１６）

※特記無き外周部基礎は全てＦＧ１
※特記無き内部基礎は全てＦＧ3
※特記無き床スラブは全てＦＳ１（厚１５０ Ｄ１３@２００）
※基礎パッキン仕様
　形状・寸法　W295×D115×厚20mm
　設置位置　　柱下、ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ部分、土台の仕口・継手
　　その他の部分については、１ｍ以内に設置する事

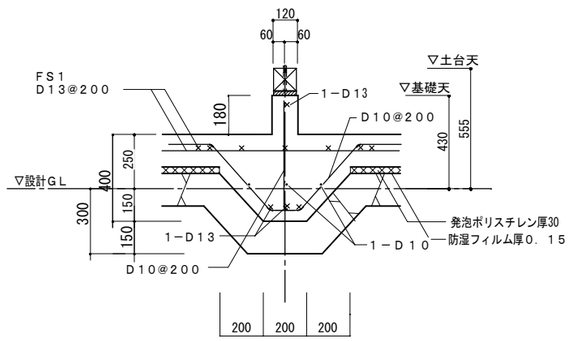


土間コンクリート 詳細図

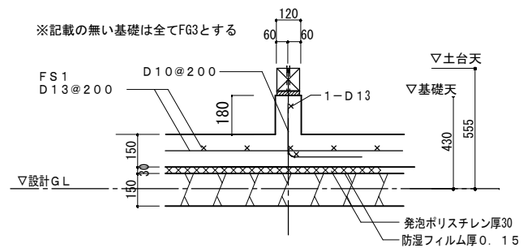
外周部（ＦＧ１）



内周部（ＦＧ２）



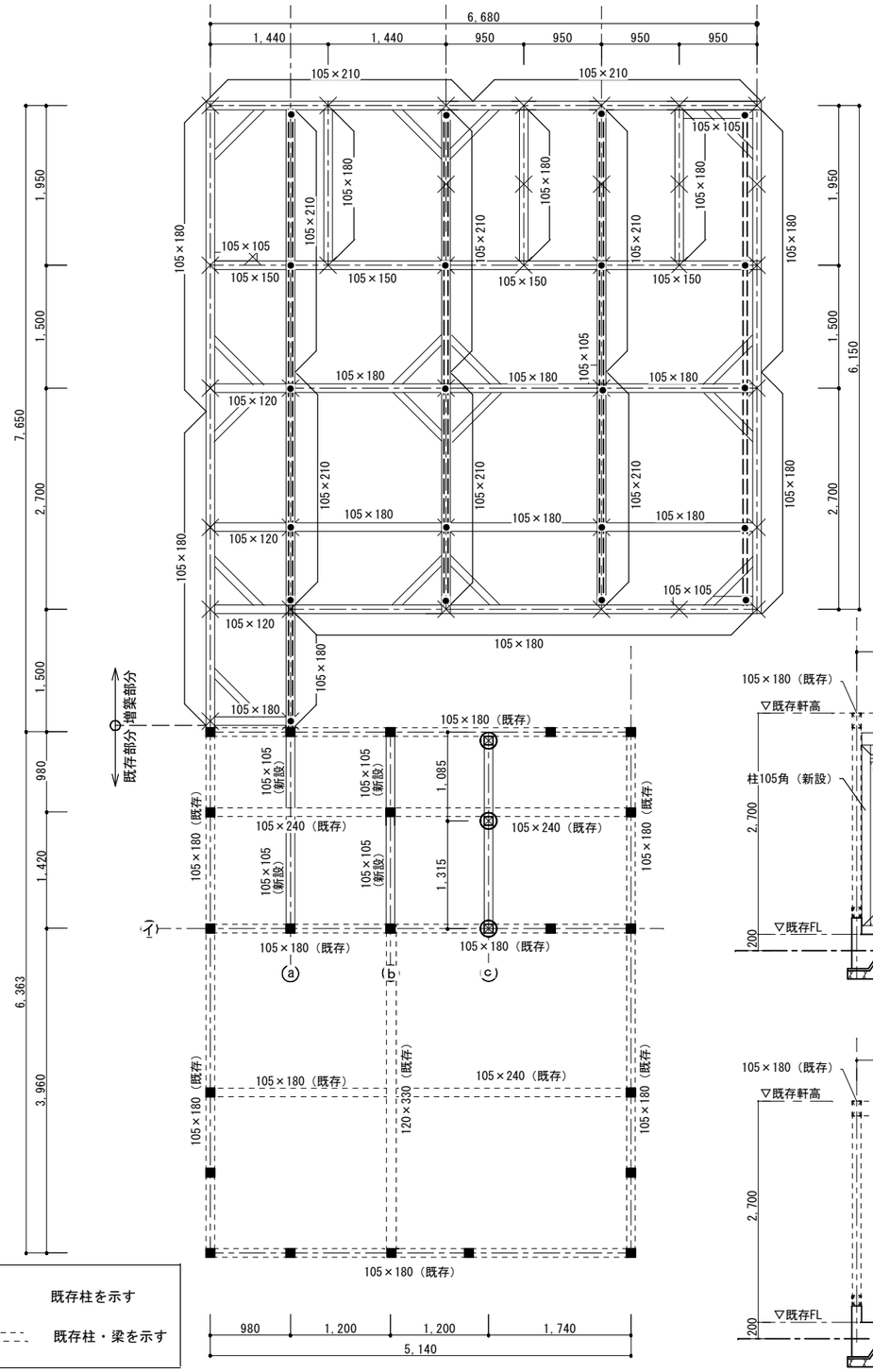
内周部（ＦＧ３）



MEMO

一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録　第　119996号
羽子田　靖彦

TITLE	鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE		FILE NO.
NAME	基礎伏図・基礎詳細図	SCALE 1/100・1/20（A2）	DATE R08／08	SEET NO. A－14／26



凡例

■ 既存柱を示す

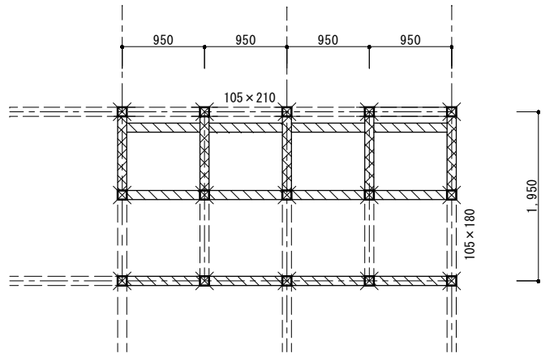
既存柱・梁を示す

木　材　仕　様				
	名称	樹種	等級	断面寸法
床組	土台	桧	防腐注入材	１０５×１０５
柱	管柱	杉	特一等	１０５×１０５
小屋組材	桁、梁			
		米松	特一等	１０５×１５０～２１０
	ヤスメ	米松	特一等	１０５×１０５
	頭ツナキ゛	米松	特一等	１０５×１０５
	火打梁	米松	特一等	９０×９０
	母屋	杉	特一等	１０５×１０５
	小屋束	杉	特一等	１０５×１０５
	雲筋かい	杉	特一等	１０５×　２１
軸組材	筋かい	米松	特一等	９０×４５
	間柱	杉	特一等	１０５～７０×４５
	窓台・窓マグサ	杉	特一等	１０５×４５

凡例

- 母屋　105×105
- 柱　105×105
- 束　105×105
- 火打ち梁　90×90

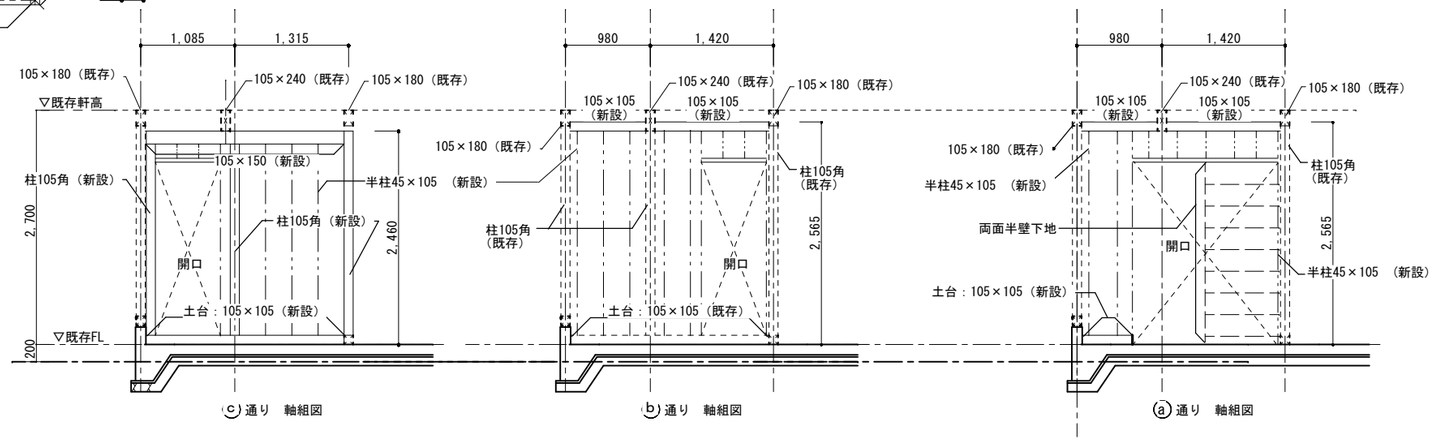
記載なき部材は105×150とする。



犬飼養室(3)(4),犬隔離室(1)(2)　梁伏図（FL+2214）

凡例

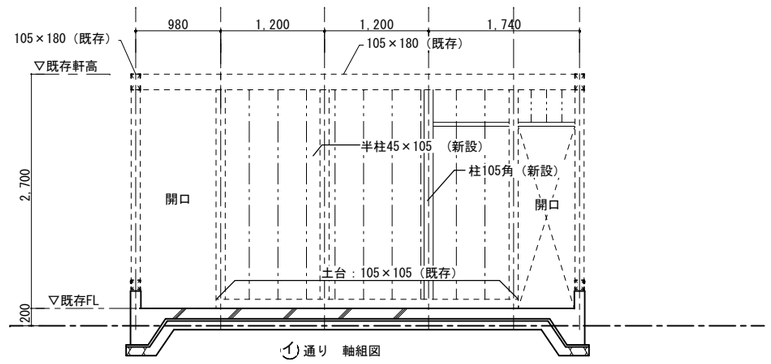
- 105×120
- 105×150



ⓒ通り　軸組図

ⓑ通り　軸組図

ⓐ通り　軸組図



Ⓘ通り　軸組図

MEMO

一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号

有限会社 羽子田設計事務所

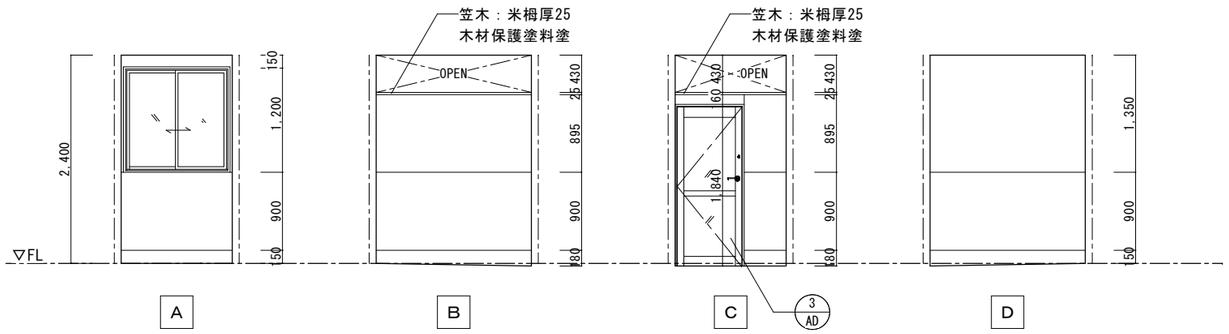
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE

一級建築士登録　第　119996号

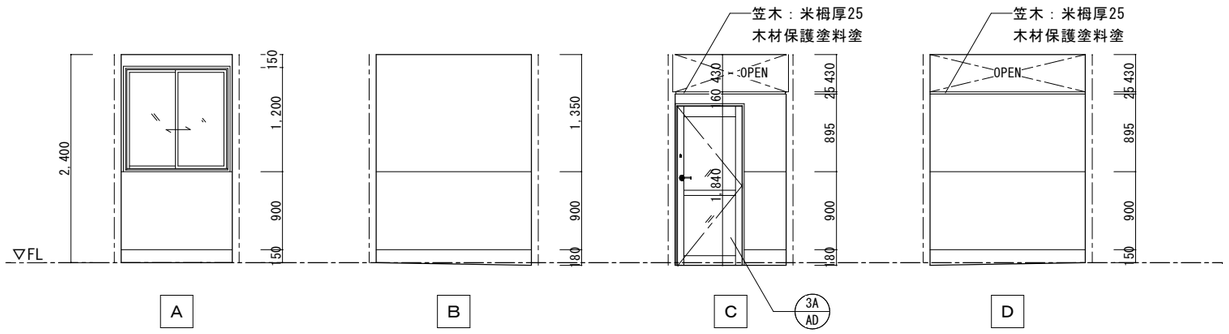
羽子田　靖彦

TITLE 鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE		FILE NO.
NAME 小屋伏図・軸組図	SCALE 1/50	DATE R08 ／08	SEET NO. A － 15／26

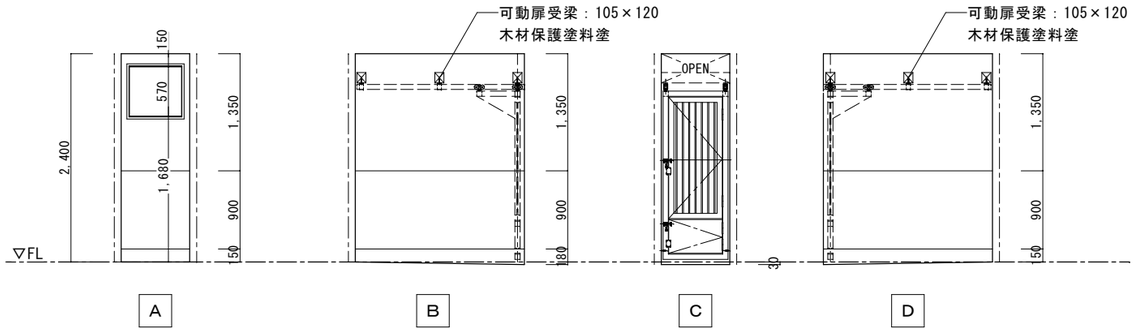
犬飼養室（1）	
天井	木組み天井下地 化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ厚9.5
廻り縁	塩　　ビ
壁	腰壁：SUS厚0.8張りｹｲｶﾙ板厚6+PB厚12.5下地 壁　：EP塗ｹｲｶﾙ板厚6+PB厚12.5下地
巾木	塗床塗上げ　H-150～180（R面取り）
床	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え下地 ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗床仕上げ厚1.0



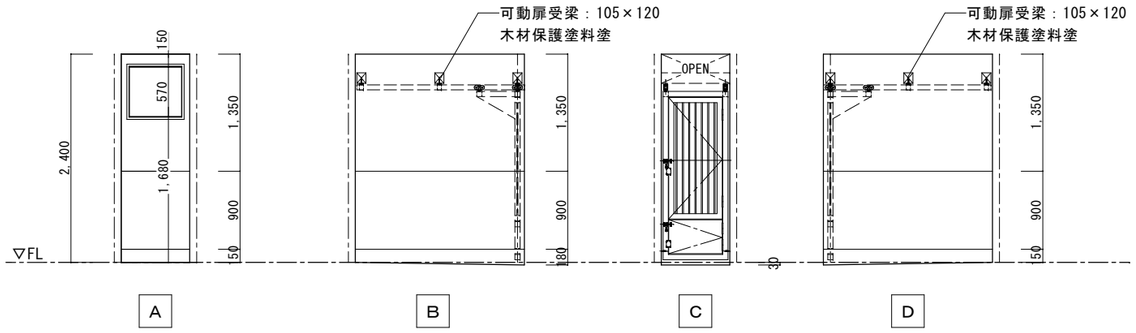
犬飼養室（2）	
天井	木組み天井下地 化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ厚9.5
廻り縁	塩　　ビ
壁	腰壁：SUS厚0.8張りｹｲｶﾙ板厚6+PB厚12.5下地 壁　：EP塗ｹｲｶﾙ板厚6+PB厚12.5下地
巾木	塗床塗上げ　H-150～180（R面取り）
床	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え下地 ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗床仕上げ厚1.0



犬飼養室（3）	
天井	木組み天井下地 化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ厚9.5
廻り縁	塩　　ビ
壁	腰壁：SUS厚0.8張りｹｲｶﾙ板厚6+PB厚12.5下地 壁　：EP塗ｹｲｶﾙ板厚6+PB12.5下地
巾木	塗床塗上げ　H-150～180（R面取り）
床	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え下地 ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗床仕上げ厚1.0



犬飼養室（4）	
天井	木組み天井下地 化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ厚9.5
廻り縁	塩　　ビ
壁	腰壁：SUS厚0.8張りｹｲｶﾙ板厚6+PB厚12.5下地 壁　：EP塗ｹｲｶﾙ板6+PB12.5下地
巾木	塗床塗上げ　H-150～180（R面取り）
床	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え下地 ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗床仕上げ厚1.0

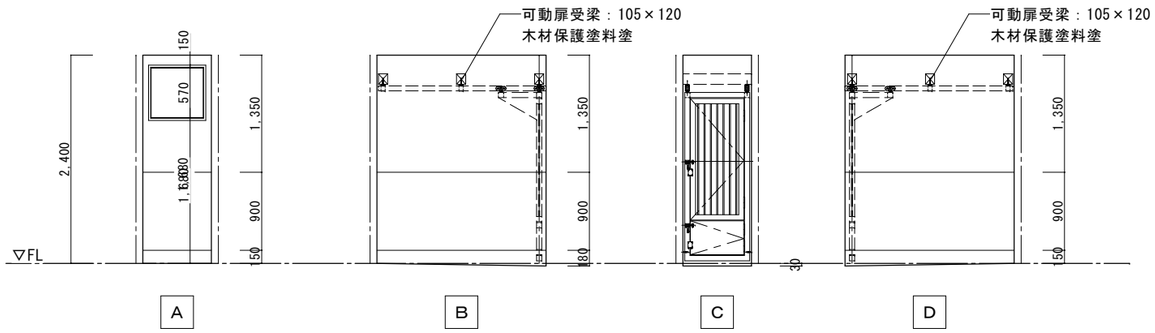


MEMO

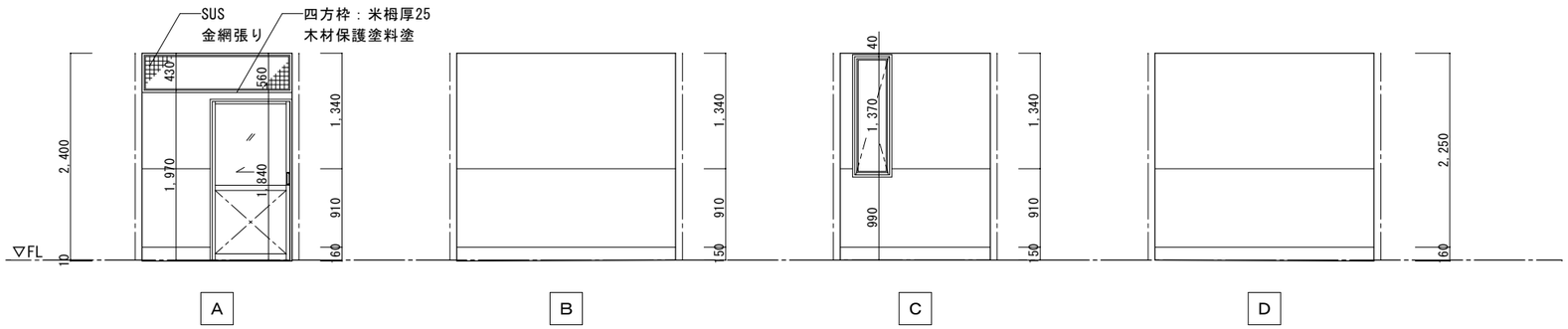
一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録　第　119996号
羽子田　靖彦

TITLE	鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE		FILE NO.
NAME	展開図（1）	SCALE S=1/50	DATE R08／08	SEET NO. A－16／26

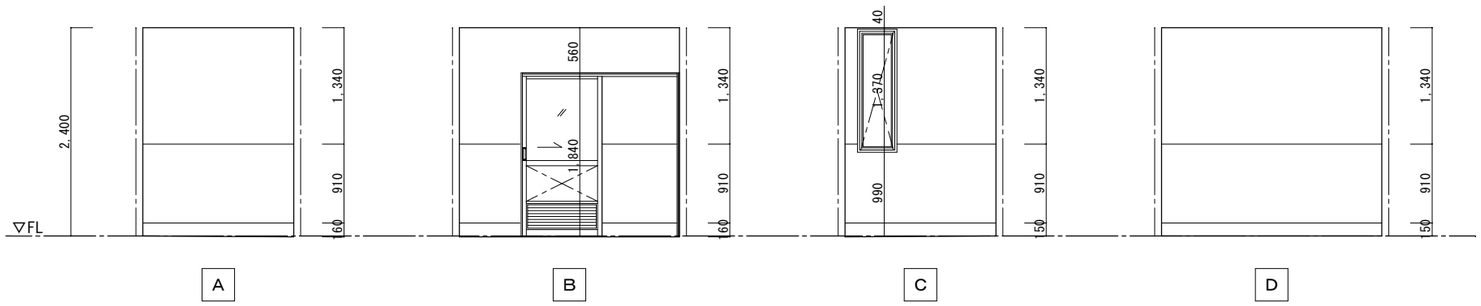
犬隔離室（1）・（2）	
天井	木組み天井下地 ｹｲｶﾙ板厚6.0　EP塗
廻り縁	塩　　ビ
壁	腰壁：SUS厚0.8張りｹｲｶﾙ板厚6+PB厚12.5下地 壁　：EP塗ｹｲｶﾙ板厚6+PB厚12.5下地
巾木	塗床塗上げ　H-150～180（R面取り）
床	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え下地 ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗床仕上げ厚1.0



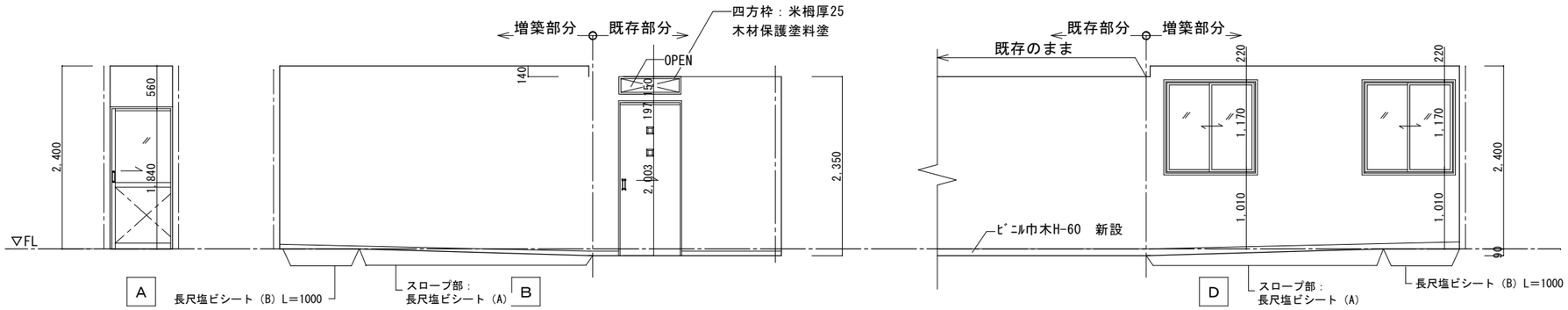
猫飼養室（1）	
天井	木組み天井下地 化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ厚9.5
廻り縁	塩　　ビ
壁	腰壁：腰壁ｼｰﾄ張厚1.1ｹｲｶﾙ板厚6+PB厚12.5下地 壁　：EP塗ｹｲｶﾙ板6+PB厚12.5下地
巾木	塗床塗上げ　H-150～160（R面取り）
床	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え下地 ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗床仕上げ厚1.0



猫隔離室（1）	
天井	木組み天井下地 ｹｲｶﾙ板厚6.0　EP塗
廻り縁	塩　　ビ
壁	腰壁：腰壁ｼｰﾄ張厚1.1ｹｲｶﾙ板厚6+PB厚12.5下地 壁　：EP塗ｹｲｶﾙ板6+PB厚12.5下地
巾木	塗床塗上げ　H-150～160（R面取り）
床	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え下地 ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗床仕上げ厚1.0



廊下（1）（4）	
天井	木組み天井下地 化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ厚9.5
廻り縁	塩　　ビ
壁	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張りPB厚12.5下地
巾木	ﾋﾞﾆﾙ巾木H-60
床	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え下地 長尺塩ビシート（A）（B）厚2.0

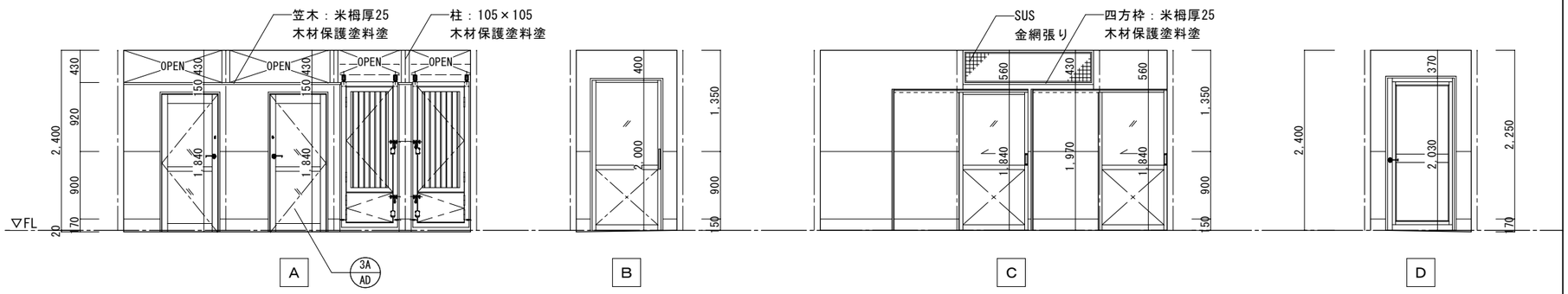


MEMO

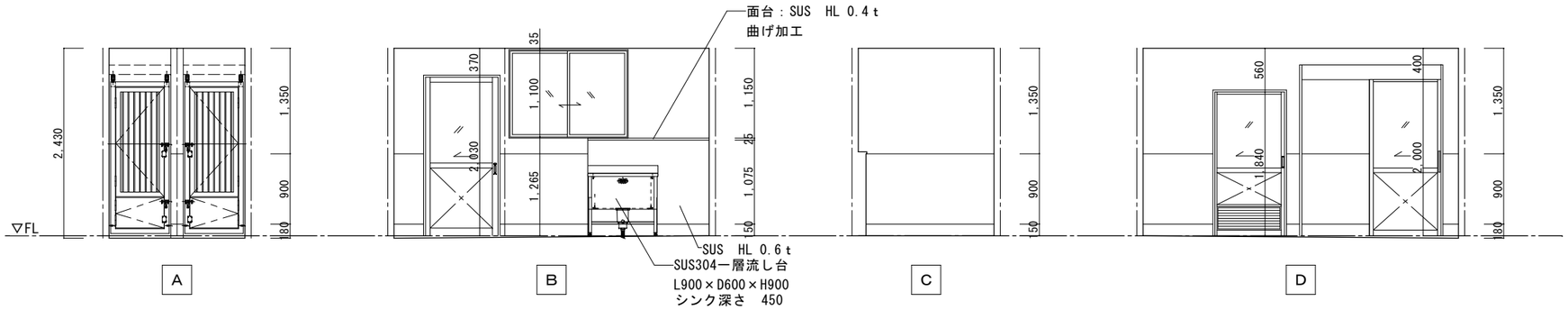
一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録　第　119996号
羽子田　靖彦

TITLE	鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE		FILE NO.
NAME	展開図（2）	SCALE S=1/50	DATE R08／08	SEET NO. A－17／26

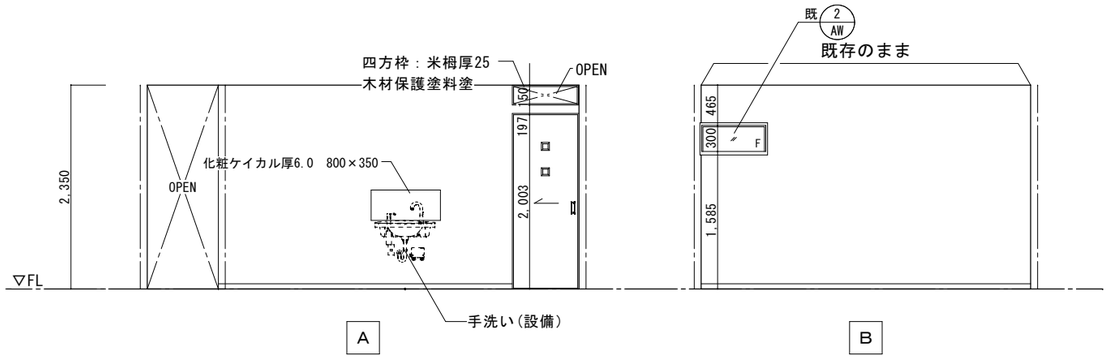
廊下（2）	
天井	木組み天井下地 ｹｲｶﾙ板厚6.0　EP塗
廻り縁	塩　　ビ
壁	腰壁：SUS厚0.8張りｹｲｶﾙ板厚6+PB厚12.5下地 壁　：EP塗ｹｲｶﾙ板厚6+PB厚12.5下地
巾木	塗床塗上げ　H-150～170（R面取り）
床	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え下地 ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗床仕上げ厚1.0

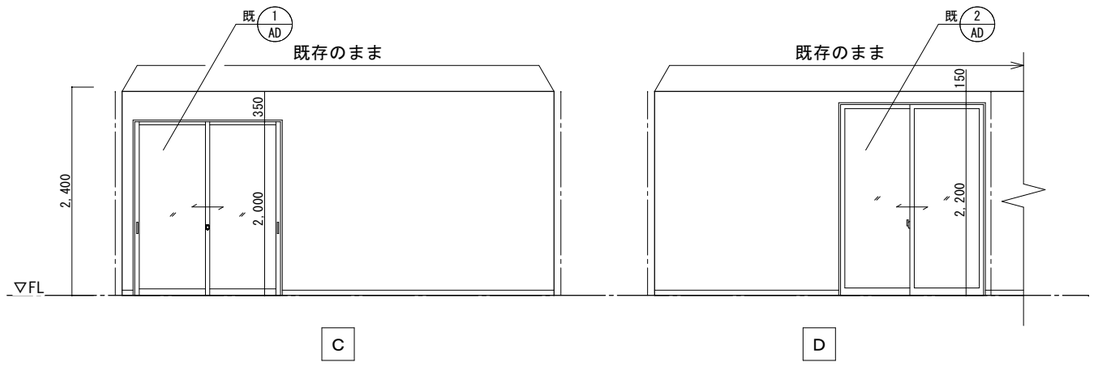


廊下（3）・洗い場	
天井	木組み天井下地 化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ厚9.5
廻り縁	塩　　ビ
壁	腰壁：SUS厚0.8張りｹｲｶﾙ板厚6+PB厚12.5下地 壁　：EP塗ｹｲｶﾙ板厚6+PB厚12.5下地
巾木	塗床塗上げ　H-150～180（R面取り）
床	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え下地 ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗床仕上げ厚1.0



相談室	
天井	木組み天井下地 化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ厚9.5【新設壁取合部補修】
廻り縁	塩　　ビ
壁	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張りPB厚12.5下地
巾木	ﾋﾞﾆﾙ巾木H-60
床	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ押え【既存のまま】 長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ厚2.0【既存のまま】



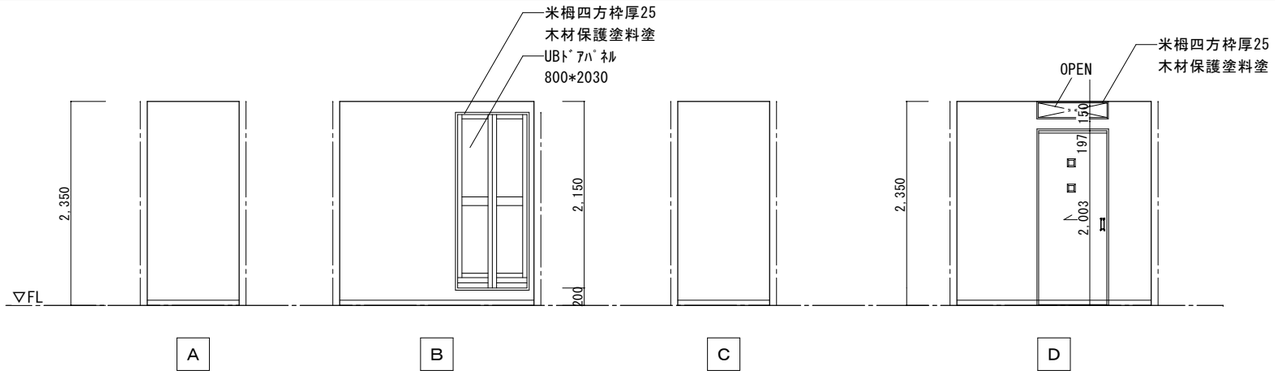


MEMO

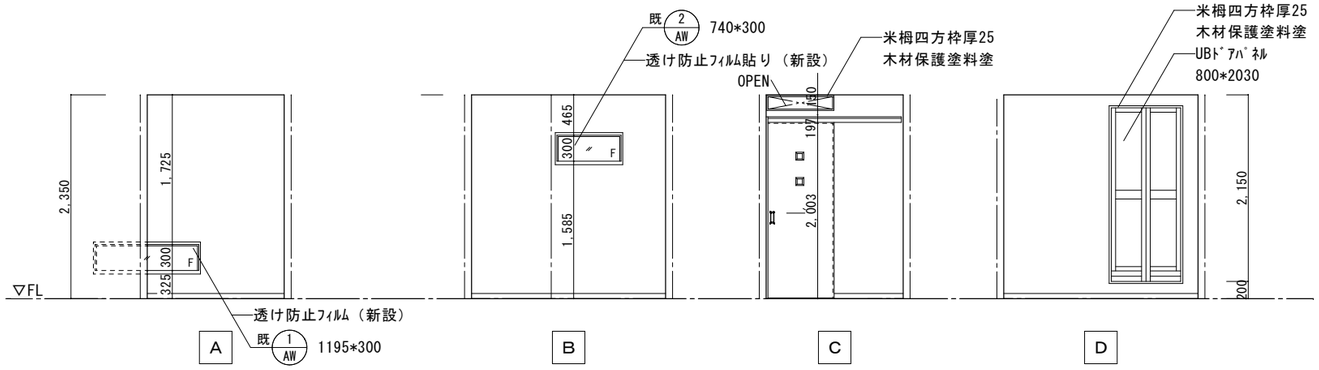
一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録　第　119996号
羽子田　靖彦

TITLE	鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE		FILE NO.
NAME	展開図（3）	SCALE S=1/50	DATE R08／08	SEET NO. A－18／26

更衣室（M）	
天井	木組み天井下地 化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ厚9.5
廻り縁	塩　　ビ
壁	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張りPB厚12.5下地
巾木	ﾋﾞﾆﾙ巾木H-60
床	ﾗﾜﾝ合板厚3+構造用合板厚12　木造床組み下地 長尺塩ビｼｰﾄ厚2.0貼り



更衣室（W）	
天井	木組み天井下地 化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ厚9.5
廻り縁	塩　　ビ
壁	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張りPB厚12.5下地
巾木	ﾋﾞﾆﾙ巾木H-60
床	ﾗﾜﾝ合板厚3+構造用合板厚12　木造床組み下地 長尺塩ビｼｰﾄ厚2.0貼り



凡例

※/※※ …新設建具を示す。

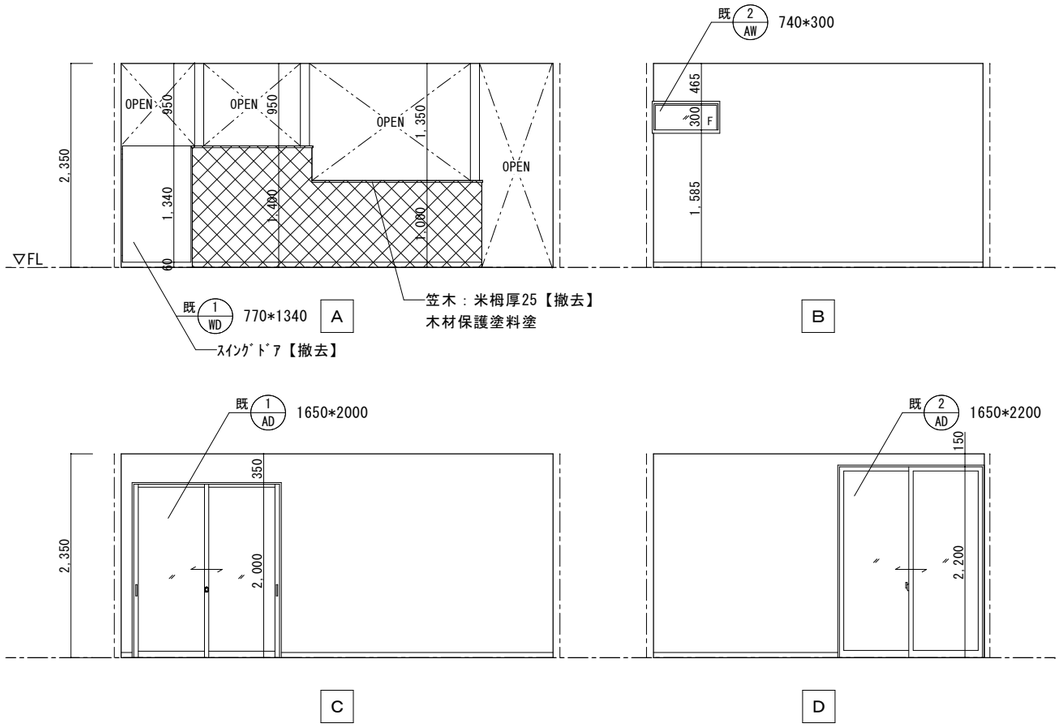
既 ※/※※ …既存建具を示す。

MEMO

一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録　第　119996号
羽子田　靖彦

TITLE	鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE		FILE NO.
NAME	展開図（4）	SCALE S=1/50	DATE R08／08	SEET NO. A－ 19／26

ホール【既存】	
天井	木組み天井下地 化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ厚9.5
廻り縁	塩　　ビ
壁	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張りPB厚12.5下地
巾木	ﾋﾞﾆﾙ巾木H-60
床	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え下地 長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ厚2.0

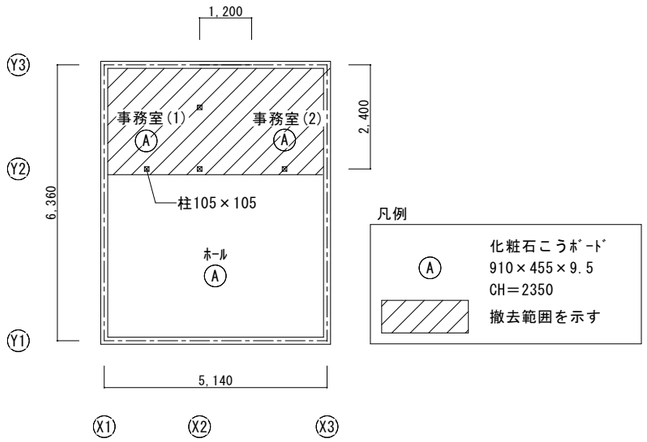


凡例

…壁（下地共）撤去範囲を示す。

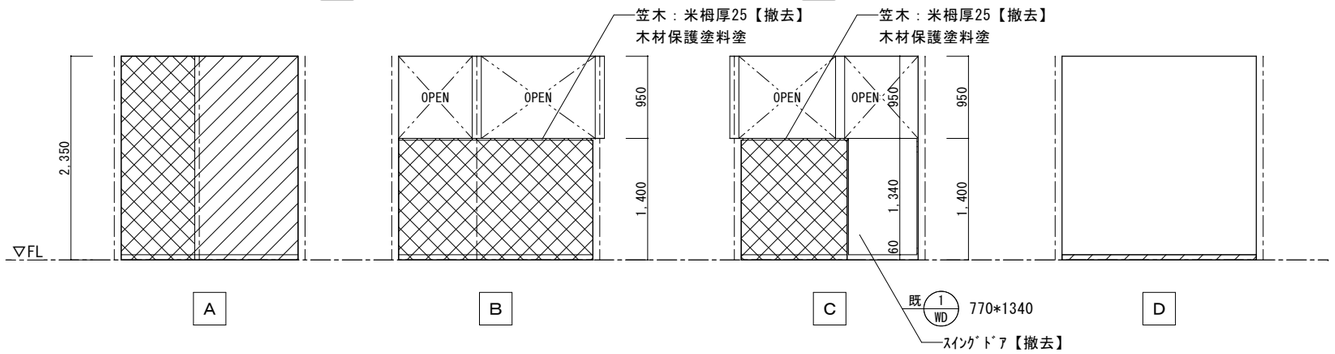
…ｸﾛｽ・巾木撤去範囲を示す。

既 ※ ※※ …既存建具を示す。

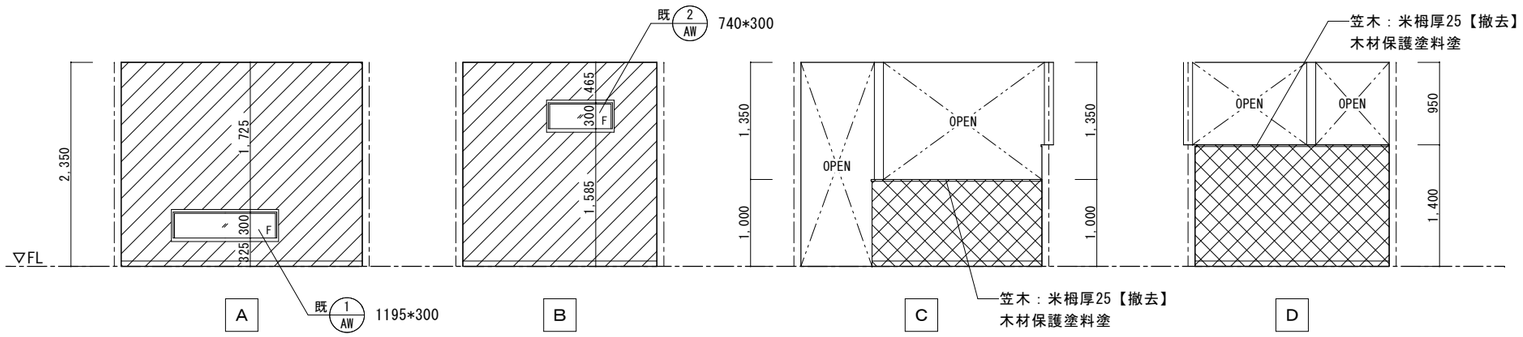


天井伏図【既存】　S＝1:100

事務ｽﾍﾟｰｽ（1）【既存】	
天井	木組み天井下地 化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ厚9.5
廻り縁	塩　　ビ
壁	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張りPB厚12.5下地
巾木	ﾋﾞﾆﾙ巾木H-60
床	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾃ押え下地 長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ厚2.0



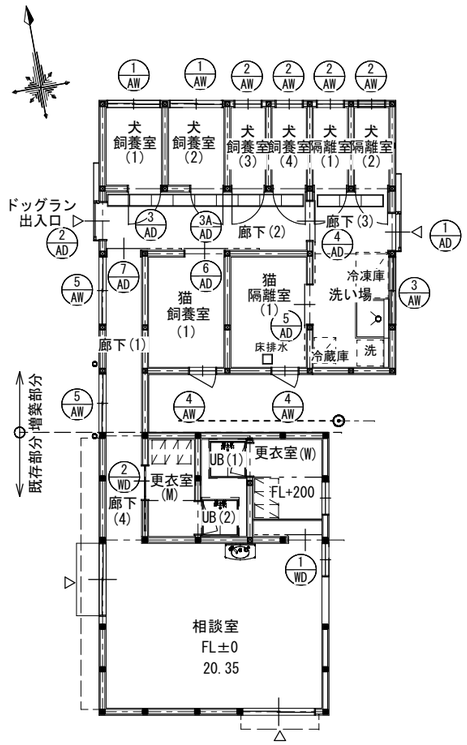
事務ｽﾍﾟｰｽ（2）【既存】	
天井	木組み天井下地 化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ厚9.5
廻り縁	塩　　ビ
壁	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張りPB厚12.5下地
巾木	ﾋﾞﾆﾙ巾木H-60
床	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ押え 長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ厚2.0



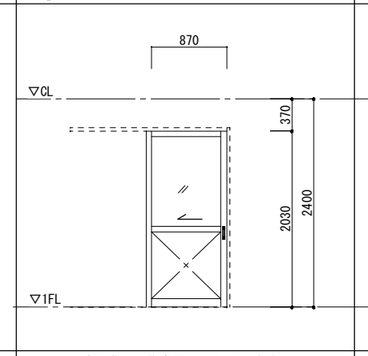
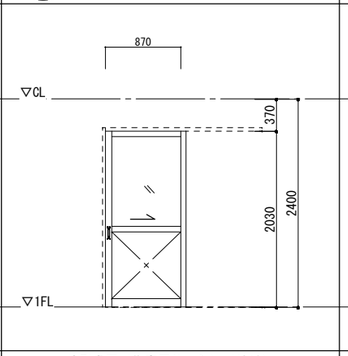
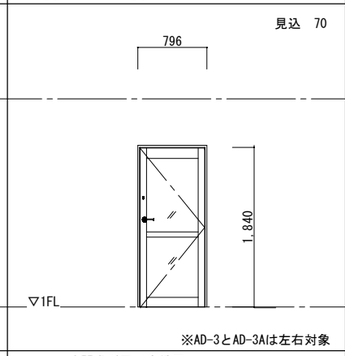
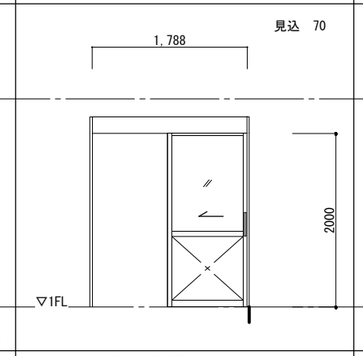
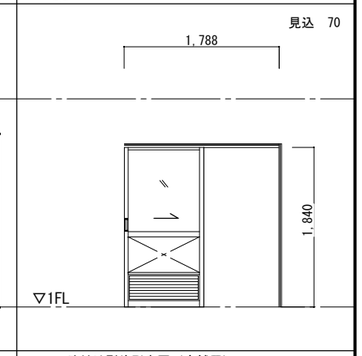
MEMO

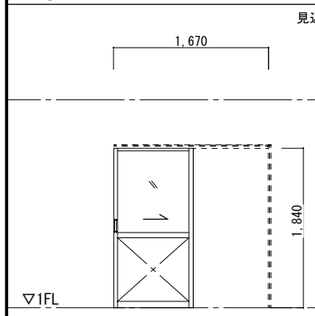
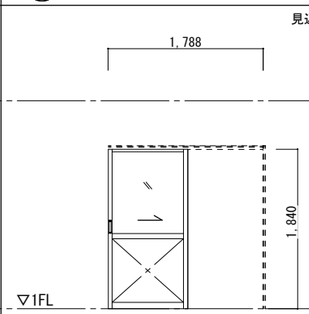
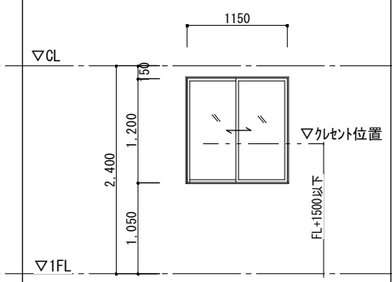
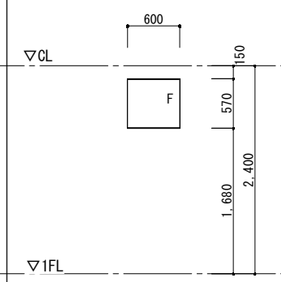
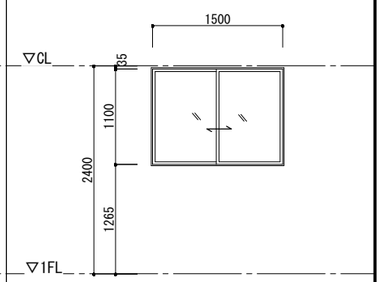
一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録　第　119996号
羽子田　靖彦

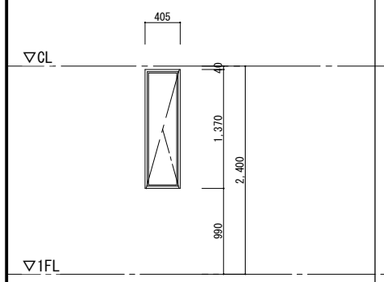
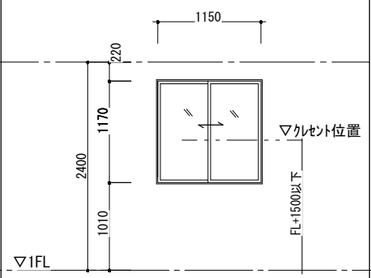
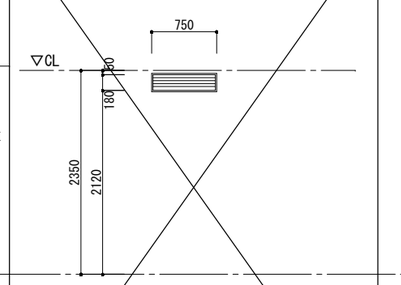
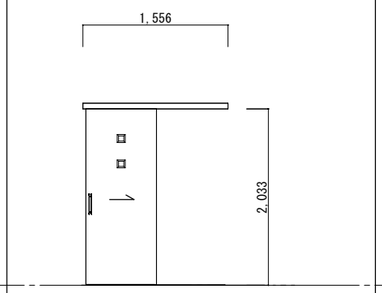
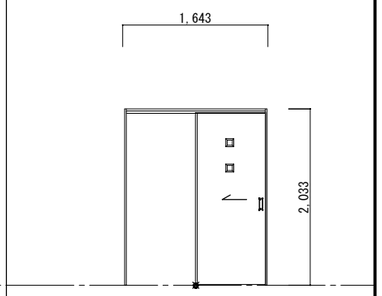
TITLE	鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE		FILE NO.
NAME	展開図（5）	SCALE S=1/50 S=1/100	DATE R08／08	SEET NO. A－ 20／26



建具キープラン　S=1:100

記号・場所・数量	1 AD 廊下（3） 1か所	2 AD 廊下（3） 1か所	3 AD 1か所 3A AD 1か所 犬飼養室	4 AD 洗い場 1か所	5 AD 猫隔離室 1か所
形状			見込　70  ※AD-3とAD-3Aは左右対象	見込　70 	見込　70 
形式・見込	片引き戸（住宅用サッシ）（外付）	片引き戸（住宅用サッシ）（外付）	片開きドア（店舗用）	ハンガードア（店舗用）	外付け型片引き戸（店舗用）
材質・仕上	ｱﾙﾐ樹脂複合	ｱﾙﾐ樹脂複合	ｶﾗｰｱﾙﾐ	ｶﾗｰｱﾙﾐ	ｶﾗｰｱﾙﾐ
ｶﾞﾗｽ	複層ガラス　型4+A12+透明3	複層ガラス　型4+A12+透明3	強化ガラス　4	合わせｶﾞﾗｽ（透3+15ﾐﾙ+透3）	強化ガラス４
金物	標準金物一式　腰：断熱ﾊﾟﾈﾙ ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠　SUS沓摺　大型堀込引手　ｱﾙﾐ額縁	標準金物一式　腰：断熱ﾊﾟﾈﾙ ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠　SUS沓摺　大型堀込引手　ｱﾙﾐ額縁	標準金物一式　SUS沓摺　片面ｱﾙﾐ額縁 両面ｻﾑﾀｰﾝ　ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ　ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ	標準金物一式　ｱﾙﾐ額縁 丸棒握りﾊﾞｰ L670 HL仕上（ｼﾛｸﾏ　No.702 同等品）	標準金物一式　ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠　腰：ｱﾙﾐﾊﾟﾈﾙ 片面ﾙﾐ額縁　ｱﾙﾐガラリ（300H）
備考	アルミ庇　出幅600　W1040（YKK　ひさしL5PR同等品）	アルミ庇　出幅600　W1040（YKK　ひさしL5PR同等品）	ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ仕様　片面は木製額縁木保護塗装	ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ仕様、自閉装置　片面は木製額縁木保護塗装	ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ仕様　片面は木製額縁木保護塗装

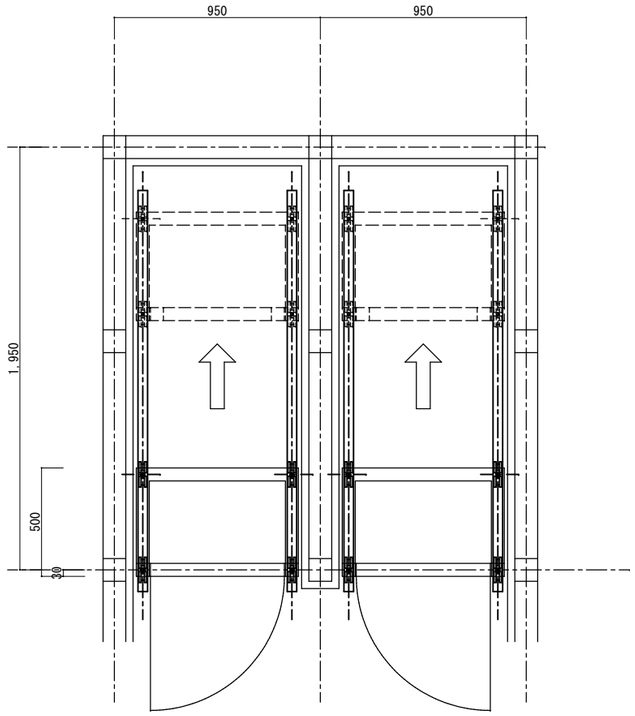
記号・場所・数量	6 AD 猫飼養室 1か所	7 AD 廊下（1） 1か所	1 AW 犬飼養室 2か所	2 AW 犬飼養室、犬隔離室 4か所	3 AW 洗い場 1か所
形状	見込　70 	見込　70 			
形式・見込	外付け型片引き戸（店舗用）	外付け型片引き戸（店舗用）	半外付け引き違い窓（住宅用）	FIX窓（住宅用）	半外付け引き違い窓（住宅用）
材質・仕上	ｶﾗｰｱﾙﾐ	ｶﾗｰｱﾙﾐ	ｱﾙﾐ樹脂複合	ｱﾙﾐ樹脂複合	ｱﾙﾐ樹脂複合
ｶﾞﾗｽ	強化ガラス４	合わせｶﾞﾗｽ（透3+15ﾐﾙ+透3）	複層ガラス　型4+A12+透明3	複層ガラス　型4+A12+透明3	複層ガラス　型4+A12+透明3
金物	標準金物一式　ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠　腰：ｱﾙﾐﾊﾟﾈﾙ 片面ｱﾙﾐ額縁　片面は木製額縁木保護塗装	標準金物一式　ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠　腰：ｱﾙﾐﾊﾟﾈﾙ 片面ｱﾙﾐ額縁　片面は木製額縁木保護塗装	標準金物一式　ｱﾙﾐ額縁 可動網戸、開ロストッパー	標準金物一式　ｱﾙﾐ額縁	標準金物一式　ｱﾙﾐ額縁 可動網戸、
備考	ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ仕様	ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ仕様	アルミ庇　出幅350　W1154（YKK　ひさしL5PR同等品）	アルミ庇　出幅350　W635（YKK　ひさしL5PR同等品）	

記号・場所・数量	4 AW 猫飼養室、猫隔離室 2か所	5 AW 廊下（1） 2か所	1 AG 2か所	1 WD 更衣室（W） 1か所	2 WD 更衣室（M） 1か所
形状					
形式・見込	たてすべり出し窓（住宅用）	半外付け引き違い窓（住宅用）	アルミ固定ガラリ	上吊り引き戸	上吊り引き込み戸
材質・仕上	ｱﾙﾐ樹脂複合	ｱﾙﾐ樹脂複合	アルミ	MDFﾌﾗｯｼｭ　樹脂ｼｰﾄ貼り	MDFﾌﾗｯｼｭ　樹脂ｼｰﾄ貼り
ｶﾞﾗｽ	複層ガラス　型4+A12+透明3	複層ガラス　透明+A12+透明3		2mmﾏｯﾄ樹脂板	2mmﾏｯﾄ樹脂板
金物	標準金物一式　ｵﾍﾟﾚｰﾀｰﾊﾝﾄﾞﾙ　網戸 ｱﾙﾐ額縁	標準金物一式　ｱﾙﾐ額縁 可動網戸		標準金物一式　ﾀﾞﾌﾞﾙｸﾛｰｽﾞ ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠	標準金物一式　ﾀﾞﾌﾞﾙｸﾛｰｽﾞ ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠
備考	縦すべり出し窓　開閉角度90度			ｱｳﾄｾｯﾄﾀｲﾌﾟ	

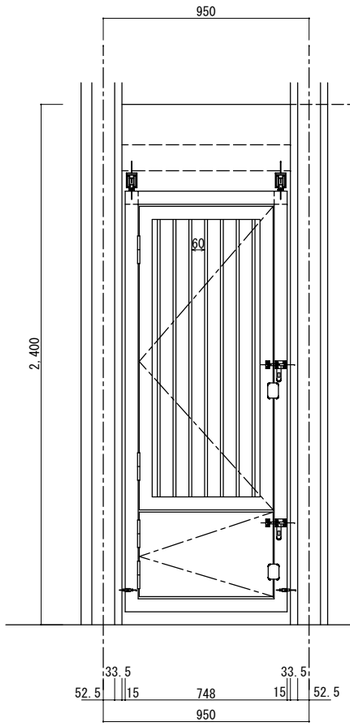
MEMO

一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録　第　119996号
羽子田　靖彦

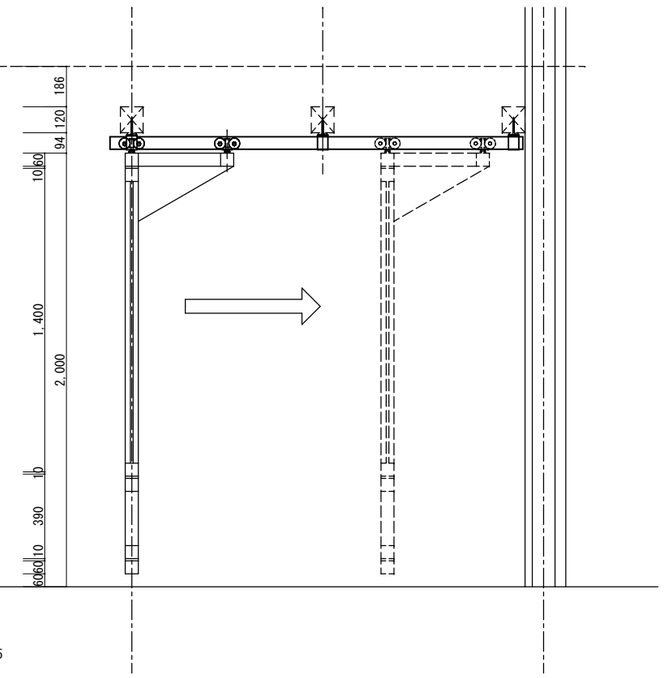
TITLE	鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE	FILE NO.
NAME	建具キープラン・建具表	SCALE S=1/100 S=1/50 / DATE R08／08	SEET NO. A － 21／26



平面図　1/20



正面図　1/20



断面図　1/20

犬隔離室・犬飼養室　可動式扉

ﾌﾚｰﾑ：SUS304　□P=60*60*1.5ｔ

格子：SUS304　13Φ丸棒

ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙ：SUS304　3号

ﾊﾝｶﾞｰ：SUS304　3号　覆車

※犬飼養室（3）、犬隔離室（1）は建具右吊元とする

※犬飼養室（4）、犬隔離室（2）は建具左吊元とする

MEMO

一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号

有限会社 羽子田設計事務所

Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE

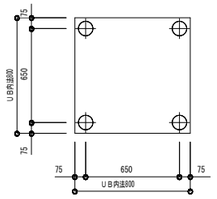
一級建築士登録　第　119996号

羽子田　靖彦

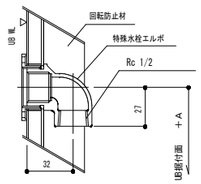
TITLE 鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE		FILE NO.
NAME 雑詳細図（1）	SCALE S=1/20（A2）	DATE R08／08	SEET NO. A－ 22／26

JSV0808UL			コロガシ　●は、基本仕様からの変更箇所	
名　称	仕様・寸法	色・柄	特記事項	備　考
天井パネル	化粧鋼板複合パネル（抗菌防カビ仕様・モール式） 点検口口４５０（絞り点検口・落下防止用紐付 石膏ボード２枚貼り）	ホワイト		
壁パネル	ＨＱパネル	ベースホワイト		
床パネル	ＦＲＰ　カラリ床（単色）	ホワイト（＃ＮＷ１）		
ドア枠	アルミアルマイト処理	アイボリー	（付枠用取付ネジＵＢ支給、 ネジ取付および付枠別途）	
ドアパネル	折戸　ドア脱着機構付　面材：型板ステレン板 Ｗ＝８００（有効開口幅　６７１mm）	アイボリー　面材：半透明		
シャワー水栓	ＴＢＶ０３４３３Ｊ型　壁付サーモスタットシャワー金具 （スパウトＬ＝７０）			
シャワーヘッド	スプレーシャワー　ホース：Ｌ＝１６００	ヘッド：ホワイトグレー　ホース：シルバー		
シャワーハンガー	ＴＨ５５６Ｆ６型	ホワイト		
照明	半球形照明（ＬＥＤランプ） 消費電力９Ｗ以下　６０Ｗ相当　電球色 ＶＶＦ１．６φ×２Ｃ　Ｌ＝２．０m付		（壁穴加工なし）（以降接続別途）	
ジョイントボックス	エコノミージョイント　ＷＪ３１０７相当品		（ジョイントボックスま での配線及びジョイント ボックス内の結線別途）	
換気グリル	ＡＢＳ樹脂　接続部外径φ９９	アイルホワイト	（以降接続別途）	
給水エルボ （シャワー用）	青銅鋳物製　接続口　Ｒｃ１／２		（以降接続別途）	
給湯エルボ （シャワー用）	青銅鋳物製　接続口　Ｒｃ１／２		（以降接続別途）	
排水トラップ	ＡＢＳ樹脂　封水深５０mm　接続口　ＶＰ５０受口 ヘアーキャッチャー付　高圧洗浄対応		（以降接続別途）	
タオル掛け	ステンレスパイプ　φ１３　Ｌ＝３００	ホワイト（＃ＮＷ１）		

＊各器具の穴加工・補強は現場加工となります。

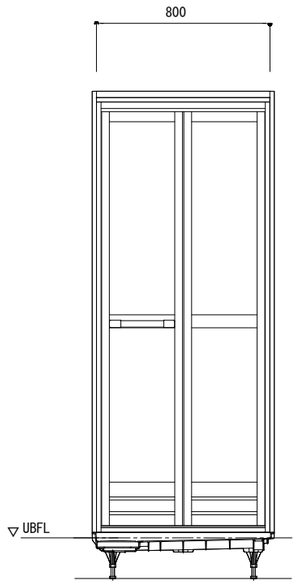


床支持位置図

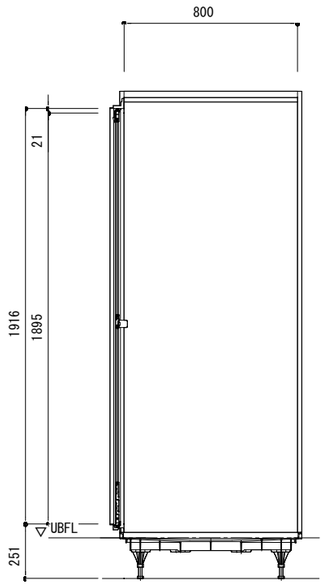


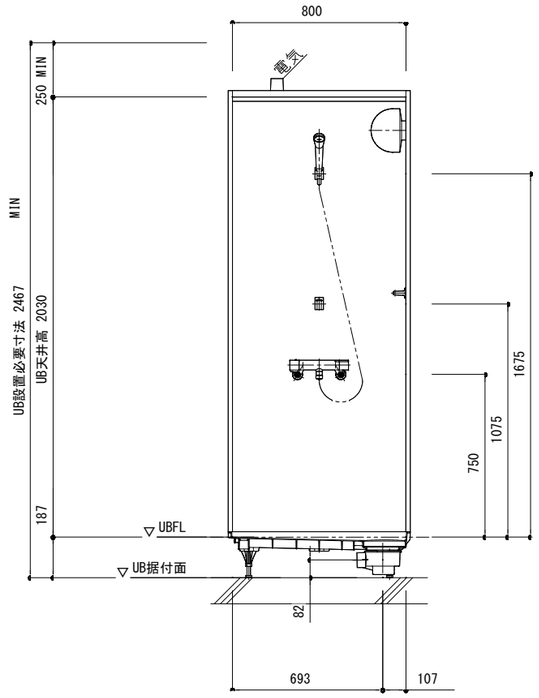
名称	Ａ寸法
シャワー用給水エルボ	937
シャワー用給湯エルボ	937

C展開

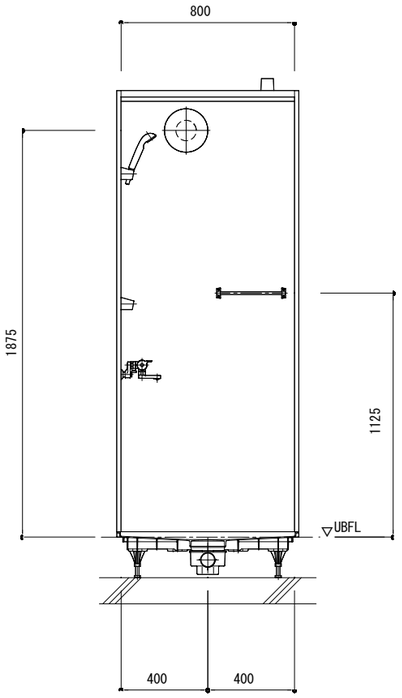


D展開



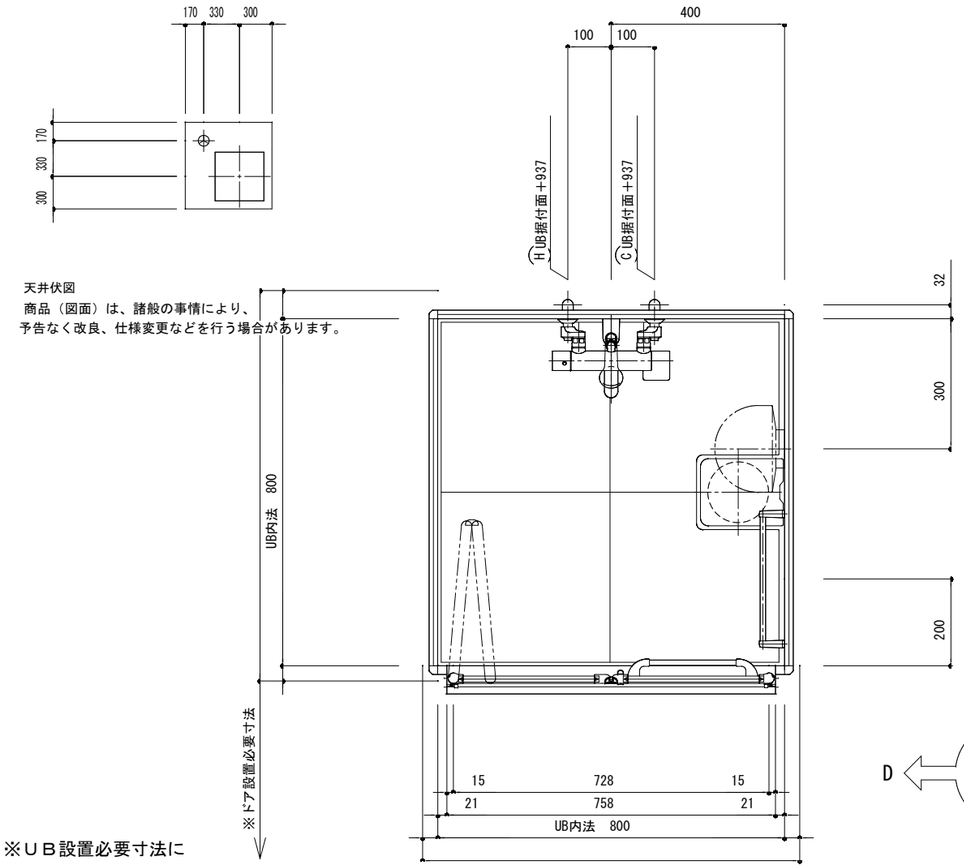


A展開

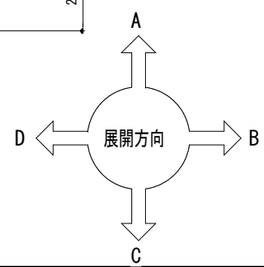


B展開

＊ＵＢ据付高さ調整範囲　１８７～２２７mm



天井伏図
商品（図面）は、諸般の事情により、
予告なく改良、仕様変更などを行う場合があります。

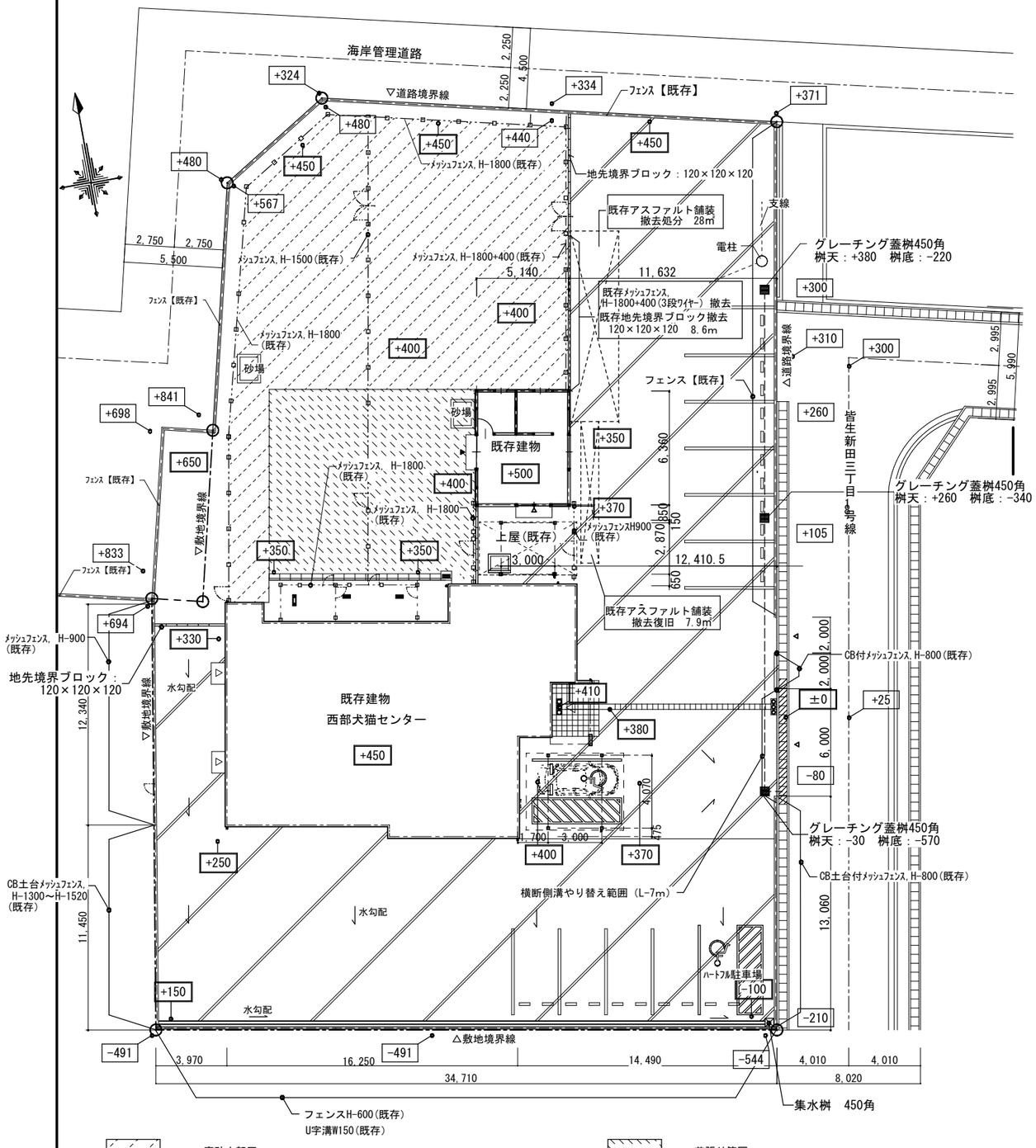


※ＵＢ設置必要寸法に
ドア設置必要寸法は含んでいません。

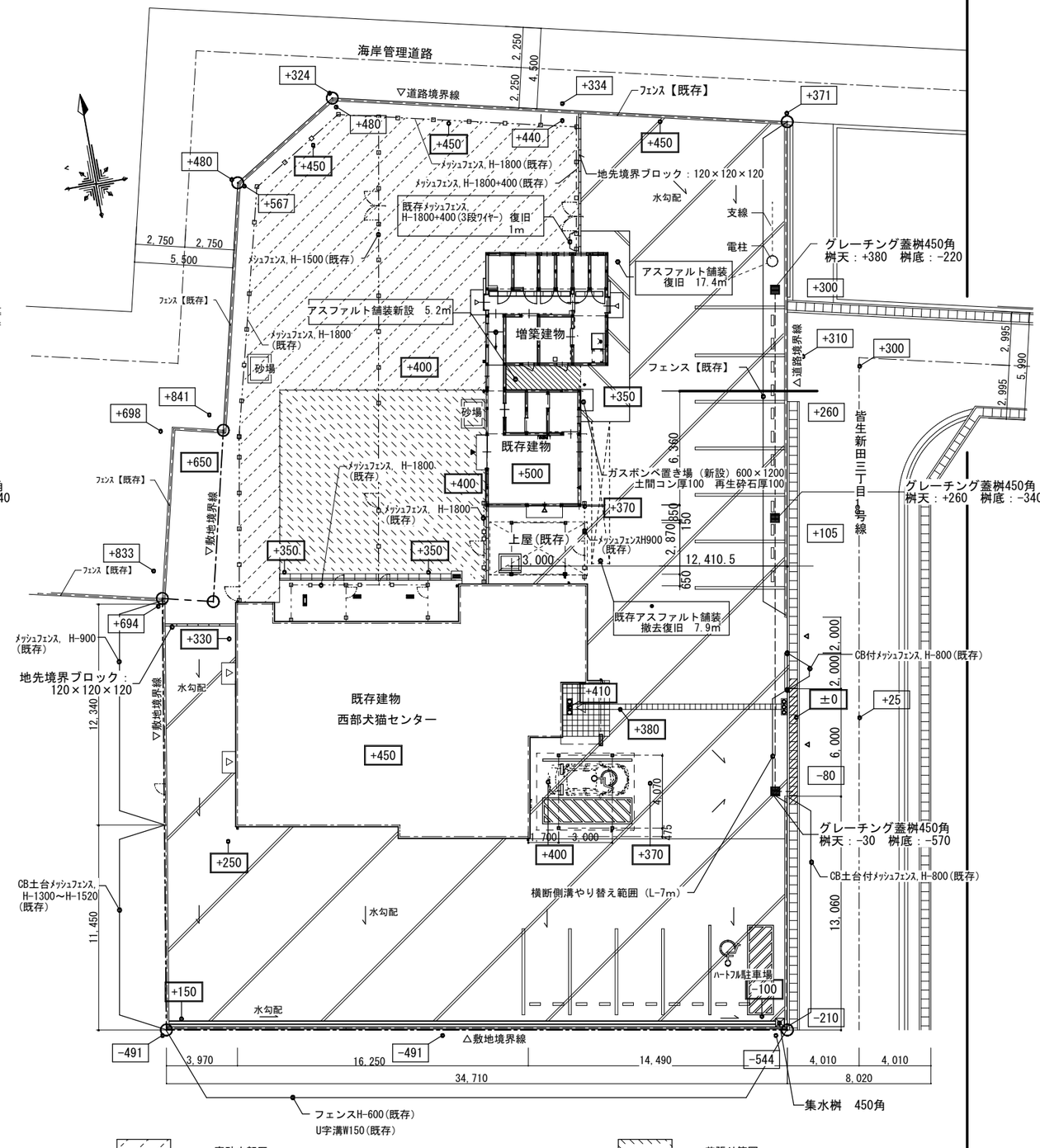
MEMO

一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録　第　119996号
羽子田　靖彦

TITLE	鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE		FILE NO.	
NAME	雑詳細図（2）	SCALE NS	DATE R08／08	SEET NO.	A － 23／26



現況外構図 S=1:200



増築後外構図 S=1:200

MEMO

一級建築士事務所 鳥取県知事登録 第 607号 有限会社 羽子田設計事務所 Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE	一級建築士登録 第 119996号 羽子田 靖彦	TITLE 鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE	FILE NO.
		NAME 外構図	SCALE 1/200 (A2) / DATE R08／08	SEET NO. A－ 24／26

外部仕上げ

屋　　根	折板屋根88ベフ付き t-0.8
玄 関 庇	ｱﾙﾐ庇W1800（出幅350）（角型RS-S2：ﾀﾞｲｹﾝ工業　同等品） ｱﾙﾐ庇W900（出幅350）（角型RS-S2：ﾀﾞｲｹﾝ工業　同等品）
外　　壁	窯業系サイディング　ヨコ張り厚14 防火構造：PC030BE-9201
軒　　天	現し（折板屋根88ベフ付き t-0.8）
樋	軒樋：カラーＶＰ　W90　受け金物ＳＵＳ　縦樋：カラー塩ビW７５　ツカミ金物　ＳＵＳ製
根 廻 り	モルタル刷毛引き　厚20
犬 走 り	床：モルタル金コテ押え20t

特　　記

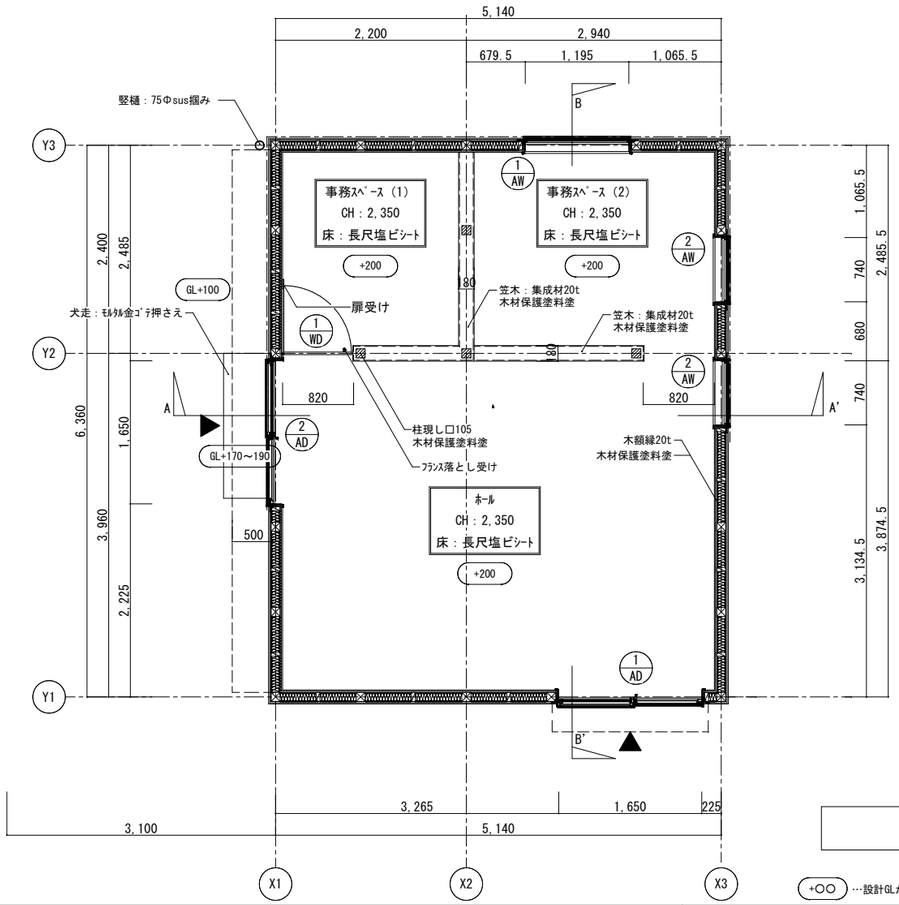
1　断熱仕様について 天井裏：グラスウールマット（24K）厚１００ 外　壁：グラスウールマット（24K）厚１００ 土間下：発泡ポリスチレン厚３０
2　内外部共　木部の見え掛かり部は全て木材保護塗料２回塗りとする。
3　内装材・下地材・接着剤等は全て　Ｆ☆☆☆適合品又は規制対象外品を使用のこと
4　FL+１０００まで　防蟻処理を行うこと
5.特記なき限り手摺・造作家具・取付部分は適切な下地補強を行う。
6.クロスの継ぎ目にはクロス用ジョイントテープを用いる。

建材認定番号

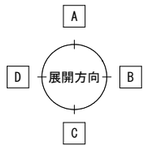
PB　9.5mm	ＱＭ－９８２８
PB　12.5mm	ＮＭ－８６１９
ＡＥＰ	ＮＭ－８５８５
ビニルクロス（準不燃）	ＱＭ－０４３３

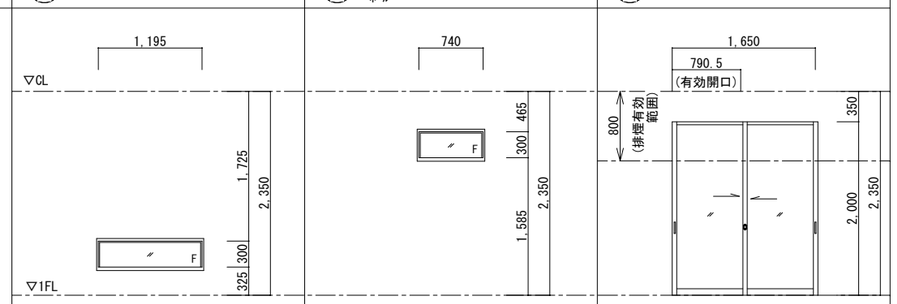
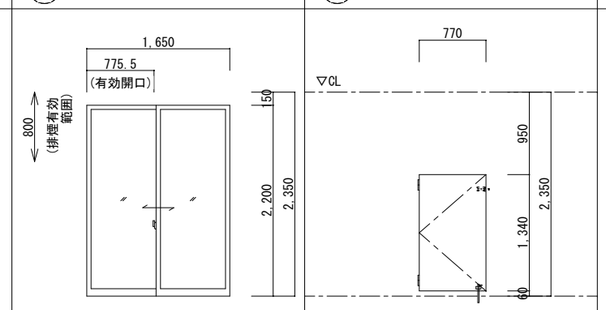
内部仕上げ

階	室 名	FL (GL=±0)	床	巾　木	壁	廻り縁	天　井	CH	備　考
1	玄 関	+200	長尺塩ビシート厚2.0　コンクリート金コテ押え下地	ビニール巾木　H－60	ビニールクロス張りＰＢ12.5下地	塩　ビ	化粧PB9.5　木組み天井下地	2,350	
	事務ｽﾍﾟｰｽ(1)	+200	長尺塩ビシート厚2.0　コンクリート金コテ押え下地	ビニール巾木　H－60	ビニールクロス張りＰＢ12.5下地	同　上	化粧PB9.5　木組み天井下地	2,350	
	事務ｽﾍﾟｰｽ(2)	+200	長尺塩ビシート厚2.0　コンクリート金コテ押え下地	ビニール巾木　H－60	ビニールクロス張りＰＢ12.5下地	同　上	化粧PB9.5　木組み天井下地	2,350	
	ﾎｰﾙ	+200	長尺塩ビシート厚2.0　コンクリート金コテ押え下地	ビニール巾木　H－60	ビニールクロス張りＰＢ12.5下地	同　上	化粧PB9.5　木組み天井下地	2,350	



平面詳細図　S＝1：50



形式・場所・数量	1/AW 事務ｽﾍﾟｰｽ (2)　1か所	2/AW 事務ｽﾍﾟｰｽ (2) ﾎｰﾙ　2か所	1/AD ﾎｰﾙ　1か所
形状			
形式・見込	FIX窓	ｱﾙﾐFIX窓	土間引戸
材質・仕上	住宅用ｱﾙﾐサッシ	住宅用ｱﾙﾐサッシ	店舗用ｱﾙﾐｻｯｼ
ｶﾞﾗｽ	複層ガラス（透3+A16＋透3）	複層ガラス（透3+A16＋透3）	複層ガラス（透3+A10＋透3）
金物	標準金物一式	標準金物一式	標準金物一式、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠、中桟無し
			網戸
備考			ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ仕様
形式・場所・数量	2/AD ﾎｰﾙ　1か所	1/WD 事務ｽﾍﾟｰｽ (1)　1か所	
形状			
形式・見込	ｱﾙﾐ引違い窓　ﾃﾗｽﾀｲﾌﾟ	自由開閉戸（片開き）　40mm	
材質・仕上	住宅用ｱﾙﾐサッシ	ﾎﾟﾘ合板F	
ｶﾞﾗｽ	複層ガラス（透3+A10＋透3）	----	
金物	標準金物一式、ｸﾚｾﾝﾄ錠、大型把手	標準金物一式、フランス落とし、ラッチ錠	
	網戸		
備考	ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ仕様	戸当たり（壁付け）	

建具表　S＝1：50

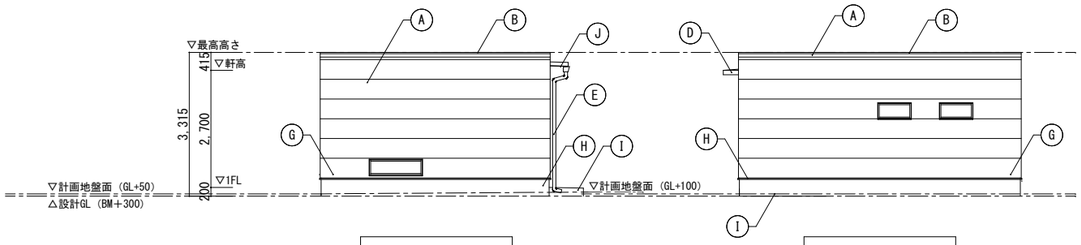
+○○…設計GLからの高さを示す。

MEMO

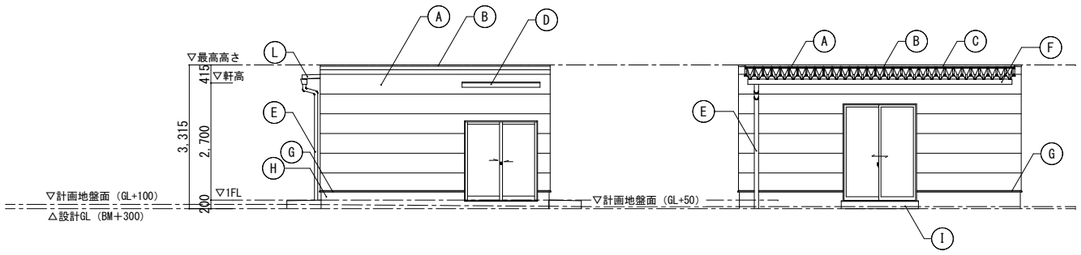
一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号　　一級建築士登録　第　119996号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
羽子田　靖彦

TITLE 鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE		FILE NO.
NAME 参考図1（既存部分：仕上表・平面詳細図・建具表）	SCALE S=1/50	DATE R08／08	SEET NO. A － 25／26

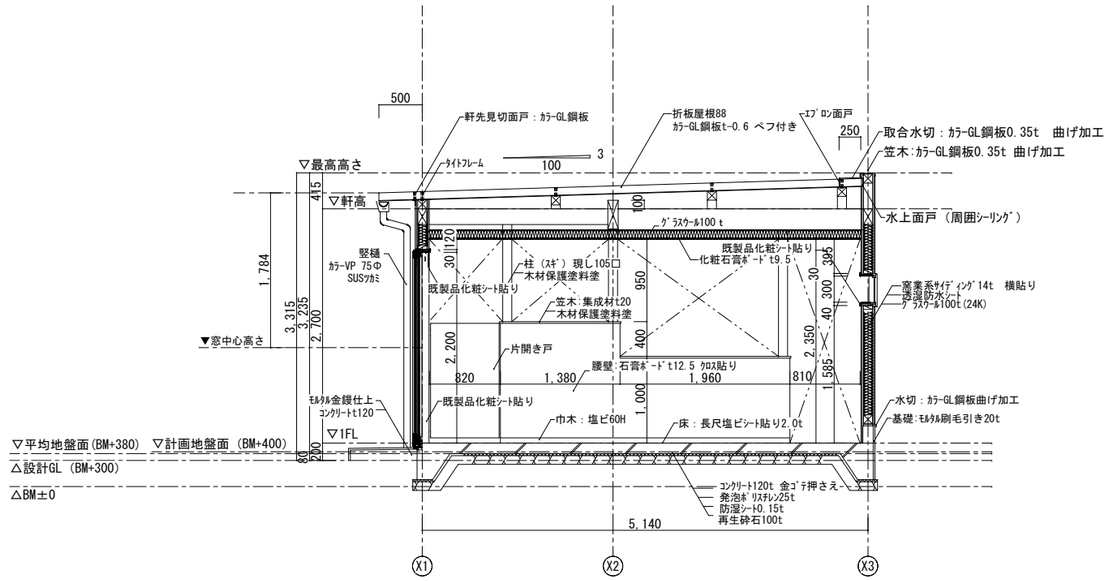
Ⓐ	外壁:窯業系ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ14t	Ⓔ	竪樋 ｶﾗｰVP W75	Ⓘ	ﾓﾙﾀﾙ金鏝押さえ20t
Ⓑ	笠木:ｶﾗｰGL鋼板0.35t 曲げ加工	Ⓕ	横樋 ｶﾗｰVP W90		
Ⓒ	屋根:ｶﾗｰGL鋼板0.4t（縦ﾊｾﾞ葺き）	Ⓖ	水切:ｶﾗｰGL鋼板		
Ⓓ	ｱﾙﾐ庇W1800(出幅350)(角型RS-S2:ﾀﾞｲｹﾝ工業)	Ⓗ	ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き20t		



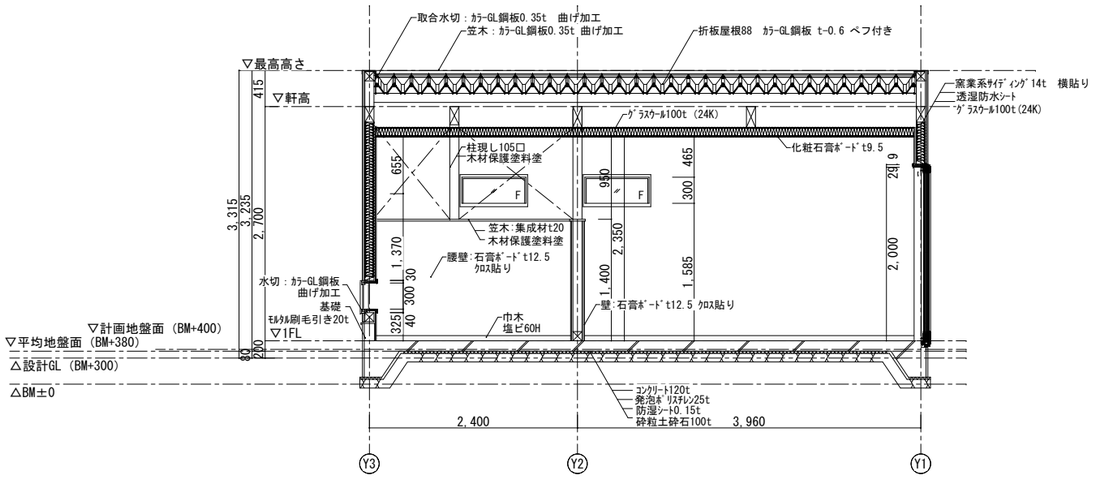
北立面図　　東立面図



南立面図　　西立面図



A-A'断面詳細図　S＝1：30



B-B'断面詳細図　S＝1：30

MEMO

一級建築士事務所　鳥取県知事登録　第　607号
有限会社 羽子田設計事務所
Y.HANEDA, ARCHITECT, OFFICE
一級建築士登録　第　119996号
羽子田　靖彦

TITLE	鳥取県西部犬猫センター増築等工事に係る整備業務	SIGNATURE	FILE NO.
NAME	参考図2（既存部分：立面図・断面詳細図）	SCALE S=1/30 / DATE R08／08	SEET NO. A－ 26／26